

2026 年度

シラバス

(講義概要)



学園設立の目的

本学園は時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を訓育する目的として設立されたものである。従って、次の学園訓を掲げる。

学園訓

気品

人を魅了し、良き師、良き友を得て、
お互いを高め合い、他者をして犯すべからざる
精神性の高さを行動すること

知性

広い視野に立ち、枝葉末節に拘泥することなく、
物事の本質を見定め、考え、判断し、
節度を持った行動をすること

奉仕

多くの人に支えられていることに感謝し、
利害得失を捨てたときに、心の底から生まれる
志に準じて行動すること

三つの方針

本学は、「学術の理論及び応用を研究教授すると共に、『建学の精神』に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物の養成」（学則第1条）を目指しています。これを受けて各学科の教育目的・目標を設け、それに向けて学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の三つを、次のとおり明確にしています。

○ 教育目標

こども学科では、「気品」「知性」「奉仕」の精神を反映、具現化させ、こども学科規則第1条で「こどもに関する専門知識を授け、向上心にあふれ優れた人格と協調性を持つ人材の育成を目的とする」という教育目的を掲げて、以下のような子どもを心から愛することができる保育者・教育者の養成を目指しています。

- (1) 気品：謙虚な中にも誇りと自信をもち、子どもたちからまねをされていていい言葉や態度が身についている。
- (2) 知性：多様な学習スタイルから、音楽、美術、体育、言葉などそれぞれの個性を活かした技術・技能を修得している。
- (3) 奉仕：子どもたちや保護者、園や社会のために、進んで行動できる人間性と実行力を有している。

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学では、建学の精神を理解するとともに、教育理念・教育目的に沿って設定された教育課程（カリキュラム）を履修して所定の単位を修得し、卒業に必要な次の能力を備えた者に卒業を認定して学位が授与されます。

【知識・理解・技能】

1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。

【関心・意欲・態度】

1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。

<授与される学位>

短期大学士（こども学）

<取得する基本となる免許・資格>

幼稚園教諭二種免許状

保育士資格

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、「気品・知性・奉仕」という建学の精神に基づき、高い品格と幅広い教養を身につけた短期大学士を育成するとともに、子どもを心から愛することができる保育者として高い専門性を有した人材を養成することを目指して、以下のカリキュラムを編成しています。

【教育科目の配置と展開】

1. 短期大学士として、建学の精神に基づく高い気品、豊かな知性、奉仕の心を身につけるために、「入門ゼミⅠ・Ⅱ」をはじめとする教養教育科目群を配置する。
2. 保育と教育の専門職に就くための免許・資格取得に必要な専門教育科目群を配置する。
3. 保育と教育に関する原理原則、あるいは子どもの心理・発達など基礎的な学習から始まり、その学びを基盤に具体的な保育の指導法や応用的、発展的な演習を実施する学びのステップに配慮した2年間の科目展開とカリキュラムを構成する。

【教育内容と方法】

1. 授業担当教員の個々の専門性や保育・教育現場経験等を生かし、エビデンスに基づいた授業を実施する。
2. 保育者に求められる高い専門性と技術を身につけるために、学生個々の関心や課題に基づいた2年間の保育研究授業や、アクティブラーニングの手法を取り入れた演習授業を実施する。
3. 保育実践能力と保育者にふさわしい倫理観及び人権意識を身につけるために、実習科目を2年間の中でバランスよく配置し、保育・教育現場と協働して実施する。

【学習成果の把握と評価の方法】

1. 各授業科目においては、適正な成績評価基準をもとに定期試験やレポート、小テスト、実技テスト、作品提出等により評価する。
2. 保育実習や教育実習の評価や講評と実習の事前事後指導にかかわる課題の達成状況を評価した上で、精査、吟味し、学修成果を把握する。
3. 学生が開講期ごとに実施する「履修カルテ」を使った自己評価や学習成果の把握に関するアンケートの集計結果など、学生自身が自己評価した学習成果に関する資料やデータの活用や、教員が把握している学生個々の履修状況や学習態度等の情報を加味し、総合的に学習成果を把握、評価する。

3. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」の精神が備わった人間性豊かな人材の育成を理解し、幅広い教養と高い専門知識や技術を身につけ、社会に貢献しようとする意欲ある人材を求めています。

【基礎的知識・技能】

将来の自己実現に結びつく知識や技能を持ち、高等学校卒業程度の学力を有している。

【思考・判断・表現】

子どもを取り巻く事象を多面的にかつ深く考えることができ、分かりやすく説明することができる。

【主体的学習態度】

子どもの保育や教育、子育てに興味や関心があり、将来子どもに関わる仕事に就きたい気持ちがある。

学習成果評価指標

学習成果を評価・検証するために、次のような評価指標を定めています

1) 機関レベル（大学）

学生の卒業時での学習成果の達成状況（就職率、資格取得、卒業時アンケート調査など）を検証する。

検証結果は、本学の現状把握、全学的な教育改革・改善、学生・学習支援の改善等に活用する。

2) 教育課程レベル（学科）

こども学科での学習状況（修得単位数、資格取得状況、GPA、退学率、学生生活アンケート調査など）から教育課程全体を通じた学習成果の達成状況を検証する。

3) 授業科目レベル（各科目）

シラバスに示された授業科目の到達目標への達成状況（成績評価、学生授業アンケートなど）から科目ごとの学習成果の達成状況を検証する。（科目の成績評価は、科目特性や到達目標などを踏まえて、教員がシラバスに明示した評価方法で行う。）

	入学時 (アドミッション・ポリシーを 満たす人材かどうか)	在学中 (カリキュラム・ポリシーに 則って学習が進められて いるかどうか)	卒業時 (ディプロマ・ポリシーを 満たす人材になったか どうか)
機関レベル (大学)	<ul style="list-style-type: none"> 入学前面談 入学試験 (調査書・活動報告書・面接票) 	<ul style="list-style-type: none"> 修得単位数 GPA 得点 実習評価（保育・教育） 学生生活アンケート 退学率、休学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 資格取得数（率） 就職先（進学先） 卒業時アンケート 就職先アンケート
教育課程 レベル (学科)	<ul style="list-style-type: none"> 入学前面談 入学試験 (調査書・活動報告書・面接票) 入学前教育 (プレカレッジ) 入学生アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 履修状況 授業外学習状況 定期試験 修得単位数 GPA 得点 人財チェックシート 実習審査日本語表現テスト 純真検定 授業成果報告書 教職課程履修カルテ 実習評価（保育・教育） 実習巡視報告書 学生生活アンケート 個別面談 退学、休学状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 資格取得数（率） 就職率（進学率） 卒業時アンケート 就職先アンケート
授業科目 レベル (各科目)	<ul style="list-style-type: none"> 入学前教育 (プレカレッジ) 	<ul style="list-style-type: none"> 出席率 学習成果到達度 (ルーブリック評価) 小テスト・課題など評価 定期試験成績評価 学生授業評価アンケート 評価に関するコメント 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時アンケート 就職先アンケート

(本学はこども学科単科のため、機関レベルと教育課程レベルの項目は重複する。)



- 卒業必修
- ※1 選択必修
- ※2 1・2年にまたがる

履修系統図

専門 教育科目

保育者になるための基礎を学ぶ科目です。
乳幼児期の教育と保育に関する専門的な知識と実践的な技術を学びます。

保育士

必修	選択
子ども家庭福祉	保育実習Ⅱ ※1
子ども家庭支援論	保育実習指導Ⅱ ※1
子ども家庭支援の心理学	保育実習Ⅲ ※1
子どもの理解と援助	保育実習指導Ⅲ ※1
子どもの食と栄養	カウンセリングⅡ
乳児保育Ⅱ	
子どもの健康と安全	
特別支援保育	
社会的養護Ⅱ	
子育て支援	
保育実習Ⅰ(保育所)	
保育実習指導Ⅰ(保育所)	

共通科目

必修	選択
保育内容(人間関係)指導法	音楽Ⅲ
保育内容(環境)指導法	音楽Ⅳ
保育内容(言葉)指導法	
保育内容(音楽表現)指導法	
保育内容(造形表現)指導法	
保育内容(身体表現)指導法	
保育内容応用指導法	
●ゼミナールⅠ	
●ゼミナールⅡ	
保育・教職実践演習(幼稚園)	

幼稚園教諭

必修
学校経営と管理
幼児教育方法論
教育相談と幼児理解
教育実習(幼稚園)Ⅰ ※2
教育実習(幼稚園)Ⅱ

2年

1年

社会福祉	カウンセリングⅠ
保育原理	
社会的養護Ⅰ	
子どもの保健	
保育内容総論	
乳児保育Ⅰ	
保育実習Ⅰ(施設)	
保育実習指導Ⅰ(施設)	

●幼児教育者論	教職教養演習Ⅰ
●教育原理	教職教養演習Ⅱ
●こども学	
●育ちと学びの心理学	
教育課程と保育の計画・評価	
保育内容(健康)指導法	
●特別支援教育	
保育者のための社会人基礎講座	
●子どもと健康	
●子どもと人間関係	
●子どもと環境	
●子どもと言葉	
●子どもと表現	
音楽Ⅰ	
音楽Ⅱ	



教養 教育科目

社会人として、また保育者として必要な教養を身につけるための科目です。
選択科目では地域や福祉、異文化についてなど幅広く学ぶことができます。

必修
●入門ゼミⅠ
●入門ゼミⅡ
●日本語表現Ⅰ
●日本語表現Ⅱ
●心理学入門
●日本国憲法
●英語コミュニケーションⅠ
●英語コミュニケーションⅡ
●生涯スポーツ・レクリエーションⅠ
●生涯スポーツ論
コンピュータ基礎演習Ⅰ

選択	
ボランティア概論	コンピュータ基礎演習Ⅱ
ボランティア実習	生涯スポーツ・レクリエーションⅡ
手話	レクリエーション概論
暮らしと環境	キャリアデザイン
ふるさと学	異文化理解

履修系統図

専門 教育科目

保育者になるための基礎を学ぶ科目です。乳幼児期の教育と保育に関する専門的な知識と実践的な技術を学びます。

教養 教育科目

社会人として、また保育者として必要な教養を身につけるための科目です。選択科目では地域や福祉、異文化についてなど幅広く学ぶことができます。

専門 教育科目

保育士

▼ 必修	▼ 選択
子ども家庭福祉	保育実習Ⅱ ※1
子ども家庭支援論	保育実習指導Ⅱ ※1
子ども家庭支援の心理学	保育実習Ⅲ ※1
子どもの理解と援助	保育実習指導Ⅲ ※1
子どもの食と栄養	カウンセリングⅡ
乳児保育Ⅰ	
乳児保育Ⅱ	
子どもの健康と安全	
特別支援保育	
社会的養護Ⅱ	
子育て支援	
保育実習Ⅰ(保育所)	
保育実習指導Ⅰ(保育所)	

共通科目

▼ 必修	▼ 選択
保育内容(環境)指導法	音楽Ⅲ
保育内容(言葉)指導法	音楽Ⅳ
保育内容(音楽表現)指導法	
保育内容(造形表現)指導法	
保育内容(身体表現)指導法	
保育内容応用指導法	
●ゼミナールⅠ	
●ゼミナールⅡ	
保育・教職実践演習(幼稚園)	

幼稚園教諭

▼ 必修
学校経営と管理
幼児教育方法論
教育相談と幼児理解
教育実習(幼稚園)Ⅰ ※2
教育実習(幼稚園)Ⅱ

2年

1年

社会福祉	カウンセリングⅠ
保育原理	
社会的養護Ⅰ	
子どもの保健	
保育内容総論	
保育実習Ⅰ(施設)	
保育実習指導Ⅰ(施設)	

● 幼児教育者論	教職教養演習Ⅰ
● 教育原理	教職教養演習Ⅱ
● こども学	
● 育ちと学びの心理学	
教育課程と保育の計画・評価	
保育内容(健康)指導法	
保育内容(人間関係)指導法	
● 特別支援教育	
保育者のための社会人基礎講座	
● 子どもと健康	
● 子どもと人間関係	
● 子どもと環境	
● 子どもと言葉	
● 子どもと表現	
音楽Ⅰ	
音楽Ⅱ	

教育実習(幼稚園)Ⅰ ※2

教養 教育科目

▼ 必修
● 入門ゼミⅠ
● 入門ゼミⅡ
● 日本語表現Ⅰ
● 日本語表現Ⅱ
● 心理学入門
● 日本国憲法
● 英語コミュニケーションⅠ
● 英語コミュニケーションⅡ
● 生涯スポーツ・レクリエーションⅠ
● 体育講義・女性のからだと健康
コンピュータ基礎演習Ⅰ

▼ 選択	
ボランティア概論	コンピュータ基礎演習Ⅱ
ボランティア実習	生涯スポーツ・レクリエーションⅡ
手話	レクリエーション概論
暮らしと環境	キャリアデザイン
ふるさと学	異文化理解

● 卒業必修
 ※1 選択必修
 ※2 1・2年にまたがる

カリキュラムマップ
 < 2026年度入学者 >

科目の種類別	授業科目	ナンバリング	ディプロマポリシー			授業形態	半/通	年次配当 開講時期		単位数 (卒業条件)		保育士資格		幼稚園教諭 2種免許状		社会福祉 主事任用 資格		その他		備考	
			知識 理解 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度			1年	2年	必修	選択	必修	選択	必修	選択	選択必修	必修	必修			
																			1		2
専門 教育 科目	音楽 I	2325	①③	③		演習	半期	1		1	1	1	1								
	音楽 II	2326	①③	③	②	演習	半期	1		1	1	1	1								
	音楽 III	2327	①③	③		演習	半期		1	1	1	1	1								
	音楽 IV	2328	①③	③		講義	半期		1	1	1	1	1								
	カウンセリング I	2329	①	①	③	講義	半期	2		2	2	2	2						2	ピアヘルパー受験資格必修	
	カウンセリング II	2330	③	①	②③	演習	半期		2	2	2	2	2						2	ピアヘルパー受験資格必修	
	ゼミナール I	2331	③	③	②	演習	半期		1	1											
	ゼミナール II	2332	①	①	①②	演習	半期		1	1											
	生後指導 教育相談	教育相談と幼児理解	2401	①②	①	①③	講義	半期		2	2		2								
	総合演習 教育実践	保育・教職実践演習(幼稚園)	2501	③	①	②	演習	半期		2	2	2	2								
	実習	教職教養演習 I	2601	①	①	①②	演習	半期	1		1										
		教職教養演習 II	2602	①	①②	①②	演習	半期	1		1										
		保育実習 I (保育所)	2701	②	②	③	実習	注)		2	2	2	2						2		
		保育実習指導 I (保育所)	2702	①	②	③	演習	半期		1	1	1	1								
		保育実習 I (施設)	2703	①	①③	①③	実習	注)	2		2	2	2							2	
		保育実習指導 I (施設)	2704	①③	①③	①②③	演習	半期	1		1	1	1								
		保育実習 II	2705	③	①	②	実習	注)		2	2	2	2								
		保育実習指導 II	2706	③	①	②	演習	半期		1	1	1	1								
		保育実習 III	2707	①③	①②	①②③	実習	注)		2	2	2	2								
		保育実習指導 III	2708	②	①	①③	演習	半期		1	1	1	1								
教育実習(幼稚園) I	2709	①③	②③	②	演習	通年		1	1	1	1										
教育実習(幼稚園) II	2710	③	②③	②	実習	注)		4	4	4	4						4				
専門教育科目 小計(単位数)								42	49	17	74	49	12	27	2	10	8	6			
専門教育科目 小計(科目数)								27	33	12	48	33	8	18	2	5	3	3			
科目の種類別	授業科目					授業形態	授業時数	年次配当 開講時期		単位数 (卒業条件)		保育士資格		幼稚園教諭 2種免許状		社会福祉 主事任用 資格		その他		備考	
総単位数								71	51	30	92	51	28	29	3	-	7	6	(単位)		
総科目数	81科目							47	34	22	59	34	18	19	3	3科目以上	4	3	(科目)		

注): 保育実習 I (保育所): 保育所実習(10日間)
 保育実習 I (施設): 施設実習(10日間)
 保育実習 II: 保育所実習(10日間)
 保育実習 III: 施設実習(10日間)
 教育実習(幼稚園) II: 幼稚園実習(4週間)

カリキュラムマップ
 < 2025年度入学者 >

科目の種類別	授業科目	ナンバリング	ディプロマポリシー			授業形態	半/通	年次配当 開講時期		単位数 (卒業条件)		保育士資格		幼稚園教諭 2種免許状		社会福祉 主事任用 資格		その他		備考	
			知識 理解 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度			1年	2年	必修	選択	必修	選択	必修	選択	選択必修	必修	必修			
																			1		2
専門 教育 科目	音楽Ⅰ	2325	①③	③		演習	半期	1		1	1										
	音楽Ⅱ	2326	①③	③	②	演習	半期	1		1	1			1							
	音楽Ⅲ	2327	①③	③		演習	半期		1	1				1							
	音楽Ⅳ	2328	①③	③		講義	半期		1	1				1							
	カウンセリングⅠ	2329	①	①	③	講義	半期	2			2			2					2	ピアヘルパー受験資格必修	
	カウンセリングⅡ	2330	③	①	②③	演習	半期		2		2			2					2	ピアヘルパー受験資格必修	
	ゼミナールⅠ	2331	③	③	②	演習	半期		1	1											
	ゼミナールⅡ	2332	①	①	①②	演習	半期		1	1											
	生後指導 教育相談	教育相談と幼児理解	2401	①②	①	①③	講義	半期		2	2				2						
	総合演習 教育実践	保育・教職実践演習(幼稚園)	2501	③	①	②	演習	半期		2	2	2			2						
	実習	教職教養演習Ⅰ	2601	①	①	①②	演習	半期	1			1									
		教職教養演習Ⅱ	2602	①	①②	①②	演習	半期	1			1									
		保育実習Ⅰ(保育所)	2701	②	②	③	実習	注)		2	2	2							2		
		保育実習指導Ⅰ(保育所)	2702	①	②	③	演習	半期		1		1	1								
		保育実習Ⅰ(施設)	2703	①	①③	①③	実習	注)	2			2	2							2	
		保育実習指導Ⅰ(施設)	2704	①③	①③	①②③	演習	半期	1			1	1								
		保育実習Ⅱ	2705	③	①	②	実習	注)		2	2	2									
		保育実習指導Ⅱ	2706	③	①	②	演習	半期		1		1	1								保育士資格を取得するものは、いずれかを選択必修
		保育実習Ⅲ	2707	①③	①②	①②③	実習	注)		2	2	2	2								
		保育実習指導Ⅲ	2708	②	①	①③	演習	半期		1		1	1								
教育実習(幼稚園)Ⅰ	2709	①③	②③	②	演習	通年		1		1				1					レクリエーション・インストラクター資格を取得する者は、3単位以上の実習を履修すること		
教育実習(幼稚園)Ⅱ	2710	③	②③	②	実習	注)		4		4				4			4				
専門教育科目 小計(単位数)								41	50	17	74	49	12	27	2	10	8	6			
専門教育科目 小計(科目数)								27	33	12	48	33	8	18	2	5	3	3			
科目の種類別	授業科目					授業形態	授業時数	年次配当 開講時期		単位数 (卒業条件)		保育士資格		幼稚園教諭 2種免許状		社会福祉 主事任用 資格		その他		備考	
総単位数								70	52	30	92	51	28	29	3	-	7	6	(単位)		
総科目数	81科目							47	34	22	59	34	18	19	3	3科目以上	4	3	(科目)		

注): 保育実習Ⅰ(保育所):保育所実習(10日間)
 保育実習Ⅰ(施設):施設実習(10日間)
 保育実習Ⅱ:保育所実習(10日間)
 保育実習Ⅲ:施設実習(10日間)
 教育実習(幼稚園)Ⅱ:幼稚園実習(4週間)

I.1年生履修科目		ページ
入門ゼミⅠ	加藤 房江 高橋 努 片口 桂 小川 弥輪 眞柄 絵里	1
入門ゼミⅡ	加藤 房江 高橋 努 片口 桂 小川 弥輪 眞柄 絵里	3
日本語表現Ⅰ	山畑 昭司	5
日本語表現Ⅱ	山畑 昭司	7
心理学入門	山田 耕平	9
ボランティア概論	伊藤 道雄	11
ボランティア実習	高橋 努	13
手話	今西 理枝子	15
暮らしと環境	高橋 努	17
ふるさと学	布施 由起	19
日本国憲法	高乗 正臣	21
英語コミュニケーションⅠ	後藤 範子	23
英語コミュニケーションⅡ	後藤 範子	25
コンピュータ基礎演習Ⅰ	小松 和弘	27
コンピュータ基礎演習Ⅱ	小松 和弘	29
生涯スポーツ・レクリエーションⅠ	柿沼 耕一	31
生涯スポーツ・レクリエーションⅡ	金 美珍	33
生涯スポーツ論	金 美珍	35
キャリアデザイン	三友 玲子	37
異文化理解	金 美珍 鈴木 一代	39
社会福祉	浅野 瞳	41
保育原理	三友 玲子	43
幼児教育者論	眞柄 絵里	45
社会的養護Ⅰ	高橋 努	47
教育原理	伊藤 道雄	49
こども学	塚越 亜希子	51
育ちと学びの心理学	加藤 達矢	53
子どもの保健	片口 桂	55

教育課程と保育の計画・評価	眞柄 絵里	57
保育内容総論	塚越 亜希子	59
	三友 玲子		
保育内容(健康)指導法	井上 裕美子	61
乳児保育 I	加藤 房江	63
特別支援教育	伊藤 道雄	65
保育者のための社会人基礎講座	三友 玲子	67
子どもと健康	金 美珍	69
子どもと人間関係	布施 由起	71
子どもと環境	片口 桂	73
子どもと言葉	細田 香織	75
子どもと表現	金 美珍	77
	小川 弥輪		
	小日向 千秋		
音楽 I	瀬戸 奏	79
	小川 弥輪		
	青木 彩賀		
	源田 久美		
	関田 彩夏		
	野本 裕美子		
音楽 II	瀬戸 奏	81
	小川 弥輪		
	青木 彩賀		
	源田 久美		
	関田 彩夏		
	野本 裕美子		
カウンセリング I	布施 由起	83
	山田 耕平		
教職教養演習 I	山畑 昭司	85
教職教養演習 II	山畑 昭司	87
保育実習 I (施設)	高橋 努	89
	浅野 瞳		
保育実習指導 I (施設)	高橋 努	91
	浅野 瞳		
教育実習(幼稚園) I	片口 桂	93
	井上 裕美子		
教育実習(幼稚園) II	片口 桂	95
	井上 裕美子		

Ⅱ.2年生履修科目

レクリエーション概論	金 美珍	97
子ども家庭福祉	山田 耕平	99
学校経営と管理	山畑 昭司	101
子ども家庭支援論	山田 耕平	103
子ども家庭支援の心理学	加藤 達矢	105
子どもの理解と援助	加藤 達矢	107
子どもの食と栄養	波田野 尚美	109
保育内容(環境)指導法	塚越 亜希子	111
保育内容(言葉)指導法	細田 香織	113
保育内容(音楽表現)指導法	眞柄 絵里	115
保育内容(造形表現)指導法	小日向 千秋	117
保育内容(身体表現)指導法	金 美珍	119
保育内容応用指導法	瀬戸 奏	121
	小川 弥輪		
保育内容応用指導法	小日向 千秋	123
幼児教育方法論	塚越 亜希子	125
	井上 裕美子		
乳児保育Ⅱ	加藤 房江	127
子どもの健康と安全	片口 桂	129
特別支援保育	布施 由起	131
社会的養護Ⅱ	高橋 努	133
	浅野 瞳		
子育て支援	浅野 瞳	135
音楽Ⅲ	瀬戸 奏	137
	小川 弥輪		
	青木 彩賀		
	源田 久美		
	関田 彩夏		
	野本 裕美子		
音楽Ⅳ	瀬戸 奏	139
	青木 彩賀		
	源田 久美		
	関田 彩夏		
	野本 裕美子		
カウンセリングⅡ	山田 耕平	141
ゼミナールⅠ	浅野 瞳	143
ゼミナールⅠ	井上 裕美子	145
ゼミナールⅠ	小川 弥輪	147
ゼミナールⅠ	片口 桂	149
ゼミナールⅠ	加藤 房江	151
ゼミナールⅠ	瀬戸 奏	153
ゼミナールⅠ	高橋 努	155
ゼミナールⅠ	眞柄 絵里	157
ゼミナールⅠ	山田 耕平	159
ゼミナールⅡ	浅野 瞳	161
ゼミナールⅡ	井上 裕美子	163

ゼミナールⅡ	小川 弥輪	165
ゼミナールⅡ	片口 桂	167
ゼミナールⅡ	加藤 房江	169
ゼミナールⅡ	瀬戸 奏	171
ゼミナールⅡ	高橋 努	173
ゼミナールⅡ	眞柄 絵里	175
ゼミナールⅡ	山田 耕平	177
教育相談と幼児理解	山田 耕平	179
保育・教職実践演習(幼稚園)	浅野 瞳	181
	片口 桂		
	加藤 房江		
	高橋 努		
	布施 由起		
	眞柄 絵里		
	山田 耕平		
保育実習Ⅰ(保育所)	加藤 房江	183
	眞柄 絵里		
保育実習指導Ⅰ(保育所)	加藤 房江	185
	眞柄 絵里		
保育実習Ⅱ	加藤 房江	187
	眞柄 絵里		
保育実習指導Ⅱ	加藤 房江	189
	眞柄 絵里		
保育実習Ⅲ	高橋 努	191
保育実習指導Ⅲ	高橋 努	193
教育実習(幼稚園)Ⅰ	片口 桂	195
	井上 裕美子		
教育実習(幼稚園)Ⅱ	片口 桂	197
	井上 裕美子		

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：入門ゼミ I 英語表記：Freshman Seminar I		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江 高橋努、片口桂 小川弥輪、眞柄絵里
ナンバリング：1001			担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 建学の精神「気品」「知性」「奉仕」を理解し、具体的な行動指針を意識して学習と生活に活かすことができる。 2. 人間として保育者として必要となる教養を身につける。 3. 学習の基礎・基本、そして大学での学び方を知り、実践できる。			
【授業の概要】 本学における2年間の生活と学びの基礎として、建学の精神の理解や学習の基礎と基本を学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・大学で学ぶ意義 第2回：図書館の利用方法・文献の読み方 第3回：情報モラルとメディア・リテラシー 第4回：行事の企画と運営 第5回：学外研修 ① (マナーを身につける) 第6回：学外研修 ② (保育者としてのホスピタリティを学ぶ) 第7回：学びの技術を知る 第8回：信頼される保育者を目指して 第9回：ボランティアについて 第10回：教養としての日本文化① 第11回：教養としての日本文化② 第12回：金融教育について (お金と経済の仕組みを学ぶ) 第13回：安全と健康について 第14回：自己分析 (どんな自分になりたいか) 第15回：これまでの学びを通して自己課題と行動指針を考える 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 授業ごとに予習・復習、課題に取り組むこと (1時間) ※保育者の教養として必要となる漢字のテストを実施するため事前に勉強を行うこと。	

【授業の方法】 講義とディスカッション、発表。発表や提出物に対し、それぞれの気づきを共有できるよう教員がコメントする。	
【テキスト】 特に指定しない。適宜プリント等を配布する。	
【参考書・参考資料等】 課題に関する資料をプリント等で配布する。	
【学生に対する評価】 課題・提出物（50%）、発表内容・授業参画度・学びの成果（50%）などを総合的に評価する。	
【履修上の注意】 社会人としてのマナーを身につけるため、毎回の授業はスーツで参加すること。 授業内で実習に必要な漢字テストを行うのでしっかりと予習をすること。 真摯な態度で授業に臨むこと。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：入門ゼミⅡ 英語表記：Freshman SeminarⅡ		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江 高橋努、片口桂 小川弥輪、眞柄絵里
ナンバリング：1002			担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 本学での学習、生活を一層充実させるために自己の目標に向けた学び方を習得し実践できる 2. 将来、本学の出身者として「気品」「知性」「奉仕」の精神をしっかりと身につけた一人の社会人として活躍することができるよう、生涯にわたる《自分磨き》の方法を学び、実践できる。 3. 問題意識を高め、情報収集力と発信力を身につけることができる。			
【授業の概要】 自己の目標に向けた学び方を習得するとともに実践に移せるようにする。また、本学の建学の精神を理解し実体のある行動として表現できるようにする。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：行事の企画と運営① 第2回：行事の企画と運営② 第3回：自己分析① 第4回：自己分析② 第5回：社会人基礎力を身につける① 第6回：社会人基礎力を身につける② 第7回：保育・教育の環境設定① 第8回：保育・教育の環境設定② 第9回：地域や行政について学ぶ 第10回：「読める・書ける・話せる」ために① 第11回：「読める・書ける・話せる」ために② 第12回：プレゼンテーションの方法 第13回：プレゼンテーションの実践① 第14回：プレゼンテーションの実践② 第15回：プレゼンテーションの実践③ まとめ		【授業時間外の学習】 毎回の授業に関する調査と課題（1時間） 企画・立案・準備（1時間） 振り返り（30分） 毎回の授業のテーマに関する調査と課題（1時間） プレゼンテーションの準備と振り返り（1時間） レポート作成	

定期試験：なし	
【授業の方法】 講義とディスカッション、発表。発表や提出物に対し、それぞれの気づきを共有できるよう教員がコメントする。	
【テキスト】 特に指定しない。適宜プリント等を配布する。	
【参考書・参考資料等】 課題に関する資料をプリント等で配布する。	
【学生に対する評価】 課題・提出物（50％）、発表内容・授業参画度・学びの成果（50％）などを総合的に評価する。	
【履修上の注意】 社会人としてのマナーを身につけるため、基本的にスーツで参加すること。 毎回、小テストと課題を出すので、予習と復習をすること。 真摯な態度で授業に臨むこと。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：日本語表現 I		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：山畑昭司
英語表記：Japanese Language Expression I			担当形態：単独
ナンバリング：1003			
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 保育者になるために必要な国語表現技術を身に付け、実践に生かすことができる。 2. 多様な語彙や表現を知り、他者に伝えることを意識して文章を書くことができる。 3. 自らの学びを言語化する「振り返り」を行うことで、学びの内省を図り、実践に生かすことができる。			
【授業の概要】			
2年後に保育者となることを想定し、どのような日本語力が求められるか考え、それらを意識した上で実践力を培う。また保育者に必要な漢字・敬語・文章表現の力を、繰り返し学習する中で身に付ける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション、保育者に求められる国語の力		＜毎回1時間程度＞	
第2回：聞き取りやすい話し方、幼稚園・保育所で使う漢字50		・復習を兼ねた小テスト（漢字）に向けての学習	
第3回：当て字を正しく書こう			
第4回：漢字テスト①、実習日誌を書く時の注意(1)綺麗な言葉遣い			
第5回：実習日誌を書く時の注意(2)話し言葉を書き言葉に			
第6回：漢字テスト②、敬語の種類			
第7回：間違いやすい敬語、敬語・練習問題			
第8回：読書感想文の書き方、実習日誌から間違いやすい漢字50			
第9回：漢字テスト③、尊敬語・謙譲語の応用、敬語を正しく直す			
第10回：暑中見舞い・残暑見舞いの書き方			
第11回：漢字テスト④、暑中見舞いを書く（下書き→清書）			
第12回：正しい文字の書き方			
第13回：絵本の読み聞かせ（基本、実践練習）			
第14回：漢字テスト⑤、電話の対応（敬語表現に置き換えて）			
第15回：保育者の自己紹介の仕方、前期試験について			
定期試験：筆記			

【授業の方法】 講義と演習（グループ活動）を組み合わせで行う。小テストや授業後に提出するプリントをチェックしフィードバックする。	
【テキスト】 適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 適宜プリントを配布する。	
【学生に対する評価】 小テスト（20%）、提出物・発表・授業への参加態度等（20%）、定期試験（60%）を総合的に判断して評価する。	
【履修上の注意】 ・主体的に学習に臨むこと。 ・出席と授業参加態度の重要性を強く認識すること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元公立中学校国語科教諭、元県教育局教育事務所国語科担当指導主事
【実務経験を生かした教育内容】 国語科教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、日本語力の向上を図る。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：日本語表現Ⅱ		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：山畑昭司
英語表記：Japanese Language ExpressionⅡ			担当形態：単独
ナンバリング：1004			
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 「話す」「聞く」「書く」「読む」を中心に、保育にかかわる実践的な日本語力を身につけることができる。 2. 保育者として必要な文章の書き方や表現の基本的事項について学び、他者に伝わる文章を書くことができる。 3. 漢字、敬語、文法、文章表現について、保育者として必要な力を身に付けることができる。			
【授業の概要】 保育者に求められる「他者が読んで分かりやすい文章の書き方」や、発声・発音の仕方等について演習し、様々な観点から保育者に求められる日本語力を高める。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション、幼稚園前半実習の振り返り 第2回：漢字・慣用句・四字熟語、実習日誌からの漢字50 第3回：漢字・慣用句・四字熟語テスト、課題レポートの書き方 第4回：漢字テスト①、誤りやすい用字用語・慣用句 第5回：漢字テスト②、読み聞かせの基本、読み聞かせ実践練習 第6回：連絡帳やお便り帳の書き方（事実と意見を区別して書く） 第7回：否定的・肯定的な言い方 第8回：否定的・肯定的な言い方（2）、実習日誌からの漢字80 第9回：漢字テスト③、誤りやすい言葉（ら抜き言葉など） 第10回：漢字テスト④、敬語・言葉の使い方 第11回：尊敬語・謙譲語の練習、事実と意見を区別して書く 第12回：話し言葉を書き言葉に 第13回：実習審査・日本語表現テスト 第14回：保育者を目指した志望動機の書き方 第15回：復習とまとめ 定期試験：筆記			【授業時間外の学習】 <毎回1時間程度> ・復習を兼ねた、小テスト（漢字テスト）のための学習 ・相互読み聞かせの練習

【授業の方法】 講義と演習（ループ活動）を組み合わせで行う。小テストや授業後に提出するプリントをチェックしフィードバックする。	
【テキスト】 適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 適宜プリントを配布する。	
【学生に対する評価】 小テスト（20%）、提出物・発表・授業への参加態度等（20%）、定期試験（60%）を総合的に判断して評価する。	
【履修上の注意】 ・主体的に学習に臨むこと。 ・授業の最初に読み聞かせを行う。担当学生は必ず下読みをして準備すること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元公立中学校国語科教諭、元県教育局教育事務所国語科担当指導主事
【実務経験を生かした教育内容】 国語科教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、日本語力の向上を図る。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：心理学入門 英語表記：Introduction to Psychology ナンバリング：1005		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：山田耕平 担当形態：単独
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 心理学の基礎知識を身につけることができる。 2. 心理学の基本的な諸概念を理解できる。 3. 心理学の視点から、人間の行動を理解し説明することができる。			
【授業の概要】 心理学の基本的な知識を学び、保育の現場で活用な思考・方法を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション、心理学とは（概説） 第2回：パーソナリティ心理学① 第3回：パーソナリティ心理学② 第4回：知覚・認知心理学① 第5回：知覚・認知心理学② 第6回：発達心理学① 第7回：発達心理学② 第8回：学習心理学 第9回：社会心理学① 第10回：社会心理学② 第11回：臨床心理学① 第12回：臨床心理学② 第13回：臨床心理学③ 第14回：臨床心理学④ 第15回：まとめ・授業内試験 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 ・毎回の講義を必ず復習し、学びや気づきを整理すること。（毎回1時間程度） ・講義内で学習した知識について、実生活で検証を行うこと。	
【授業の方法】 講義、ディスカッション。 Google Classroomを用いて、授業感想や質問に対するフィードバックを行う。			

【テキスト】

指定なし。適宜プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

- ・『セラピストのための子どもの発達ガイドブック:0歳から12歳まで 年齢別の理解と心理的アプローチ』（著）Dee C.Ray（訳）小川裕美子・湯野貴子 子どものプレイセラピー研究会
- ・『心理学・入門』サトウタツヤ・渡邊芳之 有斐閣アルマ
- ・『はじめて出会う心理学』長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 有斐閣アルマ

【学生に対する評価】

授業参画度（45%）、授業内試験（55%）。

※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。また、第1回オリエンテーション時に評価方法について説明を行う。

【履修上の注意】

受講にあたっては、配布物や参考書文献等を用いて事前事後の学習を行うこと。

実務経験の有無：有

実務経験：臨床心理士・公認心理師
精神科クリニック、生活困窮者支援 等

【実務経験を生かした教育内容】

切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、実践的な知識を含む授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：ボランティア概論 英語表記：Introduction to Voluntary Action ナンバリング：1006		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：伊藤道雄 担当形態：単独
科目/系列	/教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 自ら考えを持ち様々な問題に取り組むことがボランティア活動の最初であることを知る。 2. 自身の興味や関心の中から問題を提起し、取り組む活動であることが理解できる。 3. 社会で起きている問題に関心を持ち、利他性等も考え、行動することができる。			
【授業の概要】 ボランティアの意義や歴史、種類(領域)、課題等の基本的な事柄を学び、自ら課題を見つけ、調べ、まとめ、発表する活動を行い、ボランティア活動を理解する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション、ボランティア活動の実施状況調査 第2回：ボランティアの基本を知る。 第3回：ボランティアにおける社会問題の捉え方 第4回：ボランティア活動の実践事例(1)子どもの声 第5回：ボランティア活動の実践事例(2)虐待 第6回：歴史の中に出現するボランティア活動(戦前) 第7回：歴史の中に出現するボランティア活動(戦後) 第8回：地域の課題を発見する 第9回：人はなぜボランティアを行うのか(動因・モチベーション) 第10回：ボランティア活動の実践事例(3)死刑廃止 第11回：ボランティア活動の実践事例(4)子育て 第12回：市民の視点からの解決を探る 第13回：教育・福祉とボランティア 第14回：災害とボランティア 第15回：まとめ、実践の発表 定期試験：筆記		【授業時間外の学習】 (授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。) 1. 今までの自分のボランティア活動をまとめる。 2. 自らのボランティア学習への動機を考える。 3. 思想家や宗教とボランティアの関係を調べる。 6. 祖父母、父母等のボランティア活動の体験を聞く。 8. 地域の課題を調べる。 9. ボランティア活動のモチベーションを推察する。 10. 実践事例から学ぶ。 11. 実践事例から学ぶ。 12. 市民からの視点を考える。 14. 教育・福祉の活動内容を調べる。 15. これまでの学習内容をまとめる。	

【授業の方法】 基礎的な項目は講義を行い、その後、調べ学習・討議、発表形式を進める。ボランティアの実践記録、感想、授業のまとめ等グループワークを取り入れ、それぞれの気づきを共有できるよう教員がコメントする。	
【テキスト】 「新・学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会	
【参考書・参考資料等】 適宜紹介	
【学生に対する評価】 定期試験(60%)、提出物(10%)、活動報告(20%)、授業参画度(10%)、ルーブリックを活用して総合的に評価。	
【履修上の注意】 積極的に学習しようとする者・実際のボランティア活動を希望しようとする者を望む。	
実務経験の有無：有	実務経験：元身体障害者地域啓発団体職員、元施設職員
【実務経験を生かした教育内容】 身体障害者団体勤務の経験を活かし、ボランティア活動の意義を伝える。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名: ボランティア実習 英語表記: Practice to Voluntary Action ナンバリング: 1007		単位数: 1単位 (半期) 実習	担当教員名: 高橋努 担当形態: 単独
科目/系列	/教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. ボランティアとは何かを知り、なぜするのか、どのようにするのか、そのための具体的な取り組みはどのように行うのか(活動の立案、安全な実施、終了後の自己評価、次への改善)についてボランティア活動を通して「ボランティア活動とは何か」を体験的に理解できる。			
2. ボランティア活動を行う中から、自らのボランティア観で行ったボランティア体験の中からその過程や結果が発信できる。			
3. ボランティア活動の意義を自らの経験から説明し、未経験者にアドバイスができる。			
【授業の概要】			
参加したボランティア活動についての計画・活動・検証・反省などの発表・討議を中心に授業を構成する。また、実習の事前・事後指導が重要と考えて講義とグループワークで行う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
<p><座学授業></p> <p>ボランティア実習に関する事前学習として、活動への参加から報告までの流れについて授業を行う。</p> <p>また、実習終了後に、事後学修として、自身のボランティア活動を整理し、まとめたものを成果発表する。(授業回数としては、3回もしくは、4回程度。授業日については事前に連絡する)</p> <p><ボランティア実習></p> <p>ボランティア実習は、24時間の活動時間を必須する。1回あたりの活動時間は、2時間以上とする。</p> <p>1月の授業期間内に、成果発表会を行う。</p> <p>定期試験: なし</p>		<p>次のような調べ学習と振り返りを授業後または、実習後に1時間程度行うこと。</p> <p>(合計 15 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットでの調べ学習。 ・関係機関等への問い合わせ、本学の掲示板、インターネットでボランティアをさがす。 ・ボランティア団体等とアポイントをとる。 ・必要な書類の準備と記入。 ・お礼を兼ねて団体に出向いて証明を受ける。 ・実施後「活動の記録(1)(2)」を作成・提出する。 	
【授業の方法】			
座学授業については、グループワーク形式で行う。授業で実習までの経過発表や体験発表を行う。活動への参加は、教員から指導を受けてボランティア活動先を探し、事前にボランティア活動計画書と所定の「ボランティア参加許可願」を提出する。ボランティアを実施する過程で「活動の記録(1)(2)」を			

作成し、プレゼンテーションする。プレゼンテーション後、ディスカッションをとおしてフィードバックを行う。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考書・参考資料等】

授業時間内に適宜紹介する

【学生に対する評価】

活動内容の記録（50％）・活動発表（30％）・授業参画度等（20％）による。

※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。

【履修上の注意】

ボランティア実習を履修する学生は、「ボランティア概論」の履修の単位取得が必須条件である。実習総時間数24時間のボランティア活動が期限までに終了出来ないときは不合格となるので、計画的にできるだけ早い時期の実施に留意する。教員との「相談・連絡・報告」が重要となる。

実務経験の有無：有

実務経験：高齢者施設等でのボランティアの受け入れ等

【実務経験を生かした教育内容】

高齢者施設等でのボランティア受入れの実践経験をいかし、具体的事例をもとに授業をする。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：手話 英語表記：Sign Language ナンバリング：1008		単位数：1単位 (半期) 講義	担当教員名：今西理枝子 担当形態：単独
科目/系列	/教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 手話で会話ができる。 2. 聴覚障害者を理解できる。 3. 手話について説明ができる。			
【授業の概要】 視覚的にものをとらえる工夫や様々な手段を使い伝えることを学び、手話の基本を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：自己紹介をしてみようⅠ 第2回：自己紹介をしてみようⅡ 第3回：あいさつをしてみよう 第4回：手話がわからなかった時 第5回：数字や時間の表現を覚えよう 第6回：趣味のことを話そう 第7回：行きたい場所の表現方法を覚えよう 第8回：特別講義「聴覚障害者の生活」 第9回：病気やけがで困ったとき 第10回：お天気と乗り物の表現を覚えよう 第11回：買い物とお金の表現を覚えよう 第12回：ろう者の生活を知ろう 第13回：災害に関する手話を学ぼう 第14回：反対語を覚えよう 第15回：今まで学んだ手話を活かして話してみよう 定期試験：読み取り・筆記		【授業時間外の学習】 予習・復習に1時間程度の時間が必要である。 ・事前に自己紹介やあいさつの内容を考えておく。授業後は練習をする。 ・事前に自分の趣味や行きたい場所について考えておく。授業後は練習をする。 ・特別講義を踏まえて、聴覚障がい者の生活の実態について気になることを調べる。 ・天気、乗り物、買い物、お金の表現について練習する。 ・災害が起こって時に聴こえない人たちとの関わりかたについて学ぶ。 ・これまで習った手話を思い起こし、話す練習をする。	

【授業の方法】 手話演習、学んだ表現のフィードバックを行う。	
【テキスト】 今すぐはじめる手話テキスト「聴さんと学ぼう！」 発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟	
【参考書・参考資料等】 「私たちの手話」発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟	
【学生に対する評価】 定期試験の成績（60%）、実技（20%）及び授業参画度等（20%）を判断して評価する。 ルーブリック評価を活用する。	
【履修上の注意】 ① 手話は目で見える言語です。私語を慎み、講師の手の動き、顔の表情に集中して授業を受けること。 ② 授業中は頭の中にある日本語の文法や音声を忘れ、手話を手話のまま受け止めることに集中する。 ③ 「わかる/わからない」といった意思表示は、目で見える形ではっきり示すこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：埼玉県通訳養成講習会、羽生市手話講習会
【実務経験を生かした教育内容】 通訳養成等の講師経験を活かし聴こえない人とのコミュニケーションができる様に指導する。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：暮らしと環境 英語表記：Daily-Life Environment		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：高橋努
ナンバリング：1009			担当形態：単独
科目/系列	/教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 現代社会の暮らしや生活と、親と子を取り巻く環境について探求し、その意義を理解できる。 2. 地域社会に根づく暮らしや環境が子どもの育ちに与える影響を理解できる。 3. 講義や現地調査で得た知見を発表し、自らの考えを説明することができる。			
【授業の概要】			
親と子を取り巻く暮らしや環境について理解するためには、「地域」や「生活」そのものを理解しようとする必要がある。そのため、本講義では歴史・社会・自然・文化といった様々な視点から地域における生活から、そこに住まう人々の暮らしと環境を分析し、生活に及ぼす影響、特に子どもの育ちに及ぼす影響について考察を深めていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション・本講義の目標と概要説明		・本授業では「暮らし」をテーマに扱う。日常の生活を題材に、調査研究活動を行うため、意識的に情報収集などに努めること。	
第2回：暮らしを理解する①「住まい」から考える		・現地調査にあたり各回1～2時間程度の事前準備を要する。	
第3回：暮らしを理解する②「地域」から考える		・調査レポート及び最終レポート並びにグループ発表にあたり、文献調査や資料の分析を行う（課題ごとに3時間程度）。	
第4回：研究テーマの設定とグループ分け			
第5回：見学・現地調査①に向けた準備			
第6回：見学・現地調査①（環境科学国際センター）			
第7回：見学・現地調査①の振り返り／②に向けた準備			
第8回：見学・現地調査②（羽生水郷公園）			
第9回：見学・現地調査②の振り返り／③に向けた準備			
第10回：見学・現地調査③（川の博物館ほか）			
第11回：見学・現地調査③の振り返り／全体振り返り			
第12回：見学・現地調査結果の整理と分析			
第13回：報告資料の作成とプレゼンテーションの準備			
第14回：調査研究成果の発表（プレゼンテーション）			
第15回：総括			
定期試験：なし			

【授業の方法】 講義、見学・現地調査（各自で移動できることが条件）・個人及びグループによる発表をして、フィードバックを行う。	
【テキスト】 講義の中で紹介する。	
【参考書・参考資料等】 必要資料を適宜示す。	
【学生に対する評価】 レポート（30%）、グループ発表（30%）、授業内課題・参画度（40%）を総合的に評価する。 ※レポート（2,400文字を基準とし、教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。）	
【履修上の注意】 本授業は、集中講義期間に開講する（具体的な開講日は掲示板にて確認すること）。主に羽生市内外での見学・現地調査を行う（各自が交通手段を使って集合し、参加できることを履修条件とする）。見学・現地調査の詳細は、オリエンテーション時に説明する。一部で交通費や材料費などが必要となることがある。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：ふるさと学 英語表記：Hometown Study ナンバリング：1010		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：布施由起 担当形態：単独
科目／系列	／教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 郷土（地域）に関心を持ち、郷土を知る方法を身につけることができる。 2. 郷土を資料などで調べ、理解する態度を身につけることができる。 3. 郷土の識者に話を積極的に聴くなど地域の教育力を借りる態度を身につけることができる。 4. 授業の体験を通して、郷土の教育資源を保育・教育に活かす術を身につけることができる。			
【授業の概要】			
子どもたちに保育を通して人間教育をする場合に、地域の人々や歴史・行事などの知識と理解は強い味方になると言える。 授業では郷土を見て、聴いて、知って、考え、伝えることを通して、身近な郷土や人々を愛し尊敬することをとおして地域の教育資源を教育・保育に活かすことができるようにする。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション		(事前事後学習は毎回 90 分程度)	
第2回：故郷を学ぶことの必要性和意義 (埼玉の偉人紹介含む)		・この授業では、外部から講師を招いて行うので、事前学習は必須となる。	
第3回：埼玉を知ろう (埼玉県の過去と現在と未来)		・次週の講演予定の地域・分野についての調べ、A4用紙 (PCで作成) で提出をすること。	
第4回：羽生を知ろう (羽生市の歴史と文化)		・施設見学や現地での講義では、必ずメモを取り、学習したことをまとめること。	
第5回：羽生を知ろう (羽生市の未来と地域の活用)		・見学当日は、メモ帳・カメラ等を持参して記録するとともに、事前に質問事項を用意しておくこと。	
第6回：熊谷を知ろう (熊谷市の歴史と文化)		・これらをもとにパワーポイントでプレゼン資料を作成する。	
第7回：熊谷を知ろう (熊谷市の未来と地域の活用)			
第8回：行田を知ろう (行田市の歴史と文化)			
第9回：行田を知ろう (行田市の未来と地域の活用)			
第10回：加須を知ろう (加須市の歴史と文化)			
第11回：加須を知ろう (加須市の未来と地域の活用)			
第12回：グループ分け、発表準備			
第13回：グループ分け、発表準備			
第14回：グループごとのプレゼンテーション			
第15回：グループごとのプレゼンテーション			

定期試験：なし	
【授業の方法】 地域の方々を講師として招いての講座や施設見学などの活動を中心に行う。各フィールドにおいてフィールドバックテストを行う。相手の都合により講義日が変更となったり、連続講義（学生と相談の上）とする場合もある。	
【テキスト】 『地域学の可能性』 彩の国さいたまひとづくり広域連合	
【参考書・参考資料等】 授業内にて紹介する。	
【学生に対する評価】 レポート課題（50%）、授業参画度（30%）、プレゼンテーション（20%）総合的に評価する。目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。	
【履修上の注意】 この授業は自分の目で見て、耳で聴いて、行動して、体験的に学ぶことが中心となるので、事前に学生と相談しながら予定を決め、場合によっては連続講義となる。そのため、授業予定が変更となる場合もあり、交通費や見学科・材料費などの自己負担分が発生する場合もある。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：日本国憲法 英語表記：Japanese Constitutional Law ナンバリング：		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：高乗正臣 担当形態：単独
科目/系列			
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目			
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 日本国憲法が採用する立憲主義と法治主義の考え方を理解し説明することができる。 2. 日本国憲法の基本原理と「法学的な考え方(Legal mind)を理解することができる。 3. 基本的人権、特に子どもの人権の意義を理解し、その尊重を教育・保育現場で実践できる。			
【授業の概要】			
日本国憲法の基本原理を概説し、特に人権保障の意義について詳しく解説する。人権と基本権の意味、法の下での平等、子どもの人権、教育を受ける権利などについて具体的に説明し、教育者・保育者として理解しておくべき憲法と人権保障の考え方について解説する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子ども的心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：法学の基礎—日常生活と法、法治主義とは、法と常識、六法 第2回：憲法の基礎—憲法とは、憲法と法律・条例・規則・命令・条約 第3回：保育をめぐる法律問題①—踏切死亡事故と保育者の責任 第4回：人権の意味と種類—自由権、受益権、参政権、社会権 第5回：外国人の人権保障—政治活動、社会権、公務就任権、判例解説 第6回：保育をめぐる法律問題②—園児のケガと幼稚園の責任 第7回：新しい人権—肖像権、プライバシーの権利、自己決定権 第8回：子どもの人権—子どもの権利条約、児童虐待防止法と保育者 第9回：法の下での平等—不合理な差別と合理的区別、判例解説 第10回：保育をめぐる法律問題③—園内の死亡事故と教員の責任 第11回：憲法と社会保障—生存権、生活保護の政府による実現 第12回：教育を受ける権利—人権としての意義と判例紹介 第13回：保育をめぐる法律問題④—体調不良園児と保育士の責任 第14回：国と地方のしくみ—国会、内閣、裁判所、違憲立法審査制 第15回：まとめ—憲法による人権保障を教育・保育現場で生かす道 定期試験：筆記		・予習：テキストの指示された範囲を読み、分からない言葉の意味などを調べ、整理しておくこと(90分程度)。 ・復習：講義の内容を振りかえり、理解できたことをノートに整理しておくこと、また講義中に紹介した参考資料について詳しく調べてノートに補足し、自分なりに考えてみる(90分程度)。	

【授業の方法】	
<p>できるかぎり保育現場で起きた事故や身近な事例を題材として講義する。講義で取り上げたテーマについて毎回「小テスト」を実施する。その際、小テストの解答用紙の余白に「質問または意見、取り上げてほしいテーマ」を記入してもらい、次回これらにコメントをつけて返却する方式(minute paper制度)を採用する。また、テキストや憲法・法律の条文などは受講生に朗読してもらう方式を採る。</p>	
【テキスト】	
『保育者のための法学・憲法入門(第2版)』高乗正臣(成文堂、令和5年)	
【参考書・参考資料等】	
<p>受講生全員に学習用の『小型六法全書』を貸与する。また、必要に応じて講義を理解しやすくするため、プリントや視聴覚教材を使用する。</p>	
【学生に対する評価】	
<p>定期試験の成績(60%)、小テスト(20%)、講義での朗読・応答・発問(20%)。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
【履修上の注意】	
保育の専門家となる自覚と責任を持って、積極的に講義に取り組む姿勢を求める。	
実務経験の有無：	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：英語コミュニケーションⅠ 英語表記：English CommunicationⅠ ナンバリング：1012		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：後藤範子 担当形態：単独
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 基礎的な英語で、相手とコミュニケーションができるスキルを身に着けることができる。 2. 幼稚（保育）園の教諭としてのコミュニケーションに必要な「共感力」や「自己発信能力」を身に着けることができる。 3. 保育者として必要な自己理解・他者理解のマインドを身に着けることができる。			
【授業の概要】 授業は演習形式で行い、その中で、英語の基礎基本を身に着ける。そのためにペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、カードゲーム、英語の歌、映像やICT利用などを取り入れて活動中心に定着を図る。特に、毎授業の「帯活動」として、英語の歌は繰り返し利用する。英語絵本の読み聞かせを実践的に行い、基礎基本を定着させ、実践的な発信力へとつなげる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・「コミュニケーションとは？」 第2回：幼稚園（保育園）での日常英語会話 第3回： 同上 第4回： 同上 第5回：英語絵本の読み聞かせ活動（内容把握） 第6回 英語絵本の読み聞かせ（グループ役割） 第7回：英語絵本の読み聞かせ（練習・発表準備） 第8回：英語絵本の読み聞かせ（リハーサル） 第9回：英語絵本の読み聞かせ（発表） 第10回：園の一日・年間行事 第11回： 同上 第12回：英語の映像を使ったアフレコ活動（表現練習） 第13回： 同上 アフレコ（発表準備） 第14回 同上 アフレコ（発表） 第15回：活動の復習		【授業時間外の学習】 (授業時間外学習 1時間以上) ・授業内言語活動の発表に備えて、授業外で個人およびグループでの練習や準備が必要である。 ・英文は耳や口や目や指を使って、覚えるまで反復する。Practice makes perfect. (ことわざ「習うより慣れる」) ・実践的な語学の習得を積極的に意識し、自主的に、校外でのボランティアなど、授業での学びの応用実践にチャレンジする。	

定期試験：筆記試験	
<p>【授業の方法】 授業は主に、演習の形で行われる。また、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、カードゲーム、映像などのICTを活用しながら、様々な活動を通して、英語の基礎・基本を、実践に即した形で身に着ける。そのため、授業への積極的な取り組み姿勢や、自主的な事前・事後活動、および、反復練習が必要である。フィードバックテスト、パフォーマンステストを適宜行う。</p>	
<p>【テキスト】 必要に応じて適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 適宜指示する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 小テストの成績(30%)、定期試験の成績(50%)、授業参画度(20%)を総合的に判断して評価。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 英語などの習得には日々の努力が重要である。授業は毎回出席し、積極的に言語活動を行い、身に着くまで繰り返す。他者と協働する授業では、他者を尊重しつつ、自分の意見もしっかりと言える態度が必要である。そして、卒業後、保育者として公平・公正な態度で、子供の成長に携わる資質を磨くことを、常に意識する。英文の音声は繰り返し聴き、発話すること。</p>	
実務経験の有無：有	実務経験：元高等学校外国語科教諭
<p>【実務経験を生かした教育内容】 外国語科長/教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、英語力の向上を図る。保育者として必要となる異文化理解教育を推し進める。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：英語コミュニケーションⅡ 英語表記：English CommunicationⅡ ナンバリング：1013		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：後藤範子 担当形態：単独
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 簡素な英語表現で簡単な会話ができる程度の会話力を身につけることができる。 2. 幼稚（保育）園に必要な基本的英会話を習得し、子どもや保護者と簡易な会話ができる。 3. 誰とでも恐れずに、偏見なく、コミュニケーションする態度を身につけることができる。			
【授業の概要】 主に演習形式で行う。ペアワーク、グループワーク、ICTの活用などを駆使し、活動を通して、英語の基礎基本、自己理解・他者理解の姿勢を身に着ける。扱うテーマは、園での生活、歌、文化、絵本の読み聞かせなど。さらに、構内施設の設定の「思い」を英語によって調査し発表するプロジェクトを行い、学習の成果を「表現発表会」で公表することにより、自己肯定感を高め、保育者としてのマインドや英語コミュニケーションの実践力を身に着ける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・会話で使う基本表現 第2回：プロジェクト：「埼玉純真短期大学の『思い』を理解しよう」（調査準備） 第3回：同上プロジェクト（発表準備） 第4回：同上プロジェクト（模造紙にまとめる。発表練習） 第5回：同上プロジェクト（クラス内発表） 第6回：園の遊具や文具を覚えよう（歌同様、帯活動で定着） 第7回：保育園・幼稚園の年間行事（同上） 第8回：保育園・幼稚園で使う日常表現（同上） 第9回：保育所・幼稚園で使う日常表現（同上） 第10回：映画から他者理解を学ぶ 第11回：映画から他者理解を学ぶ 第12回：クリスマスなどの文化に触れ、その中の英語を学ぶ 第13回：映像を使って英語の絵本の読み聞かせを行う。 第14回：映像を使って英語絵本の読み聞かせを行う。		【授業時間外の学習】 （授業時間外学習 1時間以上） ・復習を中心に、耳や口や目や指を使って、英語表現を覚えるまで反復する。 Practice makes perfect. ・実践的な語学の習得を積極的に意識し、校外でのボランティアを通して、英語の歌・絵本の読み聞かせなどを実践する。 ・プロジェクト「埼玉純真短期大学の『思い』を理解しよう」において、授業成果を模造紙にまとめ、クラス内発表後、最後に、「表現発表会」にて展示発表を行う。	

第15回：まとめと復習。保育の1日を演じてみよう	
定期試験：筆記試験	
<p>【授業の方法】</p> <p>授業は主に、演習の形で行われる。また、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、カードゲーム、映像などのICTを活用しながら、様々な活動を通して、英語の基礎力を、実践に即した形で身に着ける。そのため、授業への積極的な取り組み姿勢や、自主的な事前・事後活動、および、反復練習が必要である。フィードバックテスト、パフォーマンステストを適宜行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>必要に応じて適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>適宜指示する。</p>	
<p>【学生に対する評価】</p> <p>小テストの成績(30%)、定期試験の成績(50%)、授業参画度・グループへの貢献(20%)を総合的に判断して評価。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <p>英語などの習得には日々の努力が重要である。授業は毎回出席し、積極的に言語活動を行い、身に着くまで繰り返す。他者と協働する授業では、他者を尊重しつつ、自分の意見もしっかりと言える態度が必要である。そして、卒業後、保育者として公平・公正な態度で、子供の成長に携わる資質を磨くことを、常に意識する。</p>	
実務経験の有無：有	実務経験：元高等学校外国語科教諭
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p> <p>外国語科長/教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすく、かつ活動中心の指導で、英語力の向上を図ると同時に、教育者として必要な国際理解のマインドを身に着けることができる。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：コンピュータ基礎演習Ⅰ 英語表記：Computer basic exerciseⅠ ナンバリング：1014		単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：小松和弘 担当形態：単独
科目/系列	/教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	情報機器の操作/外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育園・幼稚園で最低限必要となるコンピュータリテラシーを習得できる。 2. 保育園、幼稚園で使用される、一般的な文書を作成できる。 3. クラウド環境を活用した、データのやり取り方法を習得できる。			
【授業の概要】 Word、Excelの基本操作、スマートフォンでのデータの取り扱いや、クラウド環境でのデータの扱い方などのコンピュータリテラシーを習得する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：ガイダンス、授業で使う各種環境設定 第2回：Wi-Fiの活用について Word：基本、カレンダーの作成 第3回：ショートカットキー、Word：自己紹介シートの作成 第4回：写真の挿入、自己紹介シートの発表 第5回：撮影した写真の活用、Word：ハイキング、Excel：時間割 第6回：Word：運動会、Word：お泊り保育 第7回：Word：実習施設までの地図の作成、BBQの案内 第8回：Word：フォーマル文章、Excel：加減乗除、値の繰り返し 第9回：Word：プール開き、Excel：グラフ 第10回：Word：純真通信、FAX送付状、画像の切り抜き 第11回：総合的なドキュメントの作成・観光案内 第12回：Word：複雑な表組み、PowerPoint：自分の紹介 第13回：発表：PowerPoint「自分の紹介」 第14回：Word：純真通信秋号、案内地図、キャンプ 第15回：発表、これまでの復習 定期試験：実技、レポート		【授業時間外の学習】 ・予習 Webメール、携帯でのメール確認、Wordの基本操作、表組み、画像の扱い、Excelの基本操作、関数、表・グラフの作成方法、Wordの文書作成、装飾文字の作成、招待文書の作成方法などについて予習。 →各回1時間程度 ・復習 各回、終了後に学習した内容を再度確認する。 →各回1時間程度	

【授業の方法】 演習、講義。作成した文書等を確認してフィードバックを行う。	
【テキスト】 なし	
【参考書・参考資料等】 随時配付	
【学生に対する評価】 定期試験（50％）、発表（30％）、課題（20％）などを判断して評価する。 ルーブリック評価を活用する。	
【履修上の注意】 授業時間中にその場で授業の理解度を把握するための支援システムを使用している。 授業は演習が中心となるので目的意識を持って主体的に参加すること。技術を高めるためにも日々の練習が重要である。特に事前・事後における学習は必ず行うこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：企業等へのIT研修実施
【実務経験を生かした教育内容】 企業研修の経験を活かし、実社会で活用できるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：コンピュータ基礎演習Ⅱ 英語表記：Computer basic exerciseⅡ ナンバリング：1015		単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：小松和弘 担当形態：単独
科目/系列	/教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育園・幼稚園・一般企業に就職した際、すぐに実践できる書類の作成技術を習得できる。 2. Word、ExcelやPowerPointに関するコンピュータリテラシーを習得できる。 3. 生成AIを活用したプレゼン資料の効果的な作成方法を習得できる。			
【授業の概要】 書類作成のコツ、様式、写真・画像操作の応用。基本的なプレゼンテーション方法の習得。 AIを活用したプレゼン資料の作成。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：後期ガイダンス、Word：書類作成（基本の復習） 第2回：Word：書類作成（応用）、PowerPoint：基本操作① 第3回：PowerPoint：学校案内作成① 第4回：PowerPoint：基本操作②、学校案内作成② 第5回：PowerPoint：学校案内 発表、本の紹介作成① 第6回：PowerPoint：本の紹介作成② 第7回：PowerPoint：本の紹介作成③、発表：本の紹介 第8回：PowerPoint：発表：本の紹介 第9回：PowerPoint：オリジナルのストーリー作成① 第10回：PowerPoint：オリジナルのストーリー作成② 第11回：PowerPoint：オリジナルのストーリー作成③ 第12回：PowerPoint 発表：オリジナルのストーリー 第13回：PowerPoint：AIを使ったプレゼンの作成① 第14回：PowerPoint：AIを使ったプレゼンの作成② 第15回：PowerPoint 発表：AIを使ったプレゼン 定期試験 実技、レポート			【授業時間外の学習】 ・予習 Wordの操作、文書作成などについて予習。 →各回1時間程度 ・復習 各回、終了後に学習した内容を再度確認する。 →各回1時間程度

【授業の方法】 演習、講義。作成物を確認し、フィードバックを行う。	
【テキスト】 なし	
【参考書・参考資料等】 随時配付	
【学生に対する評価】 定期試験（50％）、発表（30％）、課題（20％）などを判断して評価する。 ルーブリック評価を活用する。	
【履修上の注意】 授業時間中にその場で授業の理解度を把握するための支援システムを使用している。 授業は演習が中心となるので目的意識を持って主体的に参加すること。技術を高めるためにも日々の練習が重要である。特に事前・事後における学習は必ず行うこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：企業等へのIT研修実施
【実務経験を生かした教育内容】 企業研修の経験を活かし、実社会で活用できるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：生涯スポーツ・レクリエーション I 英語表記：Sports and Recreation I ナンバリング：		単位数：1単位 (半期)実技	担当教員名：柿沼耕一 担当形態：単独
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 生涯スポーツ、レクリエーションの様々な種目を体験することにより、各種ルールを正確に理解することができる。 2. 自分自身が「できる」とともに、スポーツを通して周りとのコミュニケーションを取りながら達成することの重要性を理解することができる。 3. ニュースポーツに挑戦することにより、触れ合う楽しさや喜びを通して、生涯スポーツの意味や重要性を考えていくことができる。			
【授業の概要】 健康の維持・増進のために取り組むことのできるスポーツを知ること、ならびに「動く」ことに対する人体への関心・理解を深めることを主な目的とする。また、これまで経験してきたスポーツや運動遊びには様々な発展のさせ方があることを知り、実際に体験することにより理解を深める。さらに、本授業を通して周りとの協力することやコミュニケーションをとることの重要性を身につけ、生涯スポーツ・レクリエーションとは何かについて考えていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・アイスブレイク 第2回：鬼遊び①、体力・形態の測定の準備と練習 第3回：体力・形態の測定と評価 第4回：鬼遊び② 第5回：バドミントン 第6回：卓球 第7回：バレーボール、ソフトバレーボール 第8回：バスケットボール、セストボール 第9回：アルティメット 第10回：ドッジボール、フライングディスクドッジボール 第11回：卓上遊び（マンカラ、自作ビンゴゲーム等） 第12回：昔の遊び（けん玉、輪投げ等）		【授業時間外の学習】 ・体力、形態測定の方法と原理について学び、理解しておく。（2時間） ・これまでに経験した鬼遊びの内容やルールを振り返っておく。（2時間） ・バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボールのルールおよびゲームの展開について学び、理解しておく。（各1時間） ・これまでに経験したドッジボールの内容やルールを振り返っておく。（1時間） ・アルティメットについて学んでおく。（1時間）	

第13回：ターゲット型ゲーム①（ポッチャ、ペタンク等） 第14回：ターゲット型ゲーム②（ラダーゲッター、バグゴ等） 第15回：ターゲット型ゲーム③（スカットボール等） 定期試験：なし	・集団の遊びを学ぶとともに、昔の遊びを振り返って思い出しておく。（2時間） ・ターゲット型ゲームについて学んでおく。（3時間）
【授業の方法】 講義（教室）ならびに体育館での実技。期末レポートにはコメントを記入して返却する。	
【テキスト】 なし（必要な資料は適宜配布する。）	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（10%）、授業内での小レポートの提出（20%）、ルーブリック評価の活用（10%）、期末レポート（60%）の総合評価とする。	
【履修上の注意】 運動着と運動シューズ（内履きスニーカー）を持参・着用の上、参加すること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元公立小学校教諭・教頭・校長
【実務経験を生かした教育内容】 小学校における体育授業の指導経験を活かし、楽しいスポーツ・レクリエーションの考え方を理解できるようにするとともに、実際の指導方法を身に付けることができるような授業を展開する。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業/保育士/幼稚園教諭)
授業科目名：生涯スポーツ・レクリエーションⅡ 英語表記：Sports and RecreationⅡ ナンバリング：1017		単位数：1単位 (半期)実技	担当教員名：金美珍 担当形態：単独
科目/系列	/教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/体育		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 様々な種目を体験し、ルールを理解することができる。 2. スポーツを通して楽しさや課題の発見を仲間とともに取り組むことができる。 3. 新しいスポーツへの体験を通して、自分だけでなく人に指導する際の能力(伝え方や段階的指導方法)を学習することができる。			
【授業の概要】 健康の維持・増進とスポーツの関係性を学ぶと共に、競技スポーツとして親しまれている以外のスポーツについてもチャレンジし、取り組んでいく。また、レクリエーションを通して、周りと協力することやコミュニケーションをとることの重要性を身につけ、生涯スポーツ・レクリエーションスポーツとは何かについて考えていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション、アイスブレイク 第2回：レクリエーション① 第3回：アスティメット① ルールの確認と基礎技術 第4回：アルティメット② 戦術と技術の試合への応用 第5回：ソフトバレーボール① ルールの確認と基礎技術 第6回：ソフトバレーボール② 基礎技術の応用 第7回：ソフトバレーボール③ 戦術理解と試合形式 第8回：卓球① ルールの確認と基礎技術 第9回：卓球② 基礎技術の応用 第10回：卓球③ 戦術理解と試合形式 第11回：バドミントン① クリア・サーブ 第12回：バドミントン② スマッシュ・ドロップ 第13回：バドミントン③ ダブルスの戦術 第14回：レクリエーション② 第15回：まとめ		【授業時間外の学習】 ・レクリエーションとは何かについて学んでおく。(1時間) ・アルティメット、ソフトバレーボール、インディアカといったニュースポーツのルールとゲーム展開について学んでおく。(各1時間) ・フットサルとバドミントンについてこれまでの自己の経験を振り返る。ルールおよびゲーム展開について学んでおく。(各1時間)	

定期試験：レポート	
【授業の方法】 講義（教室）ならびに体育館での実技、グループ対戦。	
【テキスト】 なし（必要な資料は適宜配布する。）	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（10%）、授業内での小レポートの提出（30%）、期末レポート（60%）の総合評価とする。ルーブリック評価を活用する。	
【履修上の注意】 運動着と運動シューズ（内履きスニーカー）を持参・着用の上、参加すること。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：生涯スポーツ論 英語表記：Lifetime Sports ナンバリング：1018		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：金美珍 担当形態：単独
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 日本における生涯スポーツの現状と課題について理解することができる。 2. 生涯スポーツに関する歴史、理論および社会的背景について説明することができる。 3. 子ども、青少年、中高齢者および障がい者など、各ライフステージや対象におけるスポーツの意義と役割について理解し、説明することができる。 4. 生涯にわたりスポーツに主体的に参加し、健康的な生活を実践するための基礎的知識と態度を身につけることができる。			
【授業の概要】 本授業では、生涯スポーツの意義と役割について、健康科学および運動科学の視点から体系的に学習する。健康の概念、生活習慣、メンタルヘルスと身体活動との関係について理解するとともに、各ライフステージにおける健康課題とスポーツの役割について検討する。また、生活習慣病の予防や健康の維持・増進における運動の効果について学び、運動処方基礎理論と実践的知識を修得することを通して、生涯にわたり主体的にスポーツに参加するための基礎的能力を養う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション ― 生涯スポーツの意義と私にとっての健康とは 第2回：健康の概念と生涯スポーツ 第3回：生活習慣と健康 ― 身体活動の役割 第4回：生活習慣病と運動による予防 第5回：ストレスとメンタルヘルスと身体活動 第6回：身体意識と身体活動 ― 身体理解と健康行動 第7回：健康行動の意思決定と行動変容 第8回：ライフステージと健康・スポーツ① ― 青年期・成人期 第9回：ライフステージと健康・スポーツ② ― 中高年期・高齢期 第10回：食生活と身体活動		【授業時間外の学習】 ・授業内容を復習し、生涯スポーツの意義および健康と身体活動との関係について理解を深める。（各回1時間程度） ・自身の生活習慣および身体活動状況を振り返り、健康の維持・増進に必要な運動について主体的に考察する。（各回1時間程度） ・各ライフステージにおけるスポーツの役割について資料収集および整理を行い、生涯	

<p>第11回：飲酒・喫煙と健康およびスポーツ 第12回：運動処方の基本理論 第13回：ライフステージに応じた運動処方の実際 第14回：生涯スポーツの実践とスポーツ参加の促進 第15回：まとめと振り返り 定期試験：筆記</p>	<p>スポーツに関する理解を深める。（各回1時間程度）</p>
<p>【授業の方法】 講義、演習。毎回小テストを実施し、フィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 なし</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 適宜資料を配布する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 定期試験（60%）、授業内発表・小レポート（20%）、授業参画度（20%）をルーブリックを活用し総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 事前事後学習にもしっかり取り組み、日常生活に活かすことができるよう、正しい知識を積極的に学ぶこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：東京都健康長寿医療センター研究所において、身体活動、健康および生活習慣病予防に関する研究業務に従事した。</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 東京都健康長寿医療センター研究所における健康・医療研究の実務経験を基に、身体活動と健康との関連および生活習慣病予防に関する研究知見を踏まえ、生涯スポーツの意義と役割について科学的根拠に基づき指導する。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：キャリアデザイン 英語表記：Career Design ナンバリング：1020		単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：三友玲子 担当形態：単独
科目/系列	/教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. キャリアにおいて、身につけるべき知識や技術を明らかにすることの重要性が理解できる。 2. 人生の中核をなす職業キャリアデザインに必要な社会人基礎力を身につけることができる。 3. 社会人・職業人としての見識を深め生涯マップを描くことができる。			
【授業の概要】			
このキャリアデザインでは、まず自分自身を知り、生涯を通じた自分の生き方(働き方・社会貢献など)を設計し、実行し、豊かな人生を構築する考え方とスキルを学んでいく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション・キャリアデザインとは何？		(事前事後学習：1時間以上)	
第2回：キャリアのデザインの必要性とは何？		予習、復習には1～2時間程度の時間が必要である。	
第3回：キャリアのデザインの必要性(グループワーク・発表)		授業はグループワークや発表を中心に実施するので、毎回の事前学習や事後学習が重要である。	
第4回：自分を知ろう(できること、やりたいことなど)		2～3回目：第1回の授業からキャリアデザインがなぜ必要かを考えレポートにする。	
第5回：自分のこれまでを振り返ろう(楽しかったことなど)		4～7回目：自分自身のこれまでを振り返り、自身の特徴や長所などを探し出し、キャリアマップを作成する。	
第6回：キャリアプランシートを作ろう(入学から卒業まで)		9～10回目：社会人基礎力とは何かを調べておく。	
第7回：キャリアプランシートを作ろう(卒業から50歳まで)		11～14回目：多様な働き方を理解し、自身の未来を設計図としておく。	
第8回：キャリアプランシートをグループ内で発表			
第9回：社会人基礎力とは何？(その1)			
第10回：社会人基礎力とは何？(その2)			
第11回：働き方の多様化を理解しよう (テレワーク、フレックスタイム、育児・介護と仕事の両立など)			
第12回：多様な働き方を実践する人々のケーススタディ			
第13回：どのような社会人・職業人(保育者)を目指すか？			
第14回：どのような社会人・職業人(保育者)を目指すか？発表			
第15回：まとめ			
定期試験：なし			

<p>【授業の方法】 授業は学生主体のグループワークやプレゼンテーションで行う。学生は疑問などが生じた場合には自ら調べ、メンバーと話し合い、さらに教員へ質問するなど、自らが行動することを中心とする。授業にはゲストも招いて女性と職業についての話を聞く機会も設ける。その都度フィードバックを行う。 (県内短大が女性教育会館との連携でおこなうプログラムを利用し宿泊研修となる場合もある。)</p>	
<p>【テキスト】 特に指定しない。適宜プリント等を配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 プリント配布。キャリアに関する書籍等は授業でその都度提示する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度 (40%)、課題レポート (30%)、資料作成 (10%)、発表 (20%) を判断して評価する。目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。</p>	
<p>【履修上の注意】 集中講義のため1日連続で授業が行われる学生主体の授業である。(日程については学生と相談。)このため事前準備は必須であり、欠席はしないこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：民間病院医事課、専門学生就職指導</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 実務経験を活かした教育内容：採用面接・新人教育・専門学生就職指導などの経験を活かした授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：異文化理解 英語表記：Cross-cultural Understanding ナンバリング：1021		単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：金美珍、 鈴木一代 担当形態：オムニバス
科目／系列	／教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 異文化を理解する重要性を認識できる。 2. 日本文化（自文化）と異文化の共通点と相違点を認識し、理解ができる。 3. 日本文化（自文化）を発信するための知識や考え方、技法を習得できる。 4. 文化の多様性を理解し、他文化の受容への積極的取り組みができる。			
【授業の概要】			
この授業では、アジア（主に韓国）の文化をとりあげ、日本の文化と比較することにより異文化理解についての基礎知識や態度を学ぶ。また、異なる文化の理解を通して日本文化（自文化）をさらに深く理解する。これにより異文化理解への基礎知識や態度を学ぶとともに、自文化をいっそう深く理解し、異文化に対する理解と共に自文化の再発見を試みる。 なお、希望者は、連携協定を締結している韓国の大学や幼児教育機関等への交流を目的とする海外研修に優先的に参加することができる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション		(毎回 60～90 分)	
第2回：文化とは何か、異文化理解の意義と自文化理解		日常生活のなかで、テレビや新聞記事・Webサイトなどを通して、異なる文化的背景をもつ人々や子どもたちへの理解を深める。授業内容の理解やオンライン交流での意見交換に必要である。	
第3回：異文化の国土、地理、気候の特徴（韓国を事例として）		Webサイトや書籍などで各自が興味をもつ国の文化、歴史、教育、言語などについて積極的に調べる。それを基に発言することで、グループワークが成立する。	
第4回：異文化の歴史と文化（韓国を事例として）		※海外研修では、自文化の誇りと他文化への尊敬の気持ちを持って接することが重要で	
第5回：異文化の文化（韓国を事例として）			
第6回：異文化における子どもの遊び①（韓国を事例として）			
第7回：異文化における家族関係（韓国を事例として）			
第8回：異文化における日常生活（韓国を事例として）			
第9回：異文化における宗教と価値観（韓国を事例として）			
第10回：異文化における韓国の子どもの遊び② (韓国を事例として)			
第11回：異文化における恋愛事情・結婚式の風習 (韓国を事例として)			

<p>第12回：オンライン国際交流① (インドネシア・バリの大学生との交流)</p> <p>第13回：オンライン国際交流② (インドネシア・バリの大学生との交流)</p> <p>第14回：オンライン国際交流③ (インドネシア・バリの大学生との交流)</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p> <p>定期試験：なし</p>	<p>ある。そのため、事前に、日本の伝統文化（茶道や舞踊など）の練習をする。</p>
<p>【授業の方法】 講義、グループワークを実施しフィードバックを行う。可能ならば海外研修旅行を実施する。</p>	
<p>【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 オリエンテーションの際、授業中に適宜紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 学びへの取り組み（授業参画度）を50%、学習成果を共有する発表を30%、そして学びの集大成となる最終レポートを20%として、総合的に判断する。到達目標に対する達成度は、明確な評価基準（ルーブリック）に基づいて判定する。</p>	
<p>【履修上の注意】 海外研修旅行への参加には、費用が発生するため、保護者の理解と了承が必要である。 詳細はオリエンテーションあるいは授業中に説明する。海外研修旅行実施については、保護者説明会を開催する。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：社会福祉 英語表記：Social Welfare ナンバリング：2101		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：浅野瞳 担当形態：単独
科目/系列	/保育の本質・目的に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/社会福祉		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解するとともに、今後の社会福祉の動向と課題について理解できる。 2. 社会福祉の制度や実施体系、相談援助について理解できる。 3. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解できる。			
【授業の概要】 現代社会における社会福祉の意義や歴史の変遷の学びを通し、保育者として習得すべき社会福祉について全体像を理解できるよう学ぶ。また子ども家庭福祉の制度や実施体系を知り、現代社会の現状と課題、今後の動向・展望を理解し、子ども家庭福祉のあり方について学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：社会福祉の理念と歴史の変遷 第2回：諸外国の社会福祉の動向 第3回：子ども家庭支援と社会福祉 第4回：社会福祉の制度と法体系 第5回：社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等 第6回：社会福祉の専門職 第7回：社会保障および関連制度の概要 第8回：相談援助の理論 第9回：相談援助の意義と機能 第10回：相談援助の対象と過程 第11回：相談援助の方法と技術 第12回：社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 第13回：少子高齢化社会における子育て支援 第14回：共生社会の実現と障害者施策 第15回：在宅福祉・地域福祉の推進 定期試験：筆記		【授業時間外の学習】 ・予習・復習には1～2時間程度の時間が必要である。 ・授業前に提示する資料を読み、自分の考え・疑問点について整理しておくこと。 ・授業後は、参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめておくこと。 ・日頃から社会福祉に関するニュースをチェックしておくこと。	

【授業の方法】 ・講義を中心に、演習（グループワーク）を取り入れた授業を行う。 ・Google Classroomを使用し、課題等の提出物に対し随時フィードバックを行う。	
【テキスト】 新基本保育シリーズ『社会福祉』 児童育成協会監修 中央法規	
【参考書・参考資料等】 授業にて適宜配布する。	
【学生に対する評価】 （課題等の評価にルーブリックを活用する） 小テスト(25%)、課題提出(25%)、定期試験(50%)	
【履修上の注意】 ・受講にあたっては、テキスト、配布資料を参考に事前事後の学習を行い積極的な姿勢で臨むこと。 ・グループワーク等の演習を通し、学んだ知識を、自らの言葉で伝える力を身に着けること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設職員（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 ・施設での相談業務経験を活かし、福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育原理 英語表記：Principles of Child Care ナンバリング：2103		単位数：2単位 (半期)講義	担当教員名：三友玲子 担当形態：単独
科目/系列	／保育の本質・目的に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	／保育原理		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 保育の意義及び目的や保育に関する法令及び制度を理解できる。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解できる。 3. 保育思想と歴史の変遷や保育の現状と課題について理解できる。			
【授業の概要】 保育の意義、保育所保育指針における保育の基本について理解した上で、保育の目的・内容と方法の基本について理解を深める。保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題についても理解し、考察できるようにする。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・保育理念と概念 第2回：保育の社会的役割と責任 第3回：子ども・子育て支援新制度 第4回：保育の実施体系 第5回：保育所保育士指針に基づく保育 第6回：保育の目標と方法 第7回：保育における養護・乳児保育 第8回：保育の内容：3歳未満の保育 第9回：保育の内容：3歳以上の保育 第10回：子どもの理解に基づく保育の過程 第11回：諸外国の保育思想と歴史 第12回：日本の保育の思想と歴史 第13回：諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題 第14回：グループワーク（保育の現状と課題について） 第15回：発表（課題解決にむけて） 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 ① 事前学習：1～2時間 ・授業前に必ずテキストや参考書を一読しておく。 ・新聞記事やニュース等から子どもに関する記事を読む習慣をつける。 ・保育に関する公的なデータを調べ、現状について理解を深める。 ・グループワークに必要な資料を事前の学習でまとめておく。 ② 事後学習：1時間 ・配布されたレジュメはファイルし、復習する。	

【授業の方法】 演習・グループワーク等を実施し、フィードバックを行う。 適宜小テストを行い授業の定着を図る。	
【テキスト】 『改訂2版 Workで学ぶ保育原理』 佐伯一弥 企画・著 わかば社	
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』（最新版）文部科学省、『保育所保育指針解説』（最新版）厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省	
【学生に対する評価】 ルーブリックを活用し、評価を行う。 授業内提出物（20％）、小テスト（20％）、課題（20％）、発表（20％）、授業参画度（20％）。	
【履修上の注意】 配布されたレジュメはきちんとファイルする。自ら調べ発表するなど積極的姿勢で学ぶこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭
【実務経験を生かした教育内容】 保育者としての経験を活かし、理論をより実践的に学べる授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：幼児教育者論 英語表記：Theory of teacher ナンバリング：2104		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：眞柄絵里 担当形態：単独
科目/系列	教育の基礎的理解に関する科目/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)/保育者論		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 保育に関する関係法令や現代の社会的課題について学び、保育者の役割や社会的意義について理解できる。 2. 保育者の職務内容や専門性について理解し、保育者になるための自己課題とその解決方法を説明できる。 3. 子どもの育ちを促すうえで、保育者同士・保護者・専門機関・地域住民など様々な人々と協働することの重要性を理解できる。			
【授業の概要】 保育を取り巻く社会的変化や課題を捉えた上で、保育職の社会的意義、保育者の職務内容と求められる役割、資質能力等について理解を深める。さらに、進路選択に向け自己課題を確立しそれに向けた解決方法を見出すことで、自己研鑽に励もうとする意欲的な姿勢を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・保育・保育者とは 第2回：保育者の使命と制度上の位置づけ 第3回：保育者のサービスとマナー・倫理 第4回：保育を取り巻く現状と課題 第5回：保育者の職務内容①「保育者」の視点から 第6回：保育者の職務内容②「子ども」の視点から 第7回：保育者の資質と専門性①子ども理解からはじまる保育 第8回：保育者の資質と専門性②遊びと保育環境の創造 第9回：保育者の資質と専門性③計画に基づく保育実践と省察・評価 第10回：保育者の連携と協働①園内の保育者チームとの連携 第11回：保育者の連携と協働②家庭との連携 第12回：保育者の連携と協働③専門機関や地域との連携 第13回：保育者の連携と協働④小学校との連携		【授業時間外の学習】 ・図書館の資料、新聞、インターネットなどから、保育を取り巻く社会の現状や課題を調べてまとめること。 ・本授業での学習内容を踏まえて、自分なりの理想の保育者像をもてるようにすること。 予習・復習には1～2時間程度の時間が必要である。	

第14回：保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	
第15回：授業のまとめ	
定期試験：なし	
【授業の方法】 講義と演習および発表。課題やレポートにコメントを入れて返却する。	
【テキスト】 『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』（いずれも最新版）	
【参考書・参考資料等】 『増補版 これからの保育者論 日々の実践に宿る専門性』高橋貴志 萌文書林	
【学生に対する評価】 作品課題（40%）、レポート（40%）、授業参画度等（20%）、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 保育者を志す学生であることを常に意識し、主体的に授業に参加すること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭・元保育士
【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園および公立保育園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、具体的な子どもの姿や保育者の関わりなどをわかりやすく伝え、実践に活かせる保育技術を身につけられるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名:社会的養護 I 英語表記: Social Care I ナンバリング: 2105		単位数: 2単位 (半期) 講義	担当教員名: 高橋努 担当形態: 単独
科目/系列	/保育の本質・目的に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/社会的養護 I		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 児童福祉施設における保育士の役割や、仕事の内容など「社会的養護」を学ぶ意義を理解できる。			
2. 現代の子どもたちがかかえる、虐待の問題や、施設で生活する子どもたちの実情を理解できる。			
3. 子どもの権利、障害児の実情などを理解できる。			
【授業の概要】			
保育士の活躍する職場は、保育所だけでなく、乳児院、児童養護施設、障害児施設、障害者支援施設等多岐にわたっており、これら施設は、児童福祉法に規定された児童福祉施設として保育士の活躍の場として大きな位置を占めている。これらの施設利用者や施設について理解を深め、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷や制度、実施体系等について学び、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本および現状と課題について理解を深める。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回: 社会的養護の理念と概念		授業前に調べ学習等で事前学習をしっかりと行い、授業に備えること。(毎回2時間)	
第2回: 社会的養護の歴史的変遷		特に日頃から児童福祉に関するニュースをチェックしておくことが重要である。(1時間)	
第3回: 子どもの人権擁護と社会的養護			
第4回: 社会的養護の基本原則			
第5回: 社会的養護における保育士等の倫理と責務			
第6回: 社会的養護の制度と法体系			
第7回: 社会的養護の仕組みと実施体系			
第8回: 社会的養護とファミリーソーシャルワーク			
第9回: 社会的養護の対象と支援のあり方			
第10回: 家庭養護と施設養護			
第11回: 社会的養護にかかわる専門職			
第12回: 社会的養護に関する社会的状況			
第13回: 施設等の運営管理の現状と課題			

第14回：被措置児童等の虐待防止の現状と課題	
第15回：社会的養護と地域福祉の現状と課題	
定期試験：筆記	
【授業の方法】 テキストを中心とした、講義形式で授業を行う。 各授業の予習を各自がしっかりと行い、事前の調べ学習、レポート作成等アサインメントの提出が重要である。また、授業ノートをきちんと作成すること。（ノートの提出・提出物を確認してフィードバックする。）	
【テキスト】 『社会的養護Ⅰ』 公益財団法人児童育成協会 監修／相澤仁、林浩康 編集 中央法規出版	
【参考書・参考資料等】 授業内で指示する。	
【学生に対する評価】 筆記試験(50%)、アサインメントの提出(25%)、小テスト(25%)を総合的に評価する。 (アサインメント及び小テストは、ルーブリック評価を活用する。)	
【履修上の注意】 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰ（施設）及び保育実習指導Ⅰ（施設）につながる大切な授業である。 ・施設種別の理解を深めるため、アサインメントなど積極的に調べ学習を行うこと。 ・授業ごとに、小テストを実施。授業の振り返りに役立てること。 	
実務経験の有無：有	実務経験：施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、児童福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：教育原理 英語表記：Principles of Education ナンバリング：2106		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：伊藤道雄 担当形態：単独
科目／系列	教育の基礎的理解に関する科目／保育の本質・目的に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想／教育原理		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 教育に興味と関心を持ち、教育の基本概念から教育の意義や目的が理解できる。 2. 歴史的観点から教育や学校の変遷が理解できる。 3. 教育者による教育の思想を理解し、子どもと学校・家庭の教育へのかかわりが理解できる。			
【授業の概要】			
教育とは何か、について教育の歴史や思想において、それらがどのように取り扱われ、幼児教育や学校の役割や営みがどのように捉えられ変遷してきたのかを理解する。このことを踏まえ現代における教育とは何かを考えていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション、学園訓と教育、教育原理で学ぶこと 第2回：教育とは何か（目的・意義）自分が受けてきた教育を知る 第3回：教育の社会化（人間が受け次いできた教育の意味を知る） 第4回：教育の変遷（西洋：制度・法・人物） 第5回：教育の変遷（日本：制度・法・人物） 第6回：望まれる教師の役割（人に求められるもの） 第7回：学習するということ 第8回：幼児教育に期待されること（家庭や社会と学校の連携） 第9回：子供の理解（成長と発達） 第10回：教育の実践（方法・計画など） 第11回：現代の教育課題（生涯教育他） 第12回：「教育とは何か」相互教授とフィードバックテスト 第13回：「教育とは何か」相互教授とフィードバックテスト 第14回：「教育とは何か」の模造紙作成（グループワーク） 第15回：「教育とは何か」の模造紙発表（グループワーク） 定期試験：筆記		（毎回 60～90 分必要） ・テキストと配布資料を必ず読んでおくこと。 ・図書館や Web サイトで配布課題を調べておくこと。 ・教育関連の重要条文を覚えるように事後学習をすること。 ・現代の教育問題を自分なりに取り上げておくこと。 ・課題の人物と業績を調べておくこと。 ・幼児教育の現代的課題を抜き出しておくこと。 ・子供の成長と発達に合わせた教育についての考えを書き出しておくこと。 ・担当部分の相互教授資料を完成させて、プレゼンテーションの準備をしておくこと。	

【授業の方法】 講義とグループワーク（相互教授など）を実施し、学生中心の学習活動を主とする。その中から湧き出た事柄を学生同士で話し合い、理解を深める形式で授業を進め、フィードバックを行う。	
【テキスト】 『幼児期から児童期への教育』国立教育政策研究所編、ひかりのくに株式会社発行	
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・解説とポイント(最新版)、小学校教職課程学生ハンドブック（東京都教育委員会）、教育小六法(最新版)（市川須美子編、学陽書房）他 関連する書籍などは授業中に提示する。	
【学生に対する評価】 発表資料・レポート（30%）・授業参画度（10%）・定期試験（60%）で総合的に評価する。 目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。	
【履修上の注意】 アクティブ・ラーニング形式の授業、学生で作る方式の授業なので、事前事後学習を怠らないことや欠席しないことなど、積極的に授業に臨む姿勢と意欲が重要である。	
実務経験の有無：有	実務経験：元小学校教諭、元特別支援学校教諭、校長、指導主事
【実務経験を生かした教育内容】 実務経験を活かし、具体的な事例を紹介しながら授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：こども学 英語表記：Child Study ナンバリング：2201		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：塚越亜希子 担当形態：単独
科目/系列	/ 保育の対象の理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 「こども」についての概念を理解できる。 2. 保育所・幼稚園において展開される日々の活動が「保育のねらい」に基づくものであることの認識を深めることができる。 3. こどもにとって欠かすことのできない「遊ぶ」をはぐくむために保育者としての役割を理解することができる。			
【授業の概要】			
心理学、社会学、文化人類学等、様々な見地から「こども」を概観し「こどもの文化」を捉えた上で、「昔遊び」など実際に保育で取り入れたい内容を実践的に学ぶ。 また、現代の「こども」を取り巻く問題、保育者の役割や保育の課題等について考える。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション・こども学での「学び」		・毎回の講義について復習し、学びや気づきの整理、課題などに取り組む (授業ごとに1時間程度)	
第2回：こども学の領域と子どもという概念		・日頃からこどもと触れ合う機会を多く持ち、また公園等でこどもの様子を意識的に観察することで、自分がこどもだった頃との違いを考えておくこと。	
第3回：私がこどもだった頃			
第4回：幼稚園教育要領・保育所保育指針から「こども」を考える			
第5回：こどもにとって遊びとは			
第6回：こどもの遊び①～自然を素材にして遊ぶ			
第7回：こどもの遊び②～環境を素材にして遊ぶ			
第8回：こどもの遊び③～廃材を素材にして遊ぶ			
第9回：こどもの遊びと文化・伝統・風習			
第10回：こどもの「遊ぶ」を育む保育者の役割とは①～こども理解			
第11回：こどもの「遊ぶ」を育む保育者の役割とは②～保護者理解			
第12回：こどもの「遊ぶ」を育む保育者の役割とは③～環境理解			
第13回：遊びを学びにつなげる			
第14回：保育者として必要な資質とは何か			
第15回：まとめと授業内試験			

定期試験：なし	
【授業の方法】 講義とグループワークを中心に授業をすすめる。小レポートなどをもとに討議し、講評する。	
【テキスト】 『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』（いずれも平成30年フレール館）	
【参考書・参考資料等】 適宜プリントを配布する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（20%）、授業内小レポート（30%）、レポート（50%） ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。	
【履修上の注意】 ・目的意識を持って授業に臨むこと。 ・積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為は慎むこと。 ・授業内で提示する課題等の提出期限は厳守すること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭
【実務経験を生かした教育内容】 幼稚園教諭として培った子ども理解、保護者対応、環境構成の実践知を授業に生かし、理論と現場を結び付けた具体的で実践的な学びを提供する。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：育ちと学びの心理学 英語表記：Developmental Psychology ナンバリング：2202		単位数：2単位 (半期)講義	担当教員名：加藤達矢 担当形態：単独
科目/系列	教育の基礎的理解に関する科目/保育の対象の理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程 /保育の心理学		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関わる外的・内的要因、発達理論を理解し、幼児教育・保育における発達理解の意義を説明できる。 2. 乳幼児期から青年期における運動、言語、認知、社会性の発達の具体的内容を説明できる。 3. 学習の形態、概念、その過程等、学習に関する基礎的知識を理解しており、乳幼児の発達を踏まえた主体的学習を支える指導の在り方について説明できる。			
【授業の概要】			
幼児教育・保育の実践のためには、人間の生涯発達について理解し、乳児期、幼児期、児童期、青年期の運動、言語、認知、社会性の発達について具体的に理解していることが重要である。本授業では、まず子どもの心身の発達に関わる外的・内的要因、発達理論について学び、幼児教育・保育における発達理解の意義について学ぶ。その上で、乳幼児期の身体機能、運動機能、情緒、自己、言語、認知、社会性の発達について、その過程や特徴について学び、幼児教育・保育における子どもの発達への援助について考える。さらに、学習の形態、概念、その過程など学習に関する基礎的知識を学び、乳幼児期の心身の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の在り方についても実践的に考えていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：幼児教育・保育における発達理解の意義と発達理解の方法		・授業前に配布資料、参考文献等をもとに学習し、関心のある点、疑問点を整理しておく。疑問点については、調べておく。	
第2回：乳幼児の発達に関わる外的・内的要因と理論			
第3回：生涯発達における発達段階と課題			
第4回：胎児期・新生児期の発達			
第5回：乳幼児期の身体機能、運動機能の発達		・授業後は配布資料や参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめておく。	
第6回：乳幼児期の愛着、情緒、自己の発達			
第7回：乳幼児期の言語の発達			
第8回：乳幼児期の認知の発達			
第9回：乳幼児期の社会性の発達			
第10回：児童期の運動、言語、認知、社会性の発達			
第11回：青年期の運動、言語、認知、社会性の発達			

<p>第12回：成人期から老年期の発達</p> <p>第13回：乳幼児期の発達と学習—学習形態、概念、過程—</p> <p>第14回：幼児の主体的学習を支える指導とかかわり —動機づけ、集団づくり、学習評価、指導の在り方—</p> <p>第15回：個人差や発達課題に応じた指導と援助</p> <p>定期試験：筆記</p>	<p>・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。</p>
<p>【授業の方法】 講義、グループでの演習やワーク。小レポートにコメントを入れて返却する。</p>	
<p>【テキスト】 なし。授業時に適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 授業において指示する</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度（30%）、小レポート（20%）、定期試験（50%）、評価はルーブリックに準じる。</p>	
<p>【履修上の注意】 受講にあたっては、配布資料、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：教育機関カウンセラー（小学校・中学校・高校・大学）、精神科クリニック、私設カウンセリングオフィス勤務（臨床心理士、公認心理師）</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 精神科クリニックや教育機関などの勤務経験を活かして、実践的な講義を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名:子どもの保健 英語表記:Child Health ナンバリング:2205		単位数:2単位 (半期)講義	担当教員名:片口桂 担当形態:単独
科目/系列	/保育の対象の理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/子どもの保健		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達および心身の健康状態とその把握方法について理解できる。 3. 子どもの疾病とその予防法、及び多職種間の連携・協働による適切な対応について理解できる。			
【授業の概要】			
子どもの身体的な発育・発達と保健、及び子どもの心身の健康状態とその把握方法について学ぶとともに、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学ぶ。子どもの疾病とその予防法、及び多職種間の連携・協働による適切な対応についての基礎知識を得る。 更に、保育者として子どもの健やかな育ちを援助するために、社会情勢や子育ての制度についても理解を深めることができる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回:子どもの心身の健康と保健の意義を理解する		予習は、あらかじめ教科書を読みわからない言葉は調べておく。復習は、授業ポイントをまとめ、理解できなかった点や疑問に思った点は再学習する。	
第2回:子どもの出生、子どもの成長・発達を理解する		日ごろから乳幼児に関する保健や病気に関する報道・記事に意識的に目を向けるようにし、把握するよう心掛ける。また、それに対して自分なりに考える習慣を身に付ける。課題は提出期限をまもる。	
第3回:子どもの身体的発育と運動機能の発達を理解する		標準学修時間の目安: 講義内容の予習、復習、宿題を含めて60~120分程度の時間が必要である。	
第4回:子どもの生理機能の発達と生活習慣を理解する			
第5回:子ども・子育て世代を対象とした制度を学ぶ ①(母子保健法・母子保健活動の概要について理解する)			
第6回:子ども・子育て世代を対象とした制度を学ぶ ②(健やか親子21、子育て支援対策について理解する)			
第7回:子ども・子育て世代を対象とした制度を学ぶ ③(児童虐待防止の取り組みの概要を理解する)			
第8回:子どもの病気①免疫・感染症への対策を学ぶ			
第9回:子どもの病気②免疫・感染症への対策を学ぶ			
第10回:子どもの病気③新生児期の病気と対応を学ぶ			
第11回:子どもの病気④慢性疾患と対応を学ぶ			

<p>第12回：子どもの病気⑤アレルギー疾患と対応を学ぶ</p> <p>第13回：子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握を学ぶ</p> <p>第14回：子どもの病気⑥救急疾患の特徴と対応を学ぶ</p> <p>第15回：子どもの保健についての学びと保育者の役割を総括し、 理解を深める</p> <p>定期試験：筆記試験</p>	
<p>【授業の方法】 講義PBL（課題解決型学習）を取り入れ、ディスカッション時間を設定しグループワーク、発表も行う。教科書の「振り返り問題」「リアクション・ペーパー」を活用し授業内でフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】 『子どもの保健テキスト（改訂第3版）』 小林美由紀編著 診断と治療社</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 適宜、参考資料を配布、紹介。「アレルギー対応ガイドライン」「感染症対策ガイドライン」</p>	
<p>【学生に対する評価】 定期試験の成績（60%）、提出物（課題）（30%）、授業参画度と授業ごとのリフレクションシート（10%）、ルーブリック評価も活用し総合評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 日ごろから乳幼児に関する報道（特に保健や病気）を意識的に把握するよう心掛け、自分なりに考える習慣を身に付けるとよい。授業中の私語、スマホ操作、写真・動画撮影、通信操作は禁止とする。音楽を聴きながらの受講も禁止とする。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：保育所、児童発達支援事業所</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 子どもの施設に従事する保育者にとって、子どもの成長・発達について、その実際を伝え、子どもを取り巻く環境や社会情勢の変化の中で「子どもの健康」守る責務を学べるよう努める。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：教育課程と保育の計画・評価 英語表記：Kindergarten Curriculum and Childcare Theory ナンバリング：2301		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：眞柄絵里 担当形態：単独
科目/系列	教育の基礎的理解に関する科目/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)/保育の計画と評価		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育・教育課程の意義や編成方法を理解できる。 2. 乳幼児一人一人の発達や生活の実情を踏まえ、柔軟に具体的な指導計画を作成できる。 3. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、自身の視点で計画を評価・省察できる。			
【授業の概要】 保育・教育課程の意義や必要性を理解し、幼稚園・保育所・認定こども園における保育者としての役割を考察する。指導計画は責任実習において不可欠であり、将来、保育者として実践することを念頭に、乳幼児の発達・生活を踏まえ、環境構成・援助等、内容と方法を具体的に作成する。実際に立てた指導計画に基づき、グループでマイクロティーチングを行い、保育を客観的に評価する視野を養う。更に、指導計画を適切に修正していくカリキュラム・マネジメントの意義を実践的に学んでいく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション －授業の進め方の説明、保育・教育課程とは何か－ 第2回：保育・教育課程の基本－法令(幼稚園教育要領、保育所保育指針等)から読み解く－ 第3回：保育・教育課程の歴史的変遷－保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂の流れと教育観－ 第4回：幼稚園・保育所・認定こども園の理解 －保育・教育課程の体系化、指導計画の理解－ 第5回：教育課程・全体的な計画と指導計画 －それぞれの教育課程と指導計画の実際－ 第6回：短期の指導計画－週案と日案の編成方法と具体的事例－ 第7回：部分指導案の編成方法－部分指導案の各観点の記載方法と具体的事例－		【授業時間外の学習】 ・教科書を熟読して授業に臨み、授業後は授業内容や自分の考えをノートにまとめて整理しておく。 ・第8・9回目は、各自が考えた制作やレクリエーションの部分指導案を作成する。そのため、図書館やインターネットなどを活用して、事前に資料を収集しておくこと。 ・第11～第13回目は、円滑な保育実践が行えるように、各グループで討議を重ね、計画的に教材準備や模擬保育の練習を進めること。	

<p>第8回：年齢別の部分指導案の編成：乳児－乳児の部分指導案の配慮と留意点および作成－</p> <p>第9回：年齢別の部分指導案の編成：幼児－幼児の部分指導案の配慮と留意点および作成－</p> <p>第10回：保育評価の基礎理解－保育評価の種類、保育所児童保育要録と幼稚園幼児指導要録、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメント－</p> <p>第11回：マイクロティーチングの準備－各班で模擬保育のテーマ設定および部分指導案の作成－</p> <p>第12回：マイクロティーチングの実施（1回目） －模擬保育の実践と反省、修正指導案の編成－</p> <p>第13回：マイクロティーチングの実施（2回目）－1回目の修正指導案に基づき、再度、模擬保育の実践と反省－</p> <p>第14回：マイクロティーチングの成果発表 －グループの成果発表と全体討議－</p> <p>第15回：授業のまとめ －学習の振り返り、保育・教育課程の課題と展望－</p> <p>定期試験：筆記</p>	<p>予習・復習には1～2時間程度の時間が必要である。</p>
<p>【授業の方法】 教科書や配布プリントに基づいて、講義、討論、グループワークを行う。模擬保育の準備の中で、図書館やICTを活用し、自主的に課題を遂行する。課題にコメントを入れて返却する。</p>	
<p>【テキスト】 『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（いずれも最新版）</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『教育課程・保育の計画と評価』岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 萌文書林 『0～6歳 心の育ちと対話する保育の本』加藤繁美著 学研</p>	
<p>【学生に対する評価】 定期試験の成績（50%）、課題（30%）、授業参画度等（20%）。ルーブリックを活用し総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 教育・保育課程を編成し指導計画を作成することは、教育実践における道しるべとして重要な意味をもつ。自身が保育者として実践することを見据え、積極的に講義に参加して欲しい。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：元幼稚園教諭・元保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園および公立保育園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、具体的な子どもの姿や保育者の関わりなどをわかりやすく伝え、実践に活かせる保育技術を身につけられるよう授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育内容総論 英語表記：Studies of Nursing(Introduction Nursing) ナンバリング：2302		単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名： 塚越亜希子・三友玲子 担当形態：クラス分け
科目/系列	/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/保育内容総論		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解できる。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できる。 3. 子どもの生活や社会的背景や保育内容の歴史の変遷を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に備えて、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解できる。			
【授業の概要】 保育内容の歴史、保育所保育指針における「保育の目標」等の保育所保育指針の考え方とその構造を理解した上で「保育内容」と関連付けて、具体的に保育を展開する方法を、講義及び演習によって学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：保育の基本及び保育内容の理解 第2回：保育の全体構造と保育内容 第3回：保育内容の歴史の変遷とその社会的背景 第4回：子どもの発達や生活に即した保育内容 (乳児～3歳未満) 第5回：子どもの発達や生活に即した保育内容 (3歳以上・異年齢) 第6回：個と集団の発達を踏まえた保育 第7回：養護及び教育が一体的に展開する保育内容 第8回：環境を通して行う保育 第9回：生活や遊びによる総合的な保育について 第10回：家庭や地域、小学校などとの連携を踏まえた保育 (長時間保育を含む)		【授業時間外の学習】 1. 保育所保育指針の熟読(60分程度) 2. 振り返りシート作成(60分程度) 3. 我が国の園の歴史調べ(60分程度) 4. シート3歳未満児作成(60分程度) 5. シート3歳以上児作成(60分) 6. テーマについて予習復習(60分) 7. 保育所保育指針の熟読(60分) 8. 環境を通して行う保育の意味の考察(60分程度) 9. 園の生活や遊び調べ	

第1 1回：特別な配慮を要する子どもの保育 第1 2回：多文化共生の保育 第1 3回：保育における観察と記録・保育計画の立案 第1 4回：保育計画を実践 第1 5回：保育計画の実践と振り返り 定期試験：なし	(60分) 10. 地域・小学校との連携調べ(40分) 11. 特別な配慮を要する子どもの保育の調査(60分程度) 12. 多文化共生の保育調べ(50分程度) 13. 保育計画立案・準備(90分) 14. 保育計画の実践(90分) 15. 実践を振り返りPDCAについて理解しレポートにまとめる(120分)提出
【授業の方法】 演習。小テストをしてフィードバックする。	
【テキスト】 改訂新版『マンガとアクティブラーニングで学ぶ保育内容総論』開 仁志 編著 教育情報出版 その他資料 随時配布。	
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）、その他配布資料。	
【学生に対する評価】 ルーブリックを活用し評価を行う。 授業内提出物・制作課題・課題レポート（50%）、実践発表（30%）、授業参画度（20%）。	
【履修上の注意】 予習・復習を必ず行い、内容を理解した上で授業に臨むこと。積極的に授業に参加して活発な発言や演習を行うこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭
【実務経験を生かした教育内容】 保育者としての経験を活かし、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における保育士の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育内容(健康)指導法 英語表記：Method of Nursing(Health) ナンバリング：		単位数：1単位 (半期)演習	担当教員名：井上裕美子 担当形態：単独
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 /保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む) /保育内容演習		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 領域「健康」のねらいと内容を理解し、子どもの発達と関連づけて説明できる。 2. 健康に関する保育場面を想定し、指導計画を立案できる。 3. 模擬的な実践と振り返りを通して、指導の改善点を考察できる。			
【授業の概要】 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「健康」におけるねらいと内容について理解する。子どものこころとからだの発達、遊びの持つ意義、生活習慣の獲得の過程を学ぶ。子どもの健康を取り巻く現代的な問題を念頭に置きながら、子どものこころとからだの発達段階に合った健康の指導法について学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「健康」 第2回：子どもの心身の発達と発達 第3回：子どもの運動発達 第4回：子どもの遊びと健康①乳児・1-2歳の遊びと保育者の援助 第5回：子どもの遊びと健康②体を動かす遊びと保育者の援助 第6回：子どもの遊びと健康③指導案作成と模擬保育 第7回：基本的な生活習慣① 睡眠・食事 第8回：基本的な生活習慣② 衛生・排泄・衣服の着脱 第9回：基本的な生活習慣③ 指導案作成 第10回：基本的な生活習慣④ 模擬保育と評価・省察 第11回：子どもの健康と食育 第12回：子どもの怪我と安全管理 第13回：子どもの病気や疾患について 第14回：子どもの「健康」をめぐる現状と課題 第15回：子どもの健康における幼保小の連携について		【授業時間外の学習】 本授業では、各回につき事前・事後合わせて2時間程度の学習を要する。 事前学習(1時間程度) ・該当回のテーマに関する教育要領・保育所保育指針の該当箇所を読み、ねらいと内容を整理する。 ・子どもの健康や生活習慣について、自身の経験や観察を振り返り、疑問点や気づきをまとめる。 事後学習(1時間程度) ・授業で扱った事例や模擬保育の内容を振り返り、改善点を記述する。 ・指導案の修正や具体化を行う。	

定期試験：期末課題（記述試験）	・子どもの健康に関する社会的課題について、自分なりの考えを整理する。
【授業の方法】 講義及び演習。レポートについてはフィードバックする。	
【テキスト】 『主体としての子どもが育つ 保育内容「健康」』	
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』	
【学生に対する評価】 指導案作成（30%）、模擬保育および振り返り（20%）、期末課題（記述試験）（50%） 評価はルーブリックに基づいて行う。	
【履修上の注意】 事前事後の学習を行い授業に積極的に参加すること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士
【実務経験を生かした教育内容】 幼稚園・保育所でのクラス担任や中間管理職の経験を活かし、保育方法や技術及び子ども理解、チームで保育を実践することについて具体的な事例を用いながら教授する。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：乳児保育 I 英語表記：Infant Care I ナンバリング：2312		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：加藤房江 担当形態：単独
科目/系列	/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/乳児保育 I		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷・役割、現状と課題について理解できる。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容や運営体制について理解できる。 3. 乳児保育の職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携、乳児保育の現状・課題等を理解できる。			
【授業の概要】 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状・課題等を理解する。あわせて、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容や運営体制について学ぶとともに、乳児保育における職員間の連携・協働、ならびに保護者や地域の関係機関との連携の重要性について理解を深める。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション、乳児保育の意義と目的 第2回：乳児保育の歴史の変遷と役割・機能 第3回：乳児保育における養護及び教育と乳児保育の基本 第4回：3歳未満児の発達、愛着 第5回：3歳未満児の保育内容 1 第6回：3歳未満児の保育内容 2 第7回：3歳未満児の保育内容 3 第8回：0歳児（乳児）の保育内容 1 第9回：0歳児（乳児）の保育内容 2 第10回：職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携 第11回：乳児保育における計画・記録・評価 第12回：3歳未満児の遊びと環境 1 第13回：3歳未満児の生活と環境 2 第14回：3歳未満児の発達・発育を踏まえた保育における配慮 1 第15回：3歳未満児の発達・発育を踏まえた保育における配慮 2 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 予習には、1時間程度の時間が必要であり、テキストを精読する。 予習プリントの課題がある場合は、事前に記入して、授業に臨むこと。 授業終了後は、1時間程度の復習を行う。	

【授業の方法】 講義、視聴覚教材を通して乳児保育の意義や歴史の変遷、乳児を取り巻く社会状況、保育の方法を理解する。レポートや小テスト等を行い学習の定着を図る。グループワークを通して能動的に実践することで、保育を構成する力を身につける。学生からの課題に対して、レポートや課題にコメントを入れてフィードバックする。	
【テキスト】 『見る・考える・創り出す「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林	
【参考書・参考資料等】 『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） 『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版） 『マンガでわかる保育所保育指針』浅井拓久也 著 中央法規	
【学生に対する評価】 ループリック評価・授業内提出物・課題レポート・小テスト（70%）、授業参画度・発表（30%）等で判断する。	
【履修上の注意】 ・保育士になるための大切な授業であり、自ら調べ積極的姿勢で学ぶこと。 ・グループワークや模擬保育は協力して行い、演習に必要な持参物品を忘れない。 ・受講にあたって、事前事後の学習を行い、積極的態で授業に臨むことを期待する。	
実務経験の有無：有	実務経験：元主任保育士
【実務経験を生かした教育内容】 保育士の経験を活かし、乳児保育の基礎的知識の定着を図り、実際の保育現場の心構えなどを習得できるように授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：特別支援教育 英語表記：Special-needs Education ナンバリング：2315		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：伊藤道雄 担当形態：単独
科目／系列	教育の基礎的理解に関する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解／		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由病弱等を含む障害のある幼児児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につけることができる。 2. 発達障害や軽度の知的障害等目に見えにくい特別な支援を必要とする幼児児童及び生徒の支援の在り方や支援方法を例示できる。 3. 特別の教育的ニーズが必要な児童等の学習上又は生活上の困難とその組織上の対応を理解できる。			
【授業の概要】 障害のある子どもの生きにくさと子どもの良さを理解し、支援・指導の在り方を体験的に理解し見識を広げる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション・特別支援教育の理念を知る		・特別支援教育の理念を調べる。(1時間)	
第2回：幼稚園や保育所での障害のある子の現状や実態を知る			
第3回：就学指導の手続きを知り教育の体制や支援の在り方を知る		・就学の制度と教育(1時間)	
第4回：肢体不自由の理解と指導・支援(車椅子の体験)		・肢体不自由児の特性を調べる。	
第5回：肢体不自由の理解と指導・支援(特性の理解)		・視覚障害者の課題を調べる。(1時間)	
第6回：視覚障害児の理解と指導・支援(白杖の体験)		・視覚障害者への配慮調べる。(1時間)	
第7回：視覚障害児の理解と指導・支援(盲者の特性の理解)		・聴覚障害者の課題を調べる。(1時間)	
第8回：聴覚障害のある人々の生き方とその支援(映画)		・聴覚障害者の課題を調べる。(1時間)	
第9回：聴覚障害児の理解と指導・支援(ろう学校の教育と理解)		・手話の理解と活用を調べる(1時間)	
第10回：聴覚障害児の理解と指導・支援(手話の活用)		・知的障害者の課題を調べる。(1時間)	
第11回：知的障害児の理解と指導・支援(特性の理解とテスト等)		・ADHD児の課題を調べる。(1時間)	
第12回：知的障害児の理解と指導・支援(特別支援学校の教育)		・学習障害児の課題を調べる。(1時間)	
第13回：注意欠如多動性障害・学習障害児の理解と指導・支援(特性の理解)			
第14回：学習障害児や特別な教育的ニーズを必要とする子の理解と			

<p>指導・支援（特性の理解）</p> <p>第15回：自閉スペクトラム症障害の理解と支援（特性の理解）</p> <p>※個別の教育支援計画と個別の指導計画、支援とインクルーシブ体制</p> <p>※早期発見・早期支援、保護者の心理と障害受容、</p> <p>定期試験：筆記</p>	<p>・自閉症児の課題を調べる。 (1時間)</p>
<p>【授業の方法】</p> <p>講義、発表（毎回、課題をレポートし発表する。予習が必要。）。発表に対しフィードバックする。自らの体験活動を通じ、障害を理解する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「はじめての特別支援教育～教職を目指す大学生のために～」 柘植雅義編 有斐閣アルマ</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>適宜配布する。</p>	
<p>【学生に対する評価】</p> <p>定期試験の成績（60％）、提出物や発表・調べ学習（40％）</p> <p>ルーブリック活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <p>実習において子どもたちの障害の状況や実態把握を十分しておいてほしい。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：元小学校教諭、元特別支援学校教諭、校長、指導主事</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p> <p>教諭や担任の経験を活かし、障害のある子のかかわり方やよりよい指導を実践的に行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育者のための社会人基礎講座 英語表記：Fundamental Social skills for preschool teachers ナンバリング：2319		単位数：2単位 (半期)演習	担当教員名：三友玲子 担当形態：単独
科目/系列	/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 社会人として、保育者として社会常識と職業倫理を意識した行動ができる。 2. TPOを心得た適切な敬語表現での会話や文書作成ができる。 3. 社会人として、保育者として必要なコミュニケーション基礎力を身につけることができる。			
【授業の概要】 より良い保育・教育を行うためには、保護者や同僚、地域の人々など周囲の協力と支援が重要となる。そのためにも職業意識や社会人としての常識を身につけることが求められている。 この授業では「信頼される保育者」を目指して、正しい言葉遣いや立ち居振る舞いなどを含めて良識ある社会人・職業人としての基礎を学び、態度変容に結び付ける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 授業の進め方と社会人としての心得等 第2回：第1章 信頼される保育者の要件 第3回：第2章 あいさつ・おじぎなどマナーの基本 第4回：第3章 第2章を踏まえ、保育者にふさわしい服装 第5回：第4章 言葉づかい：声を出して正しい言葉づかいを 第6回：第5章 電話対応：電話のマナーを意識した電話対応 第7回：第6章 来客対応：基本の流れで、来客対応の実際 第5章と第6章の応用：ロールプレイ 第8回：第7章 訪問：訪問の流れ（ロールプレイ中心） 第9回：第8章 文書：文書の基本（目的に応じた文書作成） 第10回：第9章 コミュニケーションの基本1：聴くことの大切さと態度 第11回：第10章 コミュニケーションの基本2：話す注意点と重要性 第12回：第11章 コミュニケーションの基本3：クレーム対応事例から 第13回：第12章 保護者とのコミュニケーション （グループワークで話し合い、ロールプレイ）			【授業時間外の学習】 （前後学習には90分程度必要） ・基本ワークの課題などを済ませ、授業準備をしておく。 ・グループワークに積極的に参加するために事前に自分の考えをまとめておく。 ・ロールプレイの課題は、状況を想定し準備をしておく。 ・文書作成では、目的を設定し、それに応じた文書を作成する。 ・事例については、その対応・対処方法と理由を準備をしておく。

<p>第14回：第13章 保育の場における保育者間の人間関係 (グループでの話し合いと結果発表)</p> <p>第15回：まとめ、社会人・職業人としての心構え</p> <p>定期試験：なし</p>	<p>・課題は、毎回、仕上げてお き、授業終了後は自分の答え との違いを確かめる。</p>
<p>【授業の方法】 学生自らで学びとり、身につけること、つまり態度変容を目標としているので、ロールプレイなども取り入れた学生主体の授業を進める。そのため事前事後の学習が重要である。授業時間中に効果測定を行いフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】 『信頼される保育者のためのコミュニケーションスキル』藤田利久編著 西文社</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 授業の中でその都度紹介。</p>	
<p>【学生に対する評価】 目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。 発表(20%)、課題提出(20%)、小テスト(20%)、効果測定(20%)、授業参画度(20%)、を総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 配布されたレジュメはきちんとファイルする。 学生一人ひとりが授業の主役となるため、出席はもとより毎回、事前に課題を仕上げ授業に臨むこと。また、自覚をもって信頼される保育者となるよう積極的に学ぶ姿勢が重要である。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：民間病院医事課、秘書実践科目担当</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 採用面接・新人教育・秘書実践などの経験を活かした授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：子どもと健康 英語表記：Child and Health ナンバリング：2320		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：金美珍 担当形態：単独
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 / 保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	領域に関する専門的事項・健康 / 保育内容の理解と方法		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 領域「健康」のねらい及び内容を理解し、子どもの健康な姿とその発達について理解できる。 2. 幼児の安全な生活と怪我や病気の予防を理解できる。 3. 幼児の運動発達の特徴と意義を理解できる。			
【授業の概要】 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：乳幼児期の健康問題（健康の定義と乳幼児期の健康の意義） 第2回：乳幼児期の健康問題（乳幼児を取り巻く生活環境と健康） 第3回：乳幼児期の身体的発達の特徴 第4回：乳幼児期の生理的機能の発達 第5回：乳幼児期の生活習慣の獲得 第6回：乳幼児期の生活リズムの形成とその意義 第7回：幼児の安全教育と危険（リスクとハザード） 第8回：子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性和安全管理 第9回：幼児期に起こりやすい怪我や事故の特徴 第10回：応急処置の基礎及び病気の予防 第11回：乳幼児期の運動能力の特徴（運動コントロール能力の発達） 第12回：乳幼児期の運動能力と特徴 （多様な動きの意味及び両者の関係） 第13回：日常生活における運動 第14回：遊びとしての運動		【授業時間外の学習】 ・豊かな暮らしが子どもの発達にどのように影響しているかについて、プラス面とマイナス面の双方から考え、まとめ、授業時に提出する。 （1時間） ・健康的な生活リズムについて、子どもたちにわかりやすく伝えられる絵本や紙芝居、ペープサート等の教材を作成して、授業時に提出する。 （1時間） ・保育の内容としてふさわしい伝承遊びを挙げ、その意義、遊び方についてまとめ、授業時に提出する。（1時間）	

第15回：子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方	
定期試験：筆記	
【授業の方法】 基本的に講義形式で授業を進める。学生の理解度を確認するため、授業内で出題されるレポートや課題について、個別に具体的なコメントを添えてフィードバックを行う。	
【テキスト】 『幼稚園教育要領』（最新版）、 『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育者をめざす保育内容（健康）』 『子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」』（池田裕恵（編）、杏林書院）	
【参考書・参考資料等】 『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子他、萌文書林）	
【学生に対する評価】 定期試験の成績（50%）、授業への取り組み・討論への貢献度（30%）、レポート（20%）として総合的に判断する。到達目標に対する達成度は、ルーブリックに基づいて判定する。	
【履修上の注意】 ・授業にあたっては事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。 ・レポートや課題提出は、期限を守ること。	
実務経験の有無：有	実務経験：地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所非常勤 研究員
【実務経験を生かした教育内容】 東京都健康長寿医療センター研究所における健康・医療研究の実務経験を活かし、人の一生涯における身体の形態的・機能的発達について体系的に解説する。特に、心身の発達が著しい幼児期に焦点を当て、各発達段階における特徴や支援方法について、具体的な事例を交えながら講義を展開する。これにより、発育発達に関する専門的知識と実践的な理解を深めることを目指す。	

<p>第10回：幼児期の生活を通じた人と関わる力の発達 第11回：乳幼児期の自立心の発達－自我の芽生え、自己の発達－ 第12回：幼児期の協同性の発達－集団活動、行事等を通して－ 第13回：幼児期の道徳性・規範意識の発達－葛藤経験を通して－ 第14回：幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 第15回：人と関わる力を育てる保育者の役割 定期試験：筆記</p>	<p>理解をさらに深め、学習した内容についてまとめておく。</p>
<p>【授業の方法】 講義、グループでの演習やワーク。單元ごとの小レポートにフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 「保育内容「人間関係」と指導法：考える・調べる・学び合う」 中央法規出版</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・解説とポイント』（最新版）</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度（20%）、小レポート（30%）、定期試験（50%）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 受講にあたっては、教科書、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：精神科クリニック勤務（臨床心理士、公認心理師）</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 精神科クリニックの勤務の経験を活かして、実践的な講義を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：子どもと環境 英語表記：Child and Environment ナンバリング：2322		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：片口桂 担当形態：単独
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 / 保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	領域に関する専門的事項・環境 / 保育内容の理解と方法		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 領域「環境」で必要となる感性を養い、基礎となる身近な環境の理解を深める実践知を身につける。 2. 様々な環境（人的環境・物的環境・社会的環境など）について理解し、現代の子どもを取り巻く環境の現状を知り、適切な環境について学ぶ。 3. 子ども発達や成長に即した環境を提供できるようにその方法や過程を理解する。			
【授業の概要】 領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、子どもと環境との関わりの発達について学ぶ。子どもを取り巻く環境の現状や課題を理解し、適切な環境について考えることができるようにする。保育者も環境の一つであることを意識し、子どもへの働きかけや言葉かけ、対応について学びあい実践できるようになることを目指している。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：領域「環境」について、主体的な環境とのかかわりの意味を学ぶ 第2回：人間の生活と環境について学ぶ 第3回：ESDとSDGsについて学ぶ 第4回：子どもにとっての社会的環境の重要性を理解する 第5回：子どもの施設の保育環境について学ぶ 第6回：子どもと自然について学ぶ①（遊び、体験） 第7回：子どもと自然について学ぶ②（動植物とのかかわり） 第8回：子どもにとっての「環境」としての保育者のかかわりを理解しまとめる（人的環境）（グループワーク、発表） 第9回：3歳未満児の発達における環境との関わり①（乳児の育つ環境） 第10回：3歳未満児の発達における環境との関わり②（保育室の環		【授業時間外の学習】 ・毎回の課題の予習と復習（1時間） ・次週のテーマについての調べ学習（1時間） グループワークの準備とまとめ（1時間） グループ発表の準備（1時間）	

<p>境構成)</p> <p>第11回：3歳以上児の発達における環境との関わり①②（幼児の育つ環境と教室・保育室の環境構成）</p> <p>第12回：現代社会の乳幼児を取り巻く環境とその課題 (グループワーク)</p> <p>第13回：(グループ発表) 現代社会の乳幼児を取り巻く環境とその課題 (グループ発表と振り返り)</p> <p>第14回：季節と保育環境の関連について学ぶ (グループワーク)</p> <p>第15回：「環境」を通して行う教育・保育のまとめ</p> <p>定期試験：なし</p>	
<p>【授業の方法】</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「環境」のねらいと内容について理解し、実践できるように授業を行う。また、グループワークを通して意見を出し合い、発表する等、積極的に自分の意見を出し合う機会を設ける。課題やグループワークについてフィードバックを行い、理解を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『幼稚園教育要領解説』（最新版）、『保育所保育指針解説』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>必要に応じて図書館で必要な資料を探し借りる。</p>	
<p>【学生に対する評価】</p> <p>提出物や口頭発表（30%）、授業参画度等（20%）、期末課題（50%）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <p>普段から子どもを取り巻く様々な環境に興味・関心を寄せるようにする。各解説書を必ず持参すること。領域「環境」について事前事後の学習を行うことを前提に授業を進めていく。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：保育所 児童発達支援事業所</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p> <p>保育所等の実務経験を活かし、子どもの生活、発達にとって環境が大切かを具体的に学べるように授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：子どもと言葉 英語表記：Child and Language ナンバリング：2323		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：細田香織 担当形態：単独
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	領域に関する専門的事項・言葉 ／保育内容の理解と方法		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 言葉のもつ意義と機能を理解できる。 2. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解できる。 3. 言葉を育て、想像力を育む児童文化財の意義について理解し、実践力を身につけることができる。			
【授業の概要】			
「言葉」の意義と機能について理解した上で、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：言葉にはどのような力があるか—意見の交流から— 第2回：言葉の意義と機能 第3回：言葉の獲得—乳児期から小学校前まで— 第4回：小1プロブレムと幼・保で育てる「言葉」について 第5回：読み聞かせ・素話・紙芝居・幼年童話の魅力と意義 第6回：読み聞かせ研究の現在と実践家の書籍から 第7回：読み聞かせの実際—現場での実践ビデオから学ぶ— 第8回：昔話の構造と魅力 第9回：昔話絵本の比較から学ぶ 第10回：子守歌・童謡（メロディーを伴った言葉の力） 第11回：『センス・オブ・ワンダー』に学ぶ —子どもの世界を理解し共感し共に探索する姿勢— 第12回：言葉の感覚を豊かにする実践とは① —新聞記事等を基に、事例に学ぶ— 第13回：言葉の感覚を豊かにする実践とは② —自ら実践を考えてみよう—		毎回40分～60分程度 ・絵本リストを作成する。各自、紹介された絵本のみならず、たくさんの絵本を追加できるよう図書館を利用して読み、書き入れること。 (20分) ・読み聞かせを相互に行う。下読み及び、練習をしておくこと。(15分) ・単元に合わせて準備してくることや、振り返り・まとめの文章を書くこと等、宿題が課される。忘れず調べたり用意したりすること。(20分)	

<p>第14回：言葉の感覚を豊かにする実践とは③ ー実践案を交流しようー</p> <p>第15回：言葉の感覚を豊かにする実践を踏まえた部分指導案作成</p> <p>定期試験：筆記</p>	
<p>【授業の方法】 PBL、グループ活動、課題に対するクラス全体での意見交流、ディスカッション等も行う。 読み聞かせ・紙芝居等は、相互に実践を行う。 授業で提出したプリントやレポートには、赤でコメント等を入れて返却する。</p>	
<p>【テキスト】 『子どもの育ちと「ことば」』 監修 松川利広 編著 横山真貴子 教育情報出版</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『子どもとことば』岡本夏木著 岩波書店 『ことばと発達』 岡本夏木著 岩波書店 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳、新潮社 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）他</p>	
<p>【学生に対する評価】 ルーブリック評価について学生に周知し、評価に活用する。 定期試験の成績（50%）、提出物（30%）、授業参画度（20%）を判断して評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 互いに意見を出したり発表したりする活動が多い。主体的に参加し、準備等も行うこと。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：子どもと表現 英語表記：Child and Expression ナンバリング：2324		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：金美珍、 小川弥輪、小日向千秋 担当形態：オムニバス
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 / 保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	領域に関する専門的事項・表現/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの表現の姿とその発達について理解できる。 2. 身体・造形・音楽表現など、様々な表現の基礎的知識と技術を身につけ、子どもの表現活動に展開することができる。 3. 子どもの表現を受け止め、留意点と評価の方法が理解できる。			
【授業の概要】 「表現」とは何かを学び、人間の成長にとって「表現」することの大切さとその発達過程について理解できるようにする。領域「表現」のねらい及び内容を理解し、身体・造形・音楽表現など、子どもが表現する様々な姿と方法を受け止め、子どもの表現活動を支援するための知識と技能、表現力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーションー「表現」とは何か（担当：小川） 第2回：領域「表現」のねらいと内容（担当：小川） 第3回：子どもの発達と音楽表現（担当：小川） 第4回：子どもの音楽表現（歌う活動）（担当：小川） 第5回：子どもの音楽表現（音を鳴らす活動）（担当：小川） 第6回：子どもの発達と造形表現（担当：小日向） 第7回：造形表現の基礎技法（担当：小日向） 第8回：子どもの造形表現（様々な素材）（担当：小日向） 第9回：子どもの造形表現（描く活動）（担当：小日向） 第10回：子どもの造形表現（作る活動）（担当：小日向） 第11回：子どもの発達と身体表現（担当：金） 第12回：子どもの身体表現（リズムと動き）（担当：金） 第13回：子どもの身体表現（音楽と動き）（担当：金）		【授業時間外の学習】 ・毎回の課題の予習と復習 ・次週のテーマについての調べ学習授業で紹介される音楽表現活動の習得 （それぞれ各回各1時間程度） 授業で紹介される造形表現活動の準備と制作 （予習、復習に各回各1時間程度） 授業で紹介される身体表現活動の習得 （予習、復習に各回各1時間程度）	

第14回：子どもの身体表現（イメージと動き）（担当：金）	
第15回：子どもの身体表現（自由な動き）（担当：金）	
定期試験：オムニバスのため、それぞれの授業内で行う。	
【授業の方法】 講義とグループワーク。提出されたワークシートや課題にコメントを入れて返却する。	
【テキスト】 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）	
【参考書・参考資料等】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【学生に対する評価】 成績評価は、ルーブリックを用いた授業内課題・発表の評価（80%）と授業への主体的な参加度（20%）により総合的に判断する。	
【履修上の注意】 感性を豊かに、様々な表現活動を捉えるようにすること。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

<p>第7回：「子どもの歌」弾き歌い(春の歌)歌詞の理解 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第8回：「子どもの歌」弾き歌い(春の歌)歌い方の指導 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第9回：手遊び・指遊び 教員による提示と個人練習 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第10回：手遊び・指遊び 2人組に分かれての練習 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第11回：「子どもの歌」弾き歌い(夏の歌)歌詞の理解 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第12回：「子どもの歌」弾き歌い(夏の歌)歌い方の指導 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第13回：「子どもの歌」弾き歌いのまとめ 復習 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第14回：「子どもの歌」弾き歌いのまとめ 小テスト マンツーマンによるレッスン</p> <p>第15回：「子どもの歌」弾き歌いテスト マンツーマンによるレッスン</p> <p>定期試験：実技</p>	<p>〈個人レッスン〉</p> <p>毎回のレッスンで課題となった曲の練習 (1日15分以上、1週間に合計1時間以上)</p>
<p>【授業の方法】 合同授業と個人レッスン（ピアノ実技指導）。合同授業では課題にコメントを入れてフィードバックを行う。個人レッスンでは一人ひとりの進捗、練習に合わせてフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社 個人レッスン 初級者は『バイエル』 既習者はレベルに合わせて選曲</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 合同授業では楽典、楽曲分析に関する資料を配布する。 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 課題曲の習熟度（ポートフォリオ配布）（30%）、小テスト（10%）、授業参画度（受講上の注意を守る）（10%）、実技試験（50%） ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。</p>	
<p>【履修上の注意】 自己学習の予習、復習が大変重要である。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

<p>第7回：「子どもの歌」弾き歌い（冬の歌） 歌詞の理解 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第8回：「子どもの歌」弾き歌い（冬の歌） 歌い方の指導 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第9回：歌唱活動（アンサンブル）音取り① マンツーマンによるレッスン</p> <p>第10回：歌唱活動（アンサンブル）音取り② マンツーマンによるレッスン</p> <p>第11回：歌唱活動（アンサンブル）部分練習・パート練習 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第12回：歌唱活動（合唱曲）音取り マンツーマンによるレッスン</p> <p>第13回：歌唱活動（合唱曲）部分練習・パート練習 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第14回：歌唱活動（合唱曲）全体練習 マンツーマンによるレッスン</p> <p>第15回：歌唱活動（合唱曲）の発表リハーサル、コールユーブンゲンテスト マンツーマンによるレッスン</p> <p>定期試験：実技</p>	<p>〈個人レッスン〉</p> <p>毎回のレッスンで課題となった曲の練習 （1日15分以上、1週間に合計1時間以上）</p>
<p>【授業の方法】 合同授業と個人レッスン（ピアノ実技指導）。合同授業では課題にコメントを入れてフィードバックを行う。個人レッスンでは一人ひとりの進捗、練習に合わせてフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 個人レッスン 初級者は『バイエル』 既習者はレベルに合わせて選曲 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 合同授業では楽曲分析に関する資料を配布する。 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 課題曲の習熟度（ポートフォリオ配布）（30%）、コールユーブンゲンテスト（10%）、授業参画度（受講上の注意を守る）（10%）、実技試験（50%） ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。</p>	
<p>【履修上の注意】 自己学習の予習、復習が大変重要である。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：カウンセリング I 英語表記：Counseling I		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：布施由起、 山田耕平
ナンバリング：2329			担当形態：複数
科目/系列	/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. カウンセリングの基礎的な理論や技法を理解できる。 2. ピアヘルピングに関する基礎的な知識・スキルを理解できる。 3. ピアヘルピングを実践することができる。			
【授業の概要】			
カウンセリングの理論、技法、歴史やその種類について学ぶと共に、カウンセリングスキルを習得し、ピアヘルピングを実践するための力も身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：イントロダクション ピアヘルパーとは		・教科書や授業内で配布したプリントをもとに、前回の内容を確認し、次回の学習内容についても確認しておくこと。	
第2回：カウンセリングの定義と歴史		・ピアヘルピングの特徴について理解したことをまとめる。	
第3回：カウンセリングの種類		・授業内で紹介する参考文献を読み、カウンセリングスキル、グループワークについて理解を深める。	
第4回：ピアヘルピングの関係領域		・ピアヘルピング活動の留意点について、授業内で配布したプリント及び参考文献からまとめる。	
第5回：ピアヘルパーの仕事とピアヘルパーに求められる資質		・ピアヘルピング体験を振り返って、今後の課題についてまとめる。	
第6回：ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル①		・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。	
第7回：ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル②			
第8回：ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル③			
第9回：ピアヘルピングのためのグループワーク①			
第10回：ピアヘルピングのためのグループワーク②			
第11回：児童期、青年期の発達			
第12回：ピアヘルパーの心構えと留意点			
第13回：ケーススタディ			
第14回：ピアヘルピング体験			
第15回：全体のまとめ			
定期試験：なし			

【授業の方法】 講義、グループ演習、ロールプレイを行う。單元ごとの小レポートにフィードバックを行う。	
【テキスト】 『ピアヘルパーハンドブック』 日本教育カウンセラー協会（編） 図書文化社	
【参考書・参考資料等】 授業時にプリントを配布。また、参考文献等は授業時に紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度(30%)、小レポート(20%)、レポート(50%)、ルーブリックに基づいた評価を行う。	
【履修上の注意】 受講にあたっては事前事後の学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：精神科クリニック勤務（臨床心理士、公認心理師）
【実務経験を生かした教育内容】 精神科クリニックで心理士として勤務した経験を活かして、ロールプレイを取り入れた実践的な演習を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：教職教養演習 I 英語表記：Teaching Professionals Educational Administration I ナンバリング：2601		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：山畑昭司 担当形態：単独
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 公務員試験の流れや、勉強の方法、各自が受ける地域の試験内容について理解できる。 2. 公務員試験「一般教養」の各領域における内容と各自の力を確認し苦手領域を克服できる。 3. 面接試験のポイントを把握し、模擬面接を通して回答力を身につけることができる。			
【授業の概要】 公立の保育所や幼稚園、認定こども園の保育士や幼稚園教諭に就職するには、各自治体を実施する職員採用試験に合格が不可欠である。試験内容は一般教養試験、専門教養試験、論作文、面接等である。本講義では、公立の保育士・幼稚園教諭を目指す学生を対象に、公務員試験受験の基礎知識・学習方法・一般教養の身につけ方、論文作成・面接の受け方を学ばせる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第 1 回：授業の目的、学習計画 第 2 回：公務員試験について 第 3 回：一般教養（文章理解・国語・文学） 第 4 回：一般教養（思想・日本史・世界史） 第 5 回：一般教養（法律〈日本国憲法、教育関係法規〉） 第 6 回：一般教養（政治・経済） 第 7 回：一般教養（判断推理） 第 8 回：一般教養（地理・芸術） 第 9 回：一般教養（数的理解） 第 10 回：一般教養（数的数量） 第 11 回：一般教養（社会） 第 12 回：SPI（適性検査） 第 13 回：小論文の書き方 第 14 回：志望動機の書き方 第 15 回：復習とまとめ（確認テスト：筆記）			【授業時間外の学習】 ・受験希望の自治体の情報を随時PC等で調べる。 （1時間程度） ・高校時代の教科書、参考書を用いて、自学する。 （各分野1時間程度） ・テキスト中の授業予定分野の練習問題に目を通して授業に臨む。 （1時間程度）

定期試験：なし	
【授業の方法】 講義と主体的な「学び合い」を織り交ぜて行う。パソコンで自治体採用試験概要の調べ学習を行ったり、グループワークを行ったりもする。授業の振り返りを提出させフィードバックする。	
【テキスト】 『2027年度版 公立保育園&幼稚園をめざす保育士・幼稚園教諭 採用試験問題集 論作文・面接対策』保育士試験研究会編 実務教育出版	
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説』厚生労働省 『市役所上・中級 教養・専門試験 過去問500 2026年度版』資格試験研究会 実務教育出版	
【学生に対する評価】 確認テスト（70%）、提出物（15%）、授業参画度等（15%）。 ルーブリック等を活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 <ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験希望者の学生を主な対象とする。 ・チューターズルーム・図書館を利用して積極的に予習・復習をする。 ・積極的に学ぶ意欲のある学生の受講が望ましい。 ・2年生前期に公務員試験のほとんどが実施されるため、学びを先取りする意欲が必要。 	
実務経験の有無：有	実務経験：元公立学校教員採用試験委員
【実務経験を生かした教育内容】 元教員採用試験委員の経験を活かし、問題の解説・面接指導等を行い、公務員試験受験希望者の実力を養成する。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：教職教養演習Ⅱ 英語表記：Teaching Professionals Educational AdministrationⅡ ナンバリング：2602		単位数：1単位 (半期)演習	担当教員名：山畑昭司 担当形態：単独
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 幼児教育者としての知識を身につけ、専門教養の問題を解く力を身につけることができる。 2. 論文・作文のテーマを理解し、論理的に記述することができる。 3. 個人面接や集団面接、集団討論で、対応力を身につけることができる。			
【授業の概要】 本講義では、公立の保育士・幼稚園教諭を目指す学生を対象に専門教養科目の講義を行い、公務員試験における専門教養を身につけるとともに、小論文・作文の実践をとおして書き方を理解し、併せて個人面接や集団面接及び集団討論も行い、対応力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：演習 数的推理 第3回：演習 数的推理 第4回：専門科目 子ども家庭福祉 第5回：演習 小論文対策 第6回：専門科目 保育内容(音楽) 第7回：専門科目 子どもの保健 第8回：専門科目 社会的養護 第9回：演習 面接対策 第10回：専門科目 保育原理 第11回：専門科目 保育内容(保育園・幼稚園) 第12回：専門科目 特別支援教育 第13回：専門科目 保育の心理学 第14回：演習 SCOA対策 第15回：復習とまとめ(確認テスト：筆記) 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 ・受験希望の自治体の情報を随時PC等で調べる。 (1時間程度) ・高校時代の教科書、参考書を用いて、自学する。 (各分野1時間程度) ・テキスト中の授業予定分野の練習問題に目を通して授業に臨む。 (1時間程度) ・チューターズルームを積極的に活用する。	

<p>【授業の方法】 講義と主体的な「学び合い」を織り交ぜて行う。パソコン等で調べ学習を行う。 論文作成の柱立てを学び、実際に書き込む。模擬面接を行い、相互評価を行う。授業の振り返りを提出させフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】 『2026年度版 公立保育園&幼稚園をめざす保育士・幼稚園教諭 採用試験問題集 論作文・面接対策』保育士試験研究会編 実務教育出版</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説』厚生労働省 『市役所上・中級 教養・専門試験 過去問500 2026年度版』資格試験研究会 実務教育出版</p>	
<p>【学生に対する評価】 確認テスト（70%）、提出物（15%）、授業参画度等（15%）。 ルーブリック等を活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験希望者の学生を主な対象とする。教職教養演習Ⅰ(前期)を未履修者も履修可。 ・チューターズルーム・図書館を利用して積極的に予習・復習をする。 ・積極的に学ぶ意欲のある学生の受講が望ましい。 ・2年生前期に公務員試験のほとんどが実施されるため、学びを先取りする意欲が必要 	
実務経験の有無：有	実務経験：元公立学校教員採用試験委員
<p>【実務経験を生かした教育内容】 元教員採用試験委員の経験を活かして、問題の解説・論作文・面接指導を行い、公務員試験受験希望者の実力を養成する。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名: 保育実習 I (施設) 英語表記: Practice I (Nursing School) ナンバリング: 2703		単位数: 2単位 (10日間)実習	担当教員名: 高橋努、浅野瞳 担当形態: 複数
科目/系列	/保育実習		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/保育実習 I		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 児童福祉施設等における保育士の役割や仕事の内容を、体験することで理解できる。 2. 現代の子どもたちが抱える虐待の問題や、施設で生活する子どもたちの実情を理解できる。 3. 子どもの権利、障害児の実情などを知り、現場での体験から理解を深めることができる。			
【授業の概要】 保育所や児童福祉施設等の役割を理解し、子どもの観察や関わりを通して理解を深め、既習の教科目の内容を踏まえて保育や保護者支援を総合的に理解する。さらに、保育計画や観察・記録なども理解し、専門職としての保育士の業務内容や役割・職業倫理などを具体的に理解する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 【前半】(施設理解、利用者理解) (1日目～5日目) 施設職員の指導のもとに、施設の概要や職員の業務について理解を深め、また、生活している乳幼児や児童及び利用者の生活支援・活動支援を行うことにより、コミュニケーション技術の向上を図る。 コミュニケーションを図ることにより、施設を利用している乳幼児や児童及び利用者、地域とのかかわりや家族とのかかわりなど、様々なことに目を向け、施設や乳幼児等の抱える問題等の理解を深める。 【後半】(利用者理解、保育士としての専門知識について考える) (6日目～10日目) 乳幼児や児童、及び利用者の生活サイクルにあわせ、施設保育士がどのような役割を持ち、どのように活動しているか実践を通して理解を深めていく。施設によっては、部分実習を行う場合がある。また、設定した実習課題の達成に向けて積極的に実習に取り組む。 定期試験: なし		【授業時間外の学習】 保育実習 I (施設) は、学校指定の配属先で原則宿泊にて実習を行う。 そのため、 1. 事前に配属先の施設に関する情報を集める。(1時間) 2. 配属先の利用者や児童についての情報を集め、理解を深める。(2時間) 3. 文献資料等を活用して理解を深める。(2時間) などの授業外学習が重要である。	
【授業の方法】 児童福祉法にある児童福祉施設(保育所を除く)及び障害者施設等での実習。フィードバックについては、施設からの評価をもとに、個別面談を実施。			

【テキスト】

『施設実習ガイド - 保育者として成長するための事前事後指導学習 - 』駒井美智子編著 萌文書林

【参考書・参考資料等】

- ・実習先でのオリエンテーション及び実習において、実習のしおり、実習生の心得等の資料を配布。
- ・チェックリストをもとに、事前準備等を行う。

【学生に対する評価】

福祉施設における実習の評価（40%）、実習課題（実習計画）（30%）、事前・事後学習で提出したレポート（30%）。（レポート評価には、ルーブリック評価を活用する。）

【履修上の注意】

- ・履修登録時の記載漏れが多いので必ずチェックを忘れないこと。
- ・保育実習指導Ⅰ（施設）を必ず履修すること。
- ・入所施設での実習を効果的に行うために、事前に施設でのボランティア活動や関連文献を通して、施設の機能、施設保育士の職務内容と役割・入所児童等について理解を深めるように努めること。
- ・10日間の実習を通して、施設保育士の役割をきちんと理解し、保育士としての専門性を見つけられるよう、事前学習、事前準備をしっかりと行うこと。
- ・副読本として、本学の『実習の手引き』を使用する。

実務経験の有無：有

実務経験：高橋・浅野：施設勤務（社会福祉士）

【実務経験を生かした教育内容】

施設での実習生指導の経験を活かし、実習日誌の記入方法や実習目標の考え方などを説明、実習先の種別に合わせた目標設定ができるよう授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名: 保育実習指導 I (施設) 英語表記: Guidance for Practice I (Nursing School)		単位数: 1単位 (半期) 演習	担当教員名: 高橋努、浅野瞳
ナンバリング: 2704			担当形態: クラス分け
科目/系列	/保育実習		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/保育実習指導 I		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 児童福祉施設等における保育士の役割や、仕事の内容を理解できる。 2. 現代の子どもたちが抱える虐待の問題や、施設で生活する子どもたちの実情を理解できる。 3. 子どもの権利、障害児の実情などを知り、理解を深めることができる。			
【授業の概要】 児童福祉施設等における実習の意義や目的・内容の理解を深め、自らの実習における課題、利用者の人権と最善の利益、プライバシー保護や守秘義務について理解する。また、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、事後指導等にて実習の総括と自己評価を行い、今後の実習に向けた課題、目標を明確にする。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回: オリエンテーション(実習の心得、マナー、実習先の確認等) 第2回: 児童福祉施設について(振返り)(1) 第3回: 児童福祉施設について(振返り)(2) 第4回: 実習目標の考え方と実習生調書の書き方(1) 第5回: 実習目標の考え方と実習生調書の書き方(2) 第6回: 実習課題の考え方と作成 第7回: 実習課題と実習計画について(1) 第8回: 実習課題と実習計画について(2) 第9回: 外部講師(施設職員)による出張セミナー(青嵐荘療育園) 第10回: 実習日誌について(1) 第11回: 実習日誌について(2) 第12回: ボランティア、実習先オリエンテーションについて 第13回: 活動案の考え方(5領域との関連について)活動案の作成 第14回: 活動案の作成 第15回: お礼状の書き方		【授業時間外の学習】 保育実習 I (施設) がスムーズに実施できるよう、以下の学習が必要となる。 1. 配属先の施設に関する情報を集める。(1時間) 2. 配属先の利用者や児童についての情報を集め、理解を深める。(2時間) 3. 文献資料等を参考に、児童福祉施設の歴史的背景等についても学習をする。(2時間) これら調べ学習が必須であり、図書館などを活用し率先して学習すること。	

定期試験：なし	
【授業の方法】 児童福祉法にある児童福祉施設（保育所を除く）及び障害者施設等での実習にあたっての事前準備を行なう。講義を中心に調べ学習等を織り交ぜて行う。フィードバックについては提出物に対してコメントを記入する。	
【テキスト】 『施設実習ガイド - 保育者として成長するための事前事後指導学習 - 』駒井美智子編著 萌文書林	
【参考書・参考資料等】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で適宜プリント等配布する（実習チェックリスト、施設パンフレット等）。 ・配布物チェックリストをもとに、事前準備等を行う。 	
【学生に対する評価】 授業の中間で行う筆記テスト（50%）、提出課題（50%）。（提出課題については、ルーブリック評価を活用する。）	
【履修上の注意】 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰ（施設）を必ず履修すること。 ・課題の提出等、期限を必ず守ること。 ・施設実習は学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。 ・履修登録時、記載漏れが多いので、チェックを忘れずに行うこと。 ・副読本として、本学の『実習の手引き』を使用する。 ・10日間の実習を通して、施設保育士の役割をきちんと理解し、保育士としての専門性を見つけられるよう、事前学習、事前準備をしっかりと行い、実習課題（実習計画）を明確にすること。 	
実務経験の有無：有	実務経験：高橋・浅野：施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での実習生指導の経験を活かし、実習日誌の記入方法や実習目標の考え方などを説明。実習先の種別に合わせた目標設定ができるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：教育実習（幼稚園）Ⅰ		単位数：1単位	担当教員名：片口桂、井上裕美子
英語表記：Teaching Practice (Kindergarten) I		位 (半期) 演習	担当形態：クラス分け
ナンバリング：2709			
科目/系列	教育実践に関する科目/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	教育実習/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
<ol style="list-style-type: none"> 事前指導において、教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、教育者としての愛情と使命感を深めることができる。 教育実習後には、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、指導教員のもとで積んだ知識や技能等について理解を深め、実習の意義を考察できる。 自己の能力や適性を考えるとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。 			
【授業の概要】			
<p>本授業は幼稚園教育実習における観察・参加・責任実習という方法を含めて教育実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に教育実習に参加するための授業である。基礎的な理論と方法を学び、クラスの補助的な役割や教員として相応しい指導方法を身に付ける。実習後は、得られた知識や経験を振り返り、まとめて発表することで実習の意義を理解しさらに必要な指導方法及び知識や技能についての理解を深める。</p>			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 (事前授業)		【授業時間外の学習】	
第1回：幼稚園教育と幼稚園実習の意義についての理解		・実習園の環境や方針（調書作成）	
第2回：園の経営方針及び特色ある教育活動		・実習を受けるにあたって遵守すべきことや責任の確認(オリエンテーション依頼)	
第3回：実習にて遵守すべき事項と責任及び安全について		・保育の観察方法と日誌の記録の取り方	
第4回：幼稚園環境に対して適切な観察と記録の取り方		・教材や教具の活用法・問題発生時の対処法、安全管理、安全教育・季節や行事を踏まえた指導案(巡視用地図作成)	
第5回：学級担任の補助的役割について			
第6回：視聴覚教材などを用いた保育とその方法			
第7回：幼児の発達段階や、園環境を踏まえ、ねらいを持った部分及び責任実習指導案の立案			
第8回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成などを実地に即して身に付ける）			
(事後授業)			
第9回：教育実習で得られた成果と課題の話し合い			

<p>第10回：日誌を見てエピソード記録などの振り返りを行う。</p> <p>第11回：園での実習評価を理解し、幼児教育への意欲を高める。</p> <p>第12回：園での実習評価を踏まえて更なる課題を模索する。</p> <p>第13回：実習を総合的に振り返り実習園へ感謝の気持ちを持つ。</p> <p>第14回：実習の成果と課題を後輩に伝えるようにまとめる。</p> <p>第15回：実習の成果と課題を後輩に伝え、自らの学びを深める。</p> <p>定期試験：なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達に即した指導案・保育に必要な技術獲得と発表(1時間) ・ 日誌や指導案を用いて自らの実践振り返る。(1時間) ・ 園の評価を聞くことで、新たな課題を見出す。(お礼の手紙)(1時間) ・ 実習を振り返り、成果と自己課題をまとめる。(1時間) ・ 実習の成果と課題を発表する(1時間)
<p>【授業の方法】 講義および演習。提出された指導案等についてフィードバックを行う。 実習園からの評価をもとに個人面談を実施し、自己課題を明確にする。</p>	
<p>【テキスト】 『実習の手引き』埼玉純真短期大学</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 適宜配布</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度(30%)、レポート(30%)、模擬授業及び指導案などの提出物(40%) ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本授業は幼稚園教育実習に行くための「事前授業」とそれらを振り返る「事後授業」である。 ・ 幼稚園実習（前期・1週間）（後期・3週間）とも事前、事後指導を必ず受けること。 	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：片口；元保育園園長 井上；元幼稚園教諭・元保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 幼稚園および保育園での現場経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：教育実習（幼稚園）Ⅱ 英語表記：Teaching Practice (Kindergarten) Ⅱ ナンバリング：2710		単位数：4単位 (4週間)実習	担当教員名：片口桂、井上裕美子 担当形態：複数
科目/系列	教育実践に関する科目/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	教育実習/		
【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 前期幼稚園教育実習（観察実習） ①園の環境及び指導教員と幼児に対して適切な観察を行い、事実即して記録できる。 ②園の経営方針及び特色ある教育活動、それらを実施する組織体制を理解できる。 ③園実務に対する補助的な役割を担い、幼児の実態や課題を把握できる。 (2) 後期幼稚園教育実習（応用実習） ①幼稚園教育要領や幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、保育実践を行うことができる。 ②必要な基礎技術を身に付け幼児の体験との関連を考慮して適切な場面で活用できる。 ③学級担任の役割と職務内容を理解し活動の場面で適切に幼児に関わることができる。			
【授業の概要】 幼稚園での観察・参加・実習を通して教育者としての愛情と使命感を深め、将来幼稚園教員となる上での能力や適性を考え、課題を自覚する。指導教員のもとで幼児と共に生活することで、保育に対する理解を深め、実地に即しての確かな知識と指導方法を体得する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 「前半/観察実習」 (1週間・1年次) 第1回：園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第2回：幼稚園教師の役割・職務や園の1日の流れ、幼児の実態について具体的に理解する。 第3回：事前準備や学習を基に教師に学び、幼児との関わり方、園記録の取り方を習得する。 第4回：園実務に対する補助的な役割を知り、実践する。 第5回：幼児の実態とこれらを踏まえた園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第6回：幼児とのかかわりを通して。自らの課題を把握する。 第7回：部分指導案を立案し、ねらいをもって保育実践をする。		【授業時間外の学習】 (1) 幼稚園教育要領を熟読して、ねらいの意味を理解する。(1時間) (2) 実習先の幼稚園に関する情報を集め、日誌に書き入れる。(1時間) (3) 日誌の書き方を基に一日の出来事を指導教員に学びつつ丁寧に書く。(1時間) (4) 幼児の発達年齢を理解	
「後半/応用実習」 (3週間・2年次)			

<p>第8回：園の1日の流れ、保育のねらいを把握し、指導教員の活動のねらいとその指導の意図に気付き記録する。</p> <p>第9回：教室、園庭などの環境設定を教師の意図を理解して自ら行う。</p> <p>第10回：幼児同士の関わりや遊びの発展に目を向け、幼児一人ひとりの特性を理解したうえで援助する。</p> <p>第11回：クラス担任の了承と指導のもとに、事前に責任実習のための教材研究や準備を行う。指導案（細案）を作成し提出する。</p> <p>第12回：指導教員のもとでねらいを持った「部分実習」を行う。</p> <p>第13回：「部分実習」を行い個と集団に対する指導方法を身に付ける。</p> <p>第14回：「責任実習」クラスの指導者的な立場として幼児を指導する。</p> <p>第15回：指導教員のもとで実習を振り返り、課題を見出し改善する。</p>	<p>し、それぞれの特徴を踏まえて実習に臨む。(1時間)</p> <p>(5) 年齢ごとの指導案作成。(1時間)</p> <p>(6) パネルシアター、ペープサート、絵本読み、手遊び等の技術を場面に応じて実践できるようにする。(1時間)</p> <p>(7) 季節の歌や生活の歌など歌の伴奏や歌を場面や必要に応じて指導できるようにする。(1時間)</p>
<p>【授業の方法】 実習。実習日誌と実習園からの評価をもとに個人面談をしてフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 『実習の手引き』埼玉純真短期大学</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館</p>	
<p>【学生に対する評価】 実習園の評価（50%）、実習日誌・事前事後の取り組み（50%）から総合的に評価。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育実習（幼稚園）Ⅰ」を履修した上でⅡを履修する。 ・実習資格は、幼稚園教育実習に直接かかわる所定の教科を履修し、実習資格審査によって認められた者に与えられる。普段の学習態度、生活態度で実習生としてふさわしい生活を心がけること 	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：片口；元保育園園長 井上；元幼稚園教諭、元保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 幼稚園および保育園での現場経験を活かし、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：レクリエーション概論 英語表記：Introduction to Recreation ナンバリング：1019		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：金美珍 担当形態：単独
科目/系列	/ 教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/ 外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 対人支援の場におけるレクリエーションの意義や活用法について理解できる。 2. レクリエーション・インストラクターの役割について説明できる。 3. レクリエーション・インストラクターとしての具体的な支援技術を習得することができる。			
【授業の概要】 レクリエーションとは何か、レクリエーションの歴史・意義、レクリエーション・インストラクターの役割の理解など、レクリエーション・インストラクターとして必要な知識・技術を身につける。特に実際に対象・目的に合わせたレクリエーション計画の作成、レクリエーションプログラムの作成方法を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：レクリエーションについて 第2回：レクリエーション支援とは 第3回：レクリエーションの理解と歴史 第4回：楽しさを通じた心の元気づくり 第5回：ライフステージと心の元気づくり 第6回：レクリエーション支援におけるコミュニケーション 第7回：対象者との信頼関係 第8回：集団づくりの理解 第9回：集団の成長を通じた支援者の関わり 第10回：国際交流とレクリエーション 第11回：レクリエーションプログラムの作成① 第12回：レクリエーションプログラムの作成② 第13回：レクリエーションプログラムの作成③ 第14回：リスクマネジメント 第15回：レクリエーションをめぐる課題 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 ・授業時に配布した資料を参考に振り返りを行う。(1時間) ・学習した内容が各自の日常生活にどのように位置づいているかを調べる。(1時間) ・レクリエーションは、特別な理解や技術ではなく、日常生活を豊かに過ごすための考え方であり、対象者に寄り添うための支援技術であることを普段の生活において意識し、参考になる資料を集める。(1時間)	

<p>【授業の方法】 講義と演習、実技、グループ作業。ICT活用の授業も行なう。プログラム作成と実践に対しコメントをしてフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】 『楽しさをとおした心の元気づくり』 日本レクリエーション協会</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 適宜授業内で紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度（40%）、レクリエーションプログラムの作成・実践（30%）、レポート（30%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 「レクリエーション・インストラクター」資格を取得希望の学生は、資格取得の必修授業なので必ず受講すること。但し、レクリエーション・インストラクター資格の取得を希望しない学生でも受講できる。授業内容により体育館で行うことがある。また、羽生市内ほか県内のレクリエーション大会講習会を見学する事もある。積極的な態度で授業に取り組むこと。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：子ども家庭福祉 英語表記：Child and Family Welfare ナンバリング：2102		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：山田耕平 担当形態：単独
科目/系列	/保育の本質・目的に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/子ども家庭福祉		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。 2. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。 3. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向と展望について理解できる。			
【授業の概要】 子ども家庭福祉の意義、歴史の変遷、制度、現状、動向等について自ら課題意識を持って学び、アクティブ・ラーニングにより、専門職としての知識を定着させる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・子ども家庭福祉の理念と概念 第2回：子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向 第3回：子どもの人権擁護 第4回：子ども家庭福祉の制度と実施体制 第5回：子ども家庭福祉の施設と専門職・社会的養護 第6回：少子化と地域子育て支援 第7回：母子保健と子どもの健全育成 第8回：多様な保育ニーズへの対応 第9回：子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 第10回：貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 第11回：障害のある子どもへの対応 第12回：少年非行等への対応 第13回：次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 第14回：地域における連携・協働とネットワーク 第15回：全体のまとめ・授業内試験 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 ・毎回の講義を必ず復習し、学びや気づきを整理すること。(毎回1時間程度) ・ディスカッションでは、自分の意見を言葉にして表現する技能が求められる。自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。	
【授業の方法】 講義、ディスカッション。 Google Classroomを用いて授業感想や質問を受け付け、随時フィードバックを行う。			

【テキスト】

『新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規出版

【参考書・参考資料等】

授業において適宜プリント資料を配布する。

【学生に対する評価】

授業参画度（45％）、授業内試験（55％）。

※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。また、第1回オリエンテーション時に評価方法について説明を行う。

【履修上の注意】

受講にあたっては、テキストや参考文献等を用いて事前事後の学習を行うこと。

実務経験の有無：有

実務経験：臨床心理士・公認心理師
精神科クリニック、生活困窮者支援等

【実務経験を生かした教育内容】

切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、具体的な事例をもとに授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：学校経営と管理 英語表記：School Management ナンバリング：2107		単位数：2単位 (半期)講義	担当教員名：山畑昭司 担当形態：単独
科目/系列			
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）／	
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 学校を巡る近年の様々な状況の変化について理解できる。 2. 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解出来る。 3. 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解できる。			
【授業の概要】			
社会の状況を理解し、子どもをめぐる生活の実態を踏まえ、教育の課題や施策を学校と地域との連携や近隣市町村教育庁の講話を聴き理解する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション、授業の進め方		現状を知る（授業前後に1時間）	
第2回：学校（園）とは？経営とは？		・事例を調べる	
第3回：学校（園）の休憩時間		・保護者の生活を調べる	
第4回：子どもを巡る近年の様々な状況（子どもの問題行動）		・問題の理解を深める	
第5回：子どもを巡る近年の様々な状況（少子化）		・学習したことをまとめる	
第6回：今日的な課題（クレームの実態と対応の基本）			
第7回：今日的な課題（クレーム事例をもとに対応を考える）			
第8回：学校における危機管理（保育事故の実態と責任）			
第9回：ファイリング・チェック、中間まとめ（小テスト：筆記）			
第10回：学校における危機管理（保育事故を防ぐ危機管理）			
第11回：学校における危機管理（事故事例を通して）			
第12回：学校における危機管理（事故事例を通して）			
第13回：学校における危機管理（災害事例をして）			
第14回：ファイリング・チェック、不適切保育の予防			
第15回：復習とまとめ（確認テスト：筆記）			
定期試験：なし			
【授業の方法】			
講義とグループ演習を組み合わせ、問題事例の改善案を考える。毎時間、授業の振り返りを提出させチェックフィードバックする。			

【テキスト】 毎時間、オリジナルテキスト配布。	
【参考書・参考資料等】 『保育現場における困りごと相談ハンドブック』木元有香著 新日本法規 『クレーム対応テキスト』学校保護者関係研究会 『幼稚園教育要領(最新版)』、『保育所保育指針』(最新版) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『小学校学習指導要領』(平成29年3月31日 文部科学省) 新聞、ニュース等	
【学生に対する評価】 確認テスト(60%)、小テスト(20%)、提出物等(20%)を判断して評価する。ルーブリック評価等により自己評価させる。	
【履修上の注意】 実際の保育所・幼稚園の現場に即した学習であるため、実習等の体験に生かしてほしい。	
実務経験の有無：有	実務経験：元公立中学校教諭・教頭・校長
【実務経験を生かした教育内容】 校長等の経験を活かし、学校経営全般に関わることを授業する。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：子ども家庭支援論 英語表記：Children Family Support Theory ナンバリング：2108		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：山田 耕平 担当形態：単独
科目/系列	/保育の本質・目的に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/子ども家庭支援論		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できる。 3. 子育て家庭に対する支援の体制、子ども家庭支援の現状と課題について理解できる。			
【授業の概要】 子ども家庭支援の意義・目的、子育て家庭への支援の基本姿勢・内容、実践の方法・技術、子ども家庭支援の課題と現状について理解し、専門職としての知識を定着させる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：子ども家庭支援の意義 第2回：子ども家庭支援の目的 第3回：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 第4回：子育て家庭支援の社会資源 第5回：保育の専門性を活かした子ども家庭支援 第6回：子ども家庭支援と子どもの育ちの喜びの共有 第7回：子育てを自ら実践する力 第8回：保育士に求められる基本的態度 第9回：家庭の状況に応じた支援 第10回：地域の資源の活用 第11回：子ども家庭支援の内容と対象 第12回：保育所等を利用する子どもの家庭への支援 第13回：地域の子育て家庭への支援 第14回：要保護児童およびその家庭への支援 第15回：子育て支援に関する課題と展望 定期試験：筆記		【授業時間外の学習】 ・毎回の講義を必ず復習し、学びや気づきを整理すること。(毎回1時間程度) ・授業内容の理解にあたっては、これまでの実習やボランティア等での経験が重要となる。適宜振り返り、学びを深めること。	
【授業の方法】 講義、ディスカッション。 Google Classroomを用いて授業感想や質問を受け付け、随時フィードバックを行う。			

【テキスト】

『保育所保育指針解説<平成30年3月>』厚生労働省、フレーベル館

【参考書・参考資料等】

『保育者のための子育て支援ガイドブック』中央法規

※その他、授業において適宜プリント資料を配布する。

【学生に対する評価】

授業参画度（45%）、定期試験（55%）。

※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。また、第1回オリエンテーション時に評価方法について説明を行う。

【履修上の注意】

受講にあたっては、テキストや参考文献等を用いて事前事後の学習を行うこと。

実務経験の有無：有	実務経験：臨床心理士・公認心理師 精神科クリニック、生活困窮者支援 等
-----------	--

【実務経験を生かした教育内容】

切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、具体的な事例をもとに授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：子ども家庭支援の心理学 英語表記：Psychology of Child and Family Support ナンバリング：2203		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：加藤達矢 担当形態：単独
科目/系列	/保育の対象の理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/子ども家庭支援の心理学		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる社会の状況と課題を理解し、現代の子どもの精神保健と課題を知る。			
【授業の概要】 生涯発達についての理解を深め、家族・家庭の意義や現代社会の動向などを学ぶと共に、子どもの心の問題について学習する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：生涯発達について 第2回：乳幼児期から学童期前期までの発達 第3回：学童期後期 から青年期までの発達 第4回：成人期・老年期までの発達 第5回：家族・家庭の意義と機能 第6回：親子関係・家族関係の理解 第7回：子育ての経験と親としての育ち 第8回：子育て家庭に関する現状と課題 第9回：子育てを取り巻く 社会的状況 第10回：ライフコースと仕事・子育て 第11回：多様な家庭とその理解 第12回：特別な配慮を要する家庭（養育者のメンタルヘルス） 第13回：子どもの生活・生育歴とその影響 第14回：子どもの心の健康にかかわる問題（精神疾患） 第15回：子どもの心の健康にかかわる問題（発達障害、他） 定期試験：筆記		【授業時間外の学習】 ・授業前に配布資料、参考文献等をもとに学習し、関心のある点、疑問点を整理しておく。疑問点については、調べておく。 ・授業後は配布資料や参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめておく。 ・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。	

【授業の方法】 講義・グループ演習やワーク。單元ごとの小レポートにコメントを入れて返却する。	
【テキスト】 なし。授業時に適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（20%）、小レポート（30%）、定期試験（50%）、評価はルーブリックに準じる。	
【履修上の注意】 受講にあたっては、配布資料、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：教育機関カウンセラー（小学校・中学校・高校・大学）、精神科クリニック、私設カウンセリングオフィス勤務（臨床心理士、公認心理師）
【実務経験を生かした教育内容】 精神科クリニックや教育機関などの勤務経験を活かして、実践的な講義を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：子どもの理解と援助 英語表記：Support for Children Based on Appreciation ナンバリング：2204		単位数：1単位 (半期)演習	担当教員名：加藤達矢 担当形態：単独
科目/系列	/保育の対象の理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/子どもの理解と援助		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について説明できる。 2. 子どもを理解するための基本的な考え方、具体的な方法について説明できる。 3. 子どもの理解に基づいた保育実践における援助と態度の基本について説明できる。			
【授業の概要】 子どもを援助する際、子どもの発達や学びの状態を十分に理解し、対応していくことが重要である。本授業では、子ども一人一人の発達や学びを把握する意義を理解した上で、子どもを理解するための基本的な考え方・視点、具体的な方法について学んでいく。そして、子どもの発達に応じた援助や特別な配慮を要する子どもへの援助など、子ども理解に基づく、実践に即した援助、態度の基本について考える。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子ども的心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：保育における子ども理解の意義 第2回：子どもに対するかかわりと共感的理解 第3回：子どもの生活や遊び 第4回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 第5回：子ども相互のかかわりと関係づくり 第6回：集団における経験と育ち 第7回：発達における葛藤やつまずき 第8回：保育の環境の理解と構成 第9回：環境の変化や移行 第10回：子ども理解のための観察・記録と省察・評価 第11回：子ども理解のための職員間の対話 第12回：子ども理解のための保護者との情報共有 第13回：発達の課題に応じた援助とかかわり 第14回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助 第15回：まとめと授業内試験 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 授業前に配布資料、参考文献等をもとに学習し、関心のある点、疑問点を整理しておく。疑問点については、調べておく。 ・授業後は配布資料や参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめとめておく。 ・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。	

【授業の方法】 講義とグループワークを中心に授業をすすめる。	
【テキスト】 なし。授業時に適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（20%）、小レポート（30%）、授業内試験（50%）、評価はルーブリックに準じる。	
【履修上の注意】 受講にあたっては、配布資料、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：教育機関カウンセラー（小学校・中学校・高校・大学）、精神科クリニック、私設カウンセリングオフィス勤務（臨床心理士、公認心理師）
【実務経験を生かした教育内容】 精神科クリニックや教育機関などの勤務経験を活かして、実践的な講義を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：子どもの食と栄養 英語表記：Child Food and Nutrition ナンバリング：2206		単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：波田野尚美 担当形態：単独
科目/系列	保育の対象の理解に関する科目/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/子どもの食と栄養		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できる。 2. 子どもの発達と食生活について理解し、乳児期から幼児期の栄養補給の特徴を説明できる。 3. 子どもの食生活の現状と課題を理解し、食育の意義、目的を考えることができる。			
【授業の概要】 子どもの発育・発達・健康増進のために必要な栄養学、正しい食生活のあり方、食事方法等についての基本的な知識を学習する。講義および実習から、食の大切さや食育の重要性を理解し、子どもの身体状況や栄養状態に応じた支援ができるような知識を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：子どもの健康と食生活の意義 第2回：栄養に関する基本的知識① 五大栄養素と3つの食品群 第3回：栄養に関する基本的知識② 炭水化物 たんぱく質 脂質 第4回：栄養に関する基本的知識③ ビタミン ミネラル 第5回：乳汁期の栄養 第6回：実習① (乳汁栄養) 第7回：離乳期の栄養 第8回：実習② (離乳食) 第9回：幼児期の栄養と食事① 栄養学的特徴と食生活 第10回：幼児期の栄養と食事② 食事支援 第11回：実習③ (幼児食) 第12回：食物アレルギーの基本的知識 第13回：実習④ (アレルギー対応食) 第14回：食育の基本と内容 第15回：家庭における食事と栄養 定期試験：筆記		【授業時間外の学習】 ・授業計画に基づき、教科書の対応箇所を事前に読んでおく。授業後は、教科書や配布プリントを復習し、理解を深める。予習・復習には1時間程度の時間が必要である。 ・日々、子どもや食に関するニュースを把握し、自分で考える時間が20～30分程度必要である。	

【授業の方法】 講義、演習、グループワーク、実習。授業時間中に小テストを行う。 課題にコメントを入れてフィードバックを行う。	
【テキスト】 『イラスト 子どもの食と栄養』 著者代表 森脇千夏 東京教学社	
【参考書・参考資料等】 適宜プリントを配布する	
【学生に対する評価】 定期試験の成績（50％）、課題・提出物（30％）、授業参画度（20％）。 ルーブリックを活用し総合的に評価する。	
【履修上の注意】 ・実習では、身支度（エプロン・三角巾・マスク・名札）、布巾を各自用意する。 ・子どもや食に関するニュースに関心を持ち、理解を深めること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元高等学校家庭科教諭
【実務経験を生かした教育内容】 家庭科の授業実践の経験を活かし、子どもの食の重要性について理解できるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育内容（環境）指導法 英語表記：Method of Nursing(Environment) ナンバリング：2305		単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名：塚越亜希子 担当形態：単独
科目／系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） ／保育内容演習		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもを取り巻く環境と発達におけるそれらの重要性について理解し、説明することができる。 2. 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、保育の構想に活用することができる。 3. 領域「環境」における経験内容を理解し具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。			
【授業の概要】 幼稚園教育要領等に示される領域「環境」は子どもたちが「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。この授業では、領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深めると共に、子どもの発達に即して深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想および指導方法を身に付ける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：子どもと環境について 第2回：保育内容の全体構造と領域「環境」の展開 第3回：保育の過程（プロセス）と指導計画 第4回：「もの」とのかかわりと保育実践 第5回：「自然」とのかかわりと保育実践 ①子どもが自然とのかかわりを深めるための視点 第6回：「自然」とのかかわりと保育実践 ②自然とのかかわりの指導法 第7回：「自然」とのかかわりと保育実践 ③自然とのかかわりの指導法 第8回：「数量・図形」とのかかわりと保育実践 第9回：「標識・文字」とのかかわりと保育実践		【授業時間外の学習】 ・各回のテーマに該当する教科書のページを事前事後に目を通すこと。（60分） ・参考資料に記載してある各種解説書の関連ページを予習、復習で活用すること。（30分） ・これまでの実習での経験や学びを活かし、環境構成や保育者の援助等、保育を展開するためのポイントを探っていくこと。	

<p>第10回：「身近な情報」とのかかわりと保育実践</p> <p>第11回：「身近な施設・地域・さまざまな文化」とのかかわりと保育実践</p> <p>第12回：「行事」とのかかわりと保育実践</p> <p>第13回：遊びを通した総合的な指導の展開①指導案の作成</p> <p>第14回：遊びを通した総合的な指導の展開②模擬保育</p> <p>第15回：領域「環境」にかかわる現代的課題と本授業のまとめ</p> <p>定期試験：なし</p>	<p>・自身の身近な環境、特に自然環境に意識的に関心を持って生活すること。</p>
<p>【授業の方法】 講義およびグループワーク・事例検討などを行う。課題や提出物、レポートにはコメントを入れて返却する。</p>	
<p>【テキスト】 『実践例から学びを深める保育内容・領域 環境指導法』小櫃智子編 わかば社</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』（いずれも平成30年フレーベル館）</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度（20%）、授業内小レポート（30%）、レポート（50%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生科目「子どもと環境」の学びを振り返り、その知識を土台として具体的な保育実践を考えていくこと。 ・積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為は慎むこと。 ・授業内で提示する課題等の提出期限は厳守すること。 	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：元幼稚園教諭</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園、公立幼稚園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、領域「環境」のねらい及び内容について具体的な事例をもとに解説をする。また、保育を展開していくための方法や技術について、そのポイントや指導上の留意点について具体的に講じる。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育内容（言葉）指導法 英語表記：Method of Nursing(Language) ナンバリング：2306		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：細田香織 担当形態：単独
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ／保育内容演習		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 領域「言葉」のねらい及び内容、全体構造を理解できる。 2. 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。 3. 自らの「言葉」を内省し、保育者としての言語環境の向上に努める姿勢を培うことができる。			
【授業の概要】			
領域「言葉」について理解した上で、保育実習等の実践を経ての知見も含めた意見交換を行い、学びを深めながら、主体的に学ぶ。保育者として子どもの「言葉」を受け止め、かかわり、子どもが主体的に言葉で表現できるような環境づくりができるよう、具体的な指導法について考える。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：「言葉」の持つ力 - 自己肯定感と言葉の関係 - 第2回：保育における「言葉」とは - 領域「言葉」のねらい及び内容 第3回：領域「言葉」のねらいや内容を生かした指導案・週案の例（教材研究） 第4回：「言葉」の領域を意識した指導案を作成してみよう（ICTでの情報を用いて） 第5回：言葉を育てる保育者の役割と援助 第6回：実習に向けて：保育者の言葉・子どもの言葉の観察の視点（模擬保育） 第7回：実習を終えて（報告交流会～指導案の振り返り～） - 子どもの言葉・保育者の言葉からの発見・学びの交流 - 第8回：「わたし」をつくる言葉（イヤイヤ期について） 第9回：乳幼児期の発達と言葉 第10回：コミュニケーション能力と発達の過程（脳科学等から）		・ 毎回、授業の最初に一人ずつ絵本の読み聞かせを行う。担当者は、必ず下読みをして準備をしてくる。また、各自絵本や紙芝居等を時間外にも読み、絵本リストに追加すること。（20分程度） ・ 事前学習や單元ごとの復習（まとめ）など、授業外の学習を行う。（40分程度）	

<p>第11回：好奇心の出現 - 質問期の子どもへの対応と保育の展開 - 第12回：より良い言葉がけ - 発達障害の子どもへの認知の特徴も考慮して - 第13回：お便り帳の意義と書き方(基本的考え方・注意点等) 第14回：児童文化財の活用 - 素話・絵本・紙芝居・幼年童話 - 第15回：保育者が自身の「言葉」の力を高めることの必要性和その方策</p> <p>定期試験：筆記</p>	<p>・自らの言葉遣いを内省し、日常から用いる言葉を丁寧に、相手に伝わるよう意識して用いること。</p>
<p>【授業の方法】 PBL、グループ活動、クラス全体での意見交流、ICT活用も取り入れて授業を行う。 絵本の読み聞かせ等の実技は、相互実践を行いながら学び合う。 提出されたプリントやレポートには、赤でコメントを入れる等して返却する。</p>	
<p>【テキスト】 『子どもの育ちと「ことば」』横山真貴子編著 保育出版社</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『ことばと発達』岡本夏木著 岩波書店 『幼稚園教育要領』（最新版） 『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業への参画度〔グループ討議・毎授業振り返りプリントの内容など〕(50%)、筆記試験(50%)、ルーブリック評価を活用する。</p>	
<p>【履修上の注意】 主体的に学び、他者との伝え合いを通して、多様な指導法の可能性を探求する意識を持つこと。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育内容（音楽表現）指導法 英語表記：Method of Nursing (Musical Expression) ナンバリング：2307		単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名：眞柄絵里 担当形態：単独
科目／系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） ／保育内容演習		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの音楽表現における指導法を身につけることができる。 2. 具体的な音楽表現活動を想定して指導案を作成し、実践（模擬保育）することができる。 3. 音楽表現活動に、情報機器及び教材を活用することができる。			
【授業の概要】 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの表現意欲を養い、創造性を豊かにするような音楽表現の指導法を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：ガイダンス～領域「表現」における音楽表現～ 第2回：サウンドスケープ（音環境と表現） 第3回：歌う活動の指導法（わらべ歌・遊び歌） 第4回：歌う活動の指導法（生活の歌・季節の歌） 第5回：楽器を使った活動の指導法（楽器の奏法） 第6回：楽器を使った活動の指導法（合奏曲の編曲法） 第7回：楽器を使った活動の指導法（合奏曲の発表） 第8回：世界の音楽教育について （ダルクローズ、オルフ、コダーイの音楽教育） 第9回：保育内容としての音楽表現と、小学校教育の音楽の学びと 連続性について 第10回：音楽表現活動の指導案を作成 第11回：指導案に沿って模擬授業発表 第12回：模擬授業実践の振り返り 第13回：音楽的活動と他領域との関係（音楽と動き）		【授業時間外の学習】 （毎回それぞれ指示した予習・復習を1時間） ・毎回のテーマについての調べ学習 ・毎回、順番で遊び歌の模擬授業を行うので、指導案作成と発表準備と練習をする ・合奏曲の編曲の仕上げ ・合奏曲発表の準備・練習 ・指導案作成 ・模擬授業の準備 ・模擬授業の振り返り	

<p>第14回：音楽的活動と他領域との関係（音楽とICT活用）</p> <p>第15回：音楽表現における保育実践の動向と今後の実践に向けて</p> <p>定期試験：筆記</p>	
<p>【授業の方法】 講義と演習。提出されたワークシートや指導案にコメントを入れて返却する。</p>	
<p>【テキスト】 『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」』石井玲子編著 教育情報出版 必要に応じ適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『コンパクト版保育内容シリーズ「音楽表現」』谷田貝公昭監修 一藝社 『幼稚園教育要領解説』（最新版）、『保育所保育指針解説』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）</p>	
<p>【学生に対する評価】 ルーブリック評価を活用した評価ワークシートや指導案などの提出物、発表内容（40%）と授業参画度（10%）と定期試験の成績（50%）で評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 模擬授業発表の場に対し、しっかりと準備して積極的に取り組むこと。 何事にも興味・関心をもち、心の枠を広げられるように臨んでほしい。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：元幼稚園教諭・元保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園および公立保育園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、具体的な子どもの姿や保育者の関わりなどをわかりやすく伝え、実践に活かせる保育技術を身につけられるよう授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育内容（造形表現）指導法 英語表記：Method of Nursing(Modeling Expression) ナンバリング：2308		単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名：小日向千秋 担当形態：単独
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 /保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） /保育内容演習		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 深い観察力や実素材を扱う技能を身に着け自由な発想を具体的に表現することができる。 2. 造形に関する技術や知識を深め、指導者としての応用力を持つことができる。 3. 子どもたちの創造力を養い伸ばす為に必要な指導者としての意識と技術を習得し、造形表現を通して子どもの成長を促すことができる。			
【授業の概要】 保育の現場で必要となる造形表現の実践と共に、造形表現の根幹となる実素材による制作、観察などの課題を通して制作力、実行力、指導力を育成する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：ガイダンス、教材の調査とプランニング 第2回：情報機器を使用しての情報収集・教材研究 第3回：ペープサート 研究及び制作 第4回：ペープサート 発表と講評会 第5回：陶芸 土鈴 制作 第6回：陶芸 器と日用品 制作 第7回：絵画 観察と表現 風景を描く 素描 第8回：絵画 観察と表現 風景を描く 彩色 講評会 第9回：陶芸 施釉、彩色 第10回：木版画 多色刷りの絵葉書を作る 調査・研究・下絵 第11回：木版画 制作（色分割・トレース・彫刻） 第12回：木版画 制作（刷り） 第13回：制作活動に関する指導案を作成する 第14回：保育における制作活動発表（模擬保育） 第15回：発表の振り返り・講評会 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 ・次課題に関する情報を集め、アイデアを得る。 ・制作に関する資料を集め、アイデアスケッチ（エスキース）を行う。 ・制作プランニングに従い、常に、授業外でも完成に向けて、制作、資料収集をする。 ・時間内に完成しなかった制作は次回までに自主的に完成させる。 （上記を含め、予習・復習に1～2時間程度。） 制作活動に関する指導案を作成する。	

【授業の方法】 実技、演習、プレゼンテーションとし、フィードバックを行う。全課題の提出を義務付ける。	
【テキスト】 適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 適宜プリントを配布する。図書館、情報機器等での資料収集を課題ごとに適宜指導する。 幼稚園教育要領(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 保育所保育指針(最新版)	
【学生に対する評価】 提出作品(40%)、授業参画度(20%)、創作への意欲(20%)、レポート(20%)をルーブリック評価表参照の上で総合的に評価する。	
【履修上の注意】 怪我等の事故が起こらないよう安全に留意すること。汚れても良い服装で授業に臨むこと。 授業終了時に必ずかたづけ、清掃を行うこと。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育内容（身体表現） 指導法 英語表記：Method of Nursing(Body Expression) ナンバリング：2309		単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名：金美珍 担当形態：単独
科目／系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ／保育内容演習		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの身体表現における指導法を身につけることができる。 2. 具体的な身体表現活動を想定して指導案を作成し、保育実践をすることができる。 3. 様々な動きを応用し、子どもの身体表現活動に活用することができる。			
【授業の概要】 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの表現意欲を養い、創造性を豊かにするような身体表現の指導法を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：領域「表現」における身体表現 第2回：身体を使ったコミュニケーション遊び 第3回：身体を使ったコミュニケーション遊びの指導法 第4回：用具を用いた運動遊び 第5回：用具を用いた運動遊びの指導法 第6回：リズムに合わせた身体表現 第7回：リズムに合わせた身体表現の指導法 第8回：身体表現活動の指導案作成、模擬保育の準備 第9回：身体表現活動模擬保育 Aグループ発表と振り返り 第10回：身体表現活動模擬保育 Bグループ発表と振り返り 第11回：身体表現創作①テーマを決める 第12回：身体表現創作②パート創作 第13回：身体表現創作③全体練習（撮影一動きの確認と改善） 第14回：身体表現創作④全体練習 第15回：身体表現創作⑤ステージ発表 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 授業前後に、あわせて1時間程度の自己学習を要する。 ・日頃から表現としてのジェスチャーや動作に意識をもつ。（毎日10～15分） ・コミュニケーション遊びのレパートリーを広げる。（1時間） ・指導案の作成。（3時間） ・模擬保育の準備。（2時間） ・ステージ発表に向けて、グループ、クラスで自主練習。（2時間） ・ステージスタッフとの打ち合わせ。（1時間）	

【授業の方法】 実技、演習。指導案や発表に対しコメントでフィードバックする。	
【テキスト】 なし	
【参考書・参考資料等】 適宜、必要な資料を配布する。 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）	
【学生に対する評価】 成績評価は、ルーブリックを用いた授業内課題・発表の評価（50%）と授業への主体的な参加度（20%）、レポート（30%）により総合的に判断する。	
【履修上の注意】 必ず時間までに指定のジャージに着替え、シューズを履いていること。 また、ネックレス及び指輪、イヤリング等の装飾品は外すこと。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育内容応用指導法 英語表記：Applied instruction method of Nursing ナンバリング：2310		単位数：1単位 (半期)演習	担当教員名：瀬戸奏、小川弥輪 担当形態：クラス分け、複数
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 /保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育内容5領域を総合的に捉えた指導法を身につけることができる。 2. 美術制作およびオペレッタに取り組み、想像力、創造力、表現力をつけることができる。 3. ひとつの作品を作り上げる過程の中で、問題解決能力や課題遂行能力を身につけることができる。			
【授業の概要】 保育内容5領域に対応した横断的、総合的指導法を学習する授業としてオペレッタに取り組む。台詞、歌、それに伴う動き、衣装や大道具、小道具制作、様々な体験の中から、想像力、創造力、表現力、協調性が養われ、幼児教育者としての資質を高めていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション （授業の進め方、この授業で何を学ぶか、演目の決定） 第2回：作品の理解、配役・舞台制作担当決め 第3回：歌、台詞の練習（役ごとに練習） 第4回：歌、台詞の練習（場面ごとに練習） 第5回：歌、台詞の練習（全体練習） 第6回：歌、台詞の練習後、意見交換 第7回：歌、台詞に動きをつける練習（役ごとに練習） 第8回：歌、台詞に動きをつける練習（場面ごとに練習） 第9回：歌、台詞に動きをつける練習（全体練習） 第10回：歌、台詞に動きをつける練習後、意見交換 第11回：小道具、大道具の制作 第12回：小道具、大道具を使用する練習（場面ごとに練習） 第13回：小道具、大道具を使用する練習（全体練習）		【授業時間外の学習】 （各回指示した内容を1時間程度） 演目に関する資料収集 時代背景を調べる 原作を読む 個々の役割に応じて 歌、台詞、動きの自主練習 衣装、小道具、大道具制作	

<p>第14回：衣装をつけ、小道具、大道具を使用したの練習 (撮影－演出方法の工夫と改善)</p> <p>第15回：リハーサル (全体練習)</p> <p>定期試験：なし</p>	<p>ステージスタッフとの打ち合わせ</p>
<p>【授業の方法】 実技、演習。履修者全員で話し合いながら作り上げていく。毎回提出する授業振り返りシートにコメントを入れてフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】 決定演目の台本</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 演目の原作や演目に関する資料 学生自身も、表現力を高めるための関係資料を収集し情報交換を行う。 『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業振り返りシート(40%)、授業参画度と発表(60%)を総合的に判断して評価する。 ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。</p>	
<p>【履修上の注意】 発表に向けて、意欲的に取り組むこと。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育内容応用指導法 英語表記：Applied instruction method of Nursing ナンバリング：2310		単位数：1単位 (半期)演習	担当教員名：小日向千秋 担当形態：クラス分け
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 /保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育内容5領域を総合的に捉えた指導法を身につけることができる。 2. 美術制作およびオペレッタに取り組み、想像力、創造力、表現力をつけることができる。 3. ひとつの作品を作り上げる過程の中で、問題解決能力や課題遂行能力を身につけることができる。			
【授業の概要】 美術分野という視点から保育内容を捉え、各自がテーマを決めて自由制作を行うことにより、創造力と表現力、自主性と実行力が養われ、幼児教育者としての資質を高めていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：ガイダンス（授業の進め方、この授業で何を学ぶか） 第2回：テーマの決定・研究・調査 第3回：保育現場における制作活動に関する指導案作成 第4回：制作1に関する具体的な資料集め、材料準備 第5回：制作1－① 下書き、下絵、設計図、型紙づくり 第6回：制作1－② 裁断、組み立て、描画等実制作 第7回：制作1－③ 制作続き 第8回：制作1－④ 制作1の完成、発表、ミーティング 第9回：制作2に関する具体的な資料集め、材料準備 第10回：制作2－① 下書き、下絵、設計図、型紙づくり 第11回：制作2－② 裁断、組み立て、描画等実制作 第12回：制作2－③ 制作続き 第13回：制作2－④ 制作続き 第14回：制作2－⑤ 発表を見立てての制作 第15回：制作2－⑥ 制作の仕上げ、発表準備 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 テーマを考える テーマに関する情報を集め、アイデアを得る 制作に関する資料を集める 材料の調達を行う。 制作プランニングに従い、常に授業外でも完成に向けて、制作、資料収集をする。 上記に関し1～2時間程度の時間が必要である。 発表会場スタッフとの打ち合わせ。 発表会場でのリハーサル、展示準備。 表現発表会での上演、展示	

【授業の方法】 実技、演習、フィールドワーク、プレゼンテーションとし、フィードバックを行う。期間の中で2点(2分野)以上の作品を完成させること。制作した作品は表現発表会において発表する。	
【テキスト】 なし	
【参考書・参考資料等】 テーマ制作に関する資料を各自用意。図書館、情報機器等での資料収集を各学生の制作内容ごとに適宜指導する。幼稚園教育要領(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 保育所保育指針(最新版)。	
【学生に対する評価】 提出作品(40%)、授業参画度(20%)、創作への意欲(20%)、レポート(20%)をルーブリック評価表参照の上で総合的に評価する。	
【履修上の注意】 材料は、基本的に各自で購入すること。 与えられた課題制作とは異なるため、自主性と積極性が強く求められる。 授業終了時に必ずかたづけ、清掃を行うこと。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：幼児教育方法論 英語表記：Early childhood Education Method ナンバリング：2311		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：塚越亜希子、 井上裕美子 担当形態：複数
科目/系列	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 幼児期に育みたい資質・能力を育成するための基本的な考え方に基づいて保育の環境構成を 考えることができる。 2. 幼稚園教育要領に基づく基礎的な幼児指導、幼児理解の考え方を踏まえた保育の目的に適した 指導技術を身につけることができる。 3. 幼児の興味、関心を高めるための適切な教材活用(情報機器の活用も含め)などを踏まえた模 擬実践を行い、それらを基に、計画-実践-評価-改善のあり方を省察し他者に説明できる。			
【授業の概要】 これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方 法、教育の技術、情報機器及び教材の活用について様々な視点から考察し、幼稚園や保育所、 認定こども園における保育者の役割を考え、具体的な援助や指導の方法を学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：幼児期に育みたい資質・能力を育成するための基本的な考 え方とその実践方法の基礎を学ぶ。 第2回：教育方法の基本を通して遊びの中で、幼児が主体となり、 協同的な学びのある保育について理解する。 第3回：保育を構成する基本的な環境について理解して、現場に即 して実践を考える。 第4回：様々な保育形態と保育方法について理解し、幼児にとって 必要な教材、教具や環境について考察する。(視聴覚教材を 用いて) 第5回：幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を身につける。 第6回：5領域の考え方を理解した上で、幼児が興味・関心を持てる 課題を自らつかむための、幼児教育の方法を考案する。 第7回：基礎的な幼児教育の考え方を踏まえて、ねらい、内容を考 え教材・教材意義とその指導方法を考える。		【授業時間外の学習】 (各1時間) ・「幼稚園教育要領解説とポイントと解説」「総則」を 熟読してまとめる。 ・「幼稚園教育要領解説とポイント」を熟読して「遊び を通した総合的な指導」に ついてまとめる。 ・「幼稚園教育要領解説とポイント」を熟読して「環境 を構成する視点」について まとめる。 ・保育における評価の考え方を まとめる。	

<p>第8回：小学校教育との接続も踏まえた幼児の指導方法を考える。</p> <p>第9回：幼児と環境との関係を考慮しながら、情報機器の効果的な活用について考察する。</p> <p>第10回：季節や行事も踏まえ幼児の発達に沿った幼児の興味関心をひき、学びにつながる指導案を立案する。</p> <p>第11回：作成した指導案を基に、ねらいを基に教師の話法、保育展開の方法、保育技術の活用を考え模擬保育の準備をする。</p> <p>第12回：模擬授業を体験する（幼児・教師・観察者・助言者）①</p> <p>第13回：模擬保育を体験する（幼児・教師・観察者・助言者）②</p> <p>第14回：模擬保育を通して振り返り、計画－実践－評価－改善を考察する。環境の再構成を考える。</p> <p>第15回：模擬保育を通して振り返り、自らの幼児教育の方法についての今後の課題を話し合い、発表する。</p> <p>定期試験：なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領解説とポイント」を熟読し「各領域に示す事項」についてまとめる。 ・様々な教材研究をする。 ・小学校以降の生活・学習とその接続についてまとめる。 ・幼児の情報機器活用について調べる。 ・発達年齢を踏まえた指導案を立案する。（運動・制作・遊び・音楽など） ・3歳児の指導案を作成する ・4歳児の指導案を作成する
<p>【授業の方法】 講義、演習、アクティブラーニング型。課題に対して次の授業でフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】 『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』（いずれも平成30年フレーベル館）</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 適宜配布する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 模擬保育（40％）、小テスト（20％）、授業参画度等（20％）、レポート（20％）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 幼児教育の方法を理論より理解した上で、指導案を作成し、模擬保育を行う。各授業のまとめ、指導案などの提出物は必ず期限内に提出すること。また、模擬保育は、環境構成、服装、言葉、振り返り発表など全てを含めて教員評価及び学生評価を行う。真摯に準備して実践に向かうこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>【実務経験】 塚越：元幼稚園教諭 井上：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園、公立幼稚園、私立保育所で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、保育者として求められる知識や技術、心得について具体的に講じ、保育を展開していくための方法やポイントを実践的に身につけられるよう授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：乳児保育Ⅱ 英語表記：Infant CareⅡ ナンバリング：2313		単位数：1単位 (半期)演習	担当教員名：加藤房江 担当形態：単独
科目/系列	/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/乳児保育Ⅱ		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解できる。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境について理解できる。 3. 乳児保育における配慮の実際について学び、指導計画の作成について理解できる。			
【授業の概要】 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方や養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境についての理論と実際をすり合わせて理解し、計画の作成ができるよう考察を深めていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション、3歳未満児の発育・発達 第2回：3歳未満児の発育・発達 1 第3回：3歳未満児の発育・発達 2 第4回：子ども・子育てをめぐる現状と乳児保育の意義 第5回：養護及び教育の一体性と育みたい資質・能力 第6回：子どもの自己の育ちと主体性を尊重する保育 第7回：0歳児（乳児）の援助の実際 第8回：1歳児の援助の実際 第9回：2～3歳児の援助の実際 第10回：3歳未満児の援助の実際と保育環境 第11回：0歳児（乳児）の保育内容と遊び 第12回：1歳児以上3歳未満児の保育内容と遊び 第13回：長期的・短期的な指導計画と個別的・集団の指導計画 第14回：乳児保育を支える連携と集団での生活における配慮 第15回：集団での生活における配慮 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 課題プリントやグループワークにおいて主体的に臨む姿勢が大切になる。 事前学習と事後学習に1時間程度の時間が必要である。 自らが将来的課題を見つけてそれに向かって学習することが重要である。	
【授業の方法】 乳児人形を使い実際の技術を学び、保育実践を行う。また、視聴覚教材を通して実際の乳児のケア			

の様子を把握し、子どもの様子や保育の仕事内容を理解する。ループワークを通して能動的に実際の保育者役・子ども役を体験することで、保育を構成し、計画、立案する力を身につける。学生からの課題に対して、レポートや課題にコメントを入れてフィードバックする。

【テキスト】

『見る・考える・創りだす「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林

【参考書・参考資料等】

『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版）
『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版）
『マンガでわかる保育所保育指針』浅井拓久也 著 中央法規

【学生に対する評価】

ルーブリック評価・授業内提出物・課題レポート・小テスト（70%）、授業参画度・発表（30%）等で判断する。

【履修上の注意】

- ・保育士になるための大切な授業であり、「乳児保育Ⅰ」で学んだことを基礎として、乳児保育の学びを深められるよう積極的姿勢で学ぶこと。
- ・グループワークや模擬保育は協力して行い、演習に必要な持参物品の準備をすること。
- ・受講にあたって、事前事後の学習を行い、積極的態で授業に臨むことを期待する。

実務経験の有無：有

実務経験：元主任保育士

【実務経験を生かした教育内容】

保育士の経験を活かし、実践での子どもとの関わり方や保育士の職務内容を学ぶ等、役立つ授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：子どもの健康と安全 英語表記：Child Health and Safety ナンバリング：2314		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：片口桂 担当形態：単独
科目/系列	／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	／子どもの健康と安全		
【授業の到達目標及びテーマ】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解し、説明ができる。 2. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 3. 子どもの健康や安全の管理に関わる組織的な取組や保健活動の計画・評価について理解する。 			
【授業の概要】			
<p>保健的な観点に基づく環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得する科目である。アレルギー対応、感染症対策、事故防止、事故発生時の対応などについて、関連するガイドラインや近年のデータに基づいて具体的に理解していく。子どもの健康や安全の管理に関わる、組織的な取組や保健活動の計画・評価等についても理解する。</p> <p>応急処置演習も行い、実践的な技術を獲得する。</p>			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
<p>第1回：子どもの健康と保育環境を学ぶ</p> <p>第2回：子どもに関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理を理解する</p> <p>第3回：保育における健康及び安全の管理・衛生管理を学ぶ</p> <p>第4回：事故防止及び安全対策について具体的に学ぶ</p> <p>第5回：危機管理・災害対策について具体的に学ぶ</p> <p>第6回：子どもの体調不良・傷害発生時の適切な対応と応急処置①を学ぶ</p> <p>第7回：子どもの体調不良・傷害発生時の適切な対応と応急処置②を学ぶ</p> <p>第8回：子どもの感染症集団発生の予防について理解する</p> <p>第9回：感染症発生時と罹患後の対応を学ぶ</p> <p>第10回：保育における保健的対応の基本的な考え方を理解する</p>		<p>予習は、教科書を読みわからない言葉を調べておく。復習はポイントをまとめ、演習課題、小テストの見直しを適宜行い実習時や普段の生活に活かすことができるように学んでおく。</p> <p>乳幼児の保健や安全に関する報道について意識的に把握して考える習慣を身に付ける。課題は提出期限をまもる。</p> <p>標準学修時間の目安： 演習手順や講義内容の予習、復習、宿題を含めて60～120分程度の時間が必要である。</p>	

<p>第11回：3歳未満児の養護の観点における保健的対応を学ぶ 第12回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応を学ぶ① 第13回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応を学ぶ② 第14回：保育における保健活動の計画及び評価を理解する 第15回：保育活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携について学ぶ</p> <p>定期試験：筆記試験</p>	
<p>【授業の方法】 講義PBL（課題解決型学習）適宜グループワークを行う。 学生の疑問・質問にはリアクションペーパーも活用し個人または全員にフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】 『子どもの健康と安全演習ノート』 小林美由紀編著 診断と治療社</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』内閣府・文部科学省・厚生労働省 『保育所における感染症対策ガイドライン』厚生労働省、その他、適宜、参考資料を配布、紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 定期試験（60%） 課題提出（20%） 演習・授業参画度（20%）。 ルーブリック評価も活用し総合評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 講義・演習ともに積極的、主体的な姿勢で取り組むこと。演習の際は実践同様に取り組み、対応を間違いなく身につけるようにする。安全管理・危機管理は予測・推測が重要になるので多角的に考える姿勢を身に着けられるよう学ぶ。授業中のスマホ操作、写真・動画撮影、通信操作、音楽を聴きながらの受講は禁止とする。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：保育所 児童発達支援事業所</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 子どもの施設における保健活動の経験を活かし、現場で実践できる知識、技術を習得できるよう、わかりやすい授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：特別支援保育 英語表記：Special-Needs Childcare ナンバリング：2316		単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：布施由起 担当形態：単独
科目/系列	/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/障害児保育		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 障害児保育の理念や歴史的変遷を踏まえ、障害児及びその保育について理解できる。 2. 障害児や特別な配慮を要する子どもの援助方法や支援計画の作成について理解できる。 3. 障害児や特別な配慮を要する子どもの現状と課題を基に、家庭支援や専門機関等との連携について理解できる。			
【授業の概要】 障害児や特別な配慮を要する子どもの保育の考え方や特性に応じた支援の在り方について、疑似体験や討議活動等を通し理解を深め、実践力を身につける。個別の支援計画の作成や家庭支援の在り方、専門機関等との連携について、実践的な学びを重視し自ら考え支援できる力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：障害児保育を支える理念と障害児保育の歴史的変遷 第2回：ICFに基づき障害児保育の事例について考える 第3回：乳幼児の障害特性について① 第4回：乳幼児の障害特性について② 第5回：発達障害児の理解と支援① (ASD) 第6回：発達障害児の理解と支援② (ADHD・LD) 第7回：言語障害・情緒障害児の理解と支援 第8回：障害種別に支援計画を考える① 第9回：肢体不自由児・知的障害児の理解と支援 第10回：視覚障害・聴覚障害児の理解と支援 第11回：重度心身障害児・医療的ケア児等の理解と支援 第12回：障害種別に支援計画を考える② 第13回：地域の専門機関や小学校等との連携の理解 第14回：保護者や家族の理解と支援 第15回：特別支援保育の現状と課題、今後の展望		【授業時間外の学習】 授業前後に、あわせて1時間程度の自己学習を要する。 ・授業前に教科書を読み、疑問点について調べておく。 ・授業後は教科書や配布したプリントをもとに、内容を整理し、まとめておく。 ・保育実習や教育実習において日常生活の中で気になった子ども達の様子を記録し、演習等に活かせるようにしておく。	

定期試験：筆記試験	
【授業の方法】 講義、グループでの演習やワーク。単元ごとの小レポートにフィードバックを行う。	
【テキスト】 『コンパス障害児の保育・教育』 武藤久枝 小川英彦編 建帛社	
【参考書・参考資料等】 適宜配布する。	
【学生に対する評価】 授業参画度 (20%)、小レポート (30%)、定期試験 (50%)、ルーブリックに基づいた評価を行う。	
【履修上の注意】 受講に当たっては教科書を参考に事前、事後の学習を行い、演習には積極的に取り組むこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：元知的障害者支援施設勤務、臨床心理士・公認心理師
【実務経験を生かした教育内容】 施設職員の経験を活かし、障害のある子どものかかわり方において実践的な授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名:社会的養護Ⅱ 英語表記:Social CareⅡ ナンバリング:2317		単位数:1単位 (半期)演習	担当教員名:高橋努、浅野瞳 担当形態:クラス分け
科目/系列	/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/社会的養護Ⅱ		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 1年次に学んだ「社会的養護」の理解を深めることができる。 2. 子どもの権利、家庭や社会のあり方について理解できる。 3. 保育士の専門性について理解できる。			
【授業の概要】			
保育実習Ⅰ(施設)で体験・経験してきた、障害児・者への対応や、児童養護施設、乳児院等児童福祉施設で生活している子どもたちに対する支援の方法など、保育士として必要な「ソーシャルワーク」や保育士の専門性について演習課題を中心に学び、理解を深める。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回:社会的養護の理解のために		・授業前の予習をしっかりと行うことと、課題提出の期限を守ること。(2時間)	
第2回:アドミッションケア(施設入所・里親委託に伴う支援)			
第3回:インケア(日常生活支援・治療的支援)			
第4回:リビングケア(自立支援)		・実習を行った「児童福祉施設等」に関する振り返りとそこで身に付けた対応方法などについて、グループワーク等を活用して理解を深める。(3時間)	
第5回:アフターケア			
第6回:ソーシャルワーク			
第7回:記録と評価			
第8回:保育実習Ⅰの振り返り① (グループワーク1:ブレインストーミング)			
第9回:保育実習Ⅰの振り返り② (グループワーク2:ポスター作成・発表準備)		・施設実習の実習日誌(課題について)を活用して振り返りを行う。各自で整理しておくこと。(3時間)	
第10回:保育実習Ⅰの振り返り③ (グループワーク3:ポスター作成・発表準備)			
第11回:保育実習Ⅰの振り返り④(ポスター発表)			
第12回:グループ発表の準備①(パワーポイントの作成等)			
第13回:グループ発表の準備②(パワーポイントの完成・提出)			
第14回:グループ発表			
第15回:グループ発表振り返り			

定期試験：なし	
【授業の方法】 グループワークを中心とした、演習形式。 前半はテキストを使用、後半は「保育実習Ⅰ（施設）」の振り返り。実習の振り返りを題材に、レポートの作成やパワーポイントの作成、発表技法の習得などを行う。振り返りのレポート作成の過程で適時アドバイスをしてフィードバックする。	
【テキスト】 図解で学ぶ保育『社会的養護Ⅱ』 杉山宗尚・原田旬哉 編著 萌文書林	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜プリント等配布する。	
【学生に対する評価】 （評価については、ルーブリック評価を活用する） レポート作成（A4…2枚、2,000文字以上必須）（40%）、グループ発表等（40%）、課題等（20%）	
【履修上の注意】 ・「保育実習Ⅰ（施設）」の振り返りレポートの作成。（実習課題の達成度やレポートのまとめ方） ・グループ発表は、メンバーと協力して、資料作成や発表を行うこと。（1年生への資料として活用することを前提に作成すること。）	
実務経験の有無：有	実務経験：高橋・浅野：元施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務の経験を活かし、実際の施設での子どもたちなどの状況などを説明し、社会的養護Ⅰで学んだことをさらに深められるよう事例などを取り入れた授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：子育て支援 英語表記：Child Care Support ナンバリング：2318		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：浅野瞳 担当形態：単独
科目/系列	/保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/子育て支援		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育者の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 3. 保育者の行う保育の専門性を理解し、多角的な視点を持った保育について理解する。			
【授業の概要】 保育者の行う保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援の特性と展開を具体的に学び、様々な場面に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：子育て支援とは（オリエンテーション） 第2回：子育て支援の意義 第3回：子育て支援の基本的価値・倫理 第4回：子育て支援の基本的姿勢 第5回：子育て支援の基本的技術 第6回：園内・園外との連携と社会資源 第7回：記録・評価・研修 第8回：日常会話を活用した子育て支援 第9回：文書を活用した子育て支援 第10回：行事などを活用した子育て支援 第11回：環境を活用した子育て支援 第12回：地域子育て支援拠点における子育て支援 第13回：社会的養護と連携した子育て支援 第14回：児童発達支援と連携した子育て支援 第15回：まとめと今後の課題 定期試験：筆記		【授業時間外の学習】 ・授業前に提示する資料を読み、自分の考え・疑問点について整理しておくこと。 ・授業後は、参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめておくこと。 ・日頃から子育て支援に関するニュースをチェックしておくこと。 ・予習・復習には1～2時間程度の時間が必要である。	

【授業の方法】 講義及び演習（グループワーク）を取り入れた授業を行う。 Google Classroomを使用し、課題等の提出物に対し随時フィードバックを行う。	
【テキスト】 『子育て支援』 二宮祐子著 萌文書林	
【参考書・参考資料等】 『保育所保育指針解説＜最新版＞』厚生労働省、フレーベル館	
【学生に対する評価】 （課題等の評価にルーブリックを活用する） 小テスト(20%)、課題提出(30%)、筆記試験(50%)を総合的に評価。	
【履修上の注意】 ・受講にあたっては、テキスト、配布資料を参考に事前事後の学習を行い、積極的な姿勢で臨むこと。 ・グループワーク等の演習を通し、学んだ知識を、自らの言葉で伝える力を身に着けること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、児童福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。	

<p>マンツーマンによるレッスン 第7回：コードネーム④ 楽曲を用いたト長調 3コードの指導 マンツーマンによるレッスン 第8回：夏の歌 Aグループによる模擬授業 マンツーマンによるレッスン 第9回：夏の歌 Bグループによる模擬授業 マンツーマンによるレッスン 第10回：コードネーム⑤ ヘ長調 3コードの説明 マンツーマンによるレッスン 第11回：コードネーム⑥ 楽曲を用いたヘ長調 3コードの指導 マンツーマンによるレッスン 第12回：コードネーム⑦ ニ長調 3コードの説明 マンツーマンによるレッスン 第13回：コードネーム⑧ 楽曲を用いたニ長調 3コードの指導 マンツーマンによるレッスン 第14回：生活の歌 模擬授業 マンツーマンによるレッスン 第15回：3コードによる伴奏づけテスト マンツーマンによるレッスン 定期試験：実技</p>	<p>(毎回 1 時間)</p> <p>〈個人レッスン〉 毎回のレッスンで課題となった曲の練習 (1日 15分以上、1週間に合計 1時間以上)</p>
<p>【授業の方法】 合同授業と個人レッスン（ピアノ実技指導）。合同授業では課題にコメントを入れてフィードバックを行う。個人レッスンでは一人ひとりの進捗、練習に合わせてフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 合同授業：『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社 個人レッスン：レベルに合わせて選曲</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 コードネームに関する資料と課題を配布する。 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 合同授業内の課題（3コード）テスト（20%）、模擬授業発表（20%）、授業参画度（受講上の注意を守る）（10%）、課題曲の習熟度（ポートフォリオ配布）と実技試験（50%） ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。</p>	
<p>【履修上の注意】 自己学習の予習、復習が大変重要である。 個々にレベルアップを目指し、実践できる力をつけられるよう練習すること。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

<p>マンツーマンによるレッスン 第7回：ICTを活用した楽譜の作成 マンツーマンによるレッスン 第8回：ICTを活用した楽譜の作成 マンツーマンによるレッスン 第9回：移調の方法 マンツーマンによるレッスン 第10回：模擬クリスマスコンサートの実施 マンツーマンによるレッスン 第11回：編曲法について マンツーマンによるレッスン 第12回：編曲した曲の発表 マンツーマンによるレッスン 第13回：メッセージソングの練習 マンツーマンによるレッスン 第14回：模擬卒園式（メッセージソングの発表） マンツーマンによるレッスン 第15回：伴奏付け まとめ マンツーマンによるレッスン 定期試験：実技（「音楽IV履修者によるピアノ発表会」）</p>	<p><個人レッスン> 毎回のレッスンで課題となった曲の練習 （毎日10分程度、1週間に合計1時間以上）</p>
<p>【授業の方法】 合同授業と個人レッスン（ピアノ実技指導）。合同授業では課題コメントを入れてフィードバックを行う。個人レッスンでは一人ひとりの進捗、練習に合わせてフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 合同授業 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社 個人レッスン レベルに合わせて選曲</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 合同レッスンではコードネームに関する資料や楽譜を紹介する。 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 合同授業内の課題遂行と提出（20%）、模擬授業発表（20%）、授業参画度（受講上の注意を守る）（10%）、課題曲の習熟度（ポートフォリオ配布）と実技試験（50%）。 ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。</p>	
<p>【履修上の注意】 個々にレベルアップを目指し、練習をしてレッスンに臨むこと。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名: カウンセリングⅡ 英語表記: CounselingⅡ ナンバリング: 2330		単位数: 2単位 (半期) 演習	担当教員名: 山田耕平 担当形態: 単独
科目/系列	/ 保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. カウンセリングの理論を説明できる。 2. ファシリテーターとして、エンカウンターグループを実践できるようになる。 3. 自身の言動や心の動きを振り返り、言語化することができる。			
【授業の概要】			
ピアヘルピングを実践するために必要となるカウンセリングの理論と技法についての理解を深めロールプレイやグループワーク演習、サポート体験を通して実践力の向上を目指す。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回: イントロダクション カウンセリングとは 第2回: カウンセリングの理論と技法① 第3回: カウンセリングの理論と技法② 第4回: ロールプレイ、グループワーク演習① 第5回: ロールプレイ、グループワーク演習② 第6回: 小テスト ピアサポートとは 第7回: ピアサポートの導入、計画 第8回: ピアサポートの方法① 第9回: ピアサポートの方法② 第10回: ピアサポートの方法③ 第11回: 小テスト ピアサポート体験① 第12回: ピアサポート体験の振り返り 第13回: ピアサポート体験② 第14回: ピアサポート体験の振り返り 第15回: 全体のまとめ 定期試験: レポート		授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。 ・教科書や授業内で配布したプリントをもとに、前回の内容を確認し、次回の学習内容についても確認しておくこと。 ・カウンセリングの理論、技法について、教科書や授業内で配布したプリントをもとに理解したことをまとめる。 ・ロールプレイ、グループワーク演習、ピアサポート体験を振り返り、今後の課題、改善点をまとめる。	
【授業の方法】			
講義、グループ演習、ロールプレイを行う。 授業感想や質問に対してGoogle Classroomを活用しフィードバックを行う。			

【テキスト】

授業中に資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

『ピアヘルパーワークブックーやって身につくカウンセリング練習帳』 日本教育カウンセラー協会編 図書文化社

【学生に対する評価】

授業参画度(20%)、授業成果物(30%)、期末レポート(50%)。ルーブリックに基づいた評価を行う。

【履修上の注意】

受講にあたっては、事前事後の学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと。事前に「カウンセリングⅠ」を受講していることが望ましい。

実務経験の有無：有

実務経験：臨床心理士・公認心理師
精神科クリニック、生活困窮者支援 等

【実務経験を生かした教育内容】

精神科クリニック心理士としての勤務経験を活かして、実践的なロールプレイ等を取り入れて演習を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナール I 英語表記：Seminar I ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：浅野瞳 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 自己理解を深め、保育者としての自己課題を明確にするとともに、基礎的な資質・能力を形成する。 2. 保育者に求められる専門的知識・技能・教養および倫理観を総合的に修得する。 3. 現代的な保育課題を分析し、実践および研究活動を通して課題解決に向けた考察力と実践力を高める。			
【授業の概要】			
本ゼミナールでは「子どもの発達について理解し、療育支援の土台を育てる」ことを目標に、子どもの発達の基礎、発達障害の特性、ティーチャーズトレーニングおよび療育支援の基礎を学び、体験的な活動や療育ツールの試作を通して理解を深め、ゼミナールⅡにおける実践的研究活動へとつながる基盤を養う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション（授業の目的・進め方の理解）		1. 授業前後合わせて1時間程度の予習・復習等の自主学習を要する。	
第2回：子どもの発達について知る①		2. 保育実習などで、様々な子どもの観察を行うこと。「行動」に注目できるよう意識すること。	
第3回：子どもの発達について知る②		3. 積極的に施設見学やボランティア活動を行い、実際に子どもたちに関わる経験をすること。	
第4回：特別な配慮を要する子どもを理解する		4. 自分自身の特徴や課題についても意識し、自己理解を深めること。	
第5回：子どもに伝わる関わりを学ぶ①			
第6回：子どもに伝わる関わりを学ぶ②			
第7回：子どもの感じ方を体験する①			
第8回：子どもの感じ方を体験する②			
第9回：療育支援について理解する			
第10回：療育ツールを検討・試作する①			
第11回：療育ツールを検討・試作する②			
第12回：調査・整理①			
第13回：調査・整理②			
第14回：学びの共有（発表）			

第15回：全体の振り返りとゼミナールⅡへの展開	
定期試験：なし	
【授業の方法】 各自テーマを設定し、調査・研究を進める。プレゼンテーション、ディスカッションを行う。他者のプレゼンテーションや教員のコメント等から自らの調査・研究を深める。	
【テキスト】 必要に応じて授業内でプリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 参考図書は授業内で指示する。	
【学生に対する評価】 ＊ルーブリックを活用し、総合的に評価する。 授業参画度（40％）、課題・提出物等（30％）、研究発表（30％）。	
【履修上の注意】 ・学生自身が自己理解を深め、今後保育者として様々な子どもに関わる意識を高めること。 ・事前準備、事後のまとめを丁寧に行うこと。 ・積極的に調査・研究活動に取り組み、支援力の習得に心がけること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設等と連携した実践に近い授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナール I 英語表記：Seminar I ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 講義	担当教員名：井上裕美子 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 自己理解を深め、保育者としての自己課題を明確にするとともに、基礎的な資質・能力を形成する。 2. 保育者に求められる専門的知識・技能・教養および倫理観を総合的に修得する。 3. 現代的な保育課題を分析し、実践および研究活動を通して課題解決に向けた考察力と実践力を高める。			
【授業の概要】 本授業では、実習や日常の経験を振り返りながら自己理解を深め、保育に関する課題意識を明確にすることを目的とする。事例検討やフィールドワークを通して多様な視点に触れ、問いを立てる力を養う。文献収集や基礎的な調査方法を学び、後期の探究活動へと接続する。			
			関連性
【知識・理解・技能】 1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。 2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。 3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
			○
【思考・判断・表現】 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
			○
【関心・意欲・態度】 1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。 2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 自己紹介 第2回：自分と向き合う (1) 実習を振り返る 第3回：事例を通して学ぶ (1) 第4回：フィールドワーク (1) 子どもの視点を知る 第5回：振り返り 第6回：フィールドワーク (2) 当事者について知る 第7回：振り返り 第8回：自己の関心を整理し研究テーマ候補を設定する。(中間発表) 第9回：文献の探し方・引用方法・研究倫理の基礎を学ぶ (1) 第10回：文献の探し方・引用方法・研究倫理の基礎を学ぶ (2) 第11回：文献の探し方・引用方法・研究倫理の基礎を学ぶ (3) 第12回：問いを再構成し、簡単なレポートを作成する (1) 第13回：問いを再構成し、簡単なレポートを作成する (2) 第14回：問いを再構成し、簡単なレポートを作成する (3)		【授業時間外の学習】 本授業は、毎回の授業に対して事前・事後合わせて2時間程度の学修を要する。 ■ 事前学修 (目安：1時間) 1. 配布資料や事例を読み、問いや疑問点を整理する。 2. 実習記録や経験を振り返り、自分の考えをメモにまとめる。 3. 指定されたテーマについて基礎的な文献検索を行う。 ■ 事後学修 (目安：1時間) 1. 授業でのディスカッションを振り返り、自分の考えの変化を記述する。 2. 中間発表・最終レポートに向けて問いを整理・再構成する。	

<p>第15回：前期のまとめ 定期試験：筆記・レポート</p>	<p>3. 文献の要約や引用箇所の整理を行う。</p>
<p>【授業の方法】 本授業は演習形式で行う。事例をもとに自らの考えを発言し、ディスカッションを通して他者の意見を聞きながら学びを深める。また、フィールドワークを実施し、気づきや考えを整理する。 PBL（課題解決型学習）を取り入れ、保育者の専門性について考えながら自己課題を見いだす。ICTを活用して資料共有や課題提出を行い、オープンな教育リソースも教材として活用する。課題や提出物にはコメントを付してフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 必要に応じて適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度（ディスカッション・発言）等（30%）、中間発表（20%）、筆記・レポート（50%）、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 提出物は期限までに提出すること。事前事後の学修をしっかりと行い、授業内で積極的な参画をすること。フィールドワークに要する交通費や参加費は自己負担となる。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：元幼稚園教諭・元保育士主任</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 幼稚園・保育所でのクラス担任や中間管理職の経験を活かし、保育方法や技術及び子ども理解、チームで保育を実践することについて具体的な事例を用いながら教授する。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナール I		単位数：1単位	担当教員名：小川弥輪
英語表記：Seminar I		(半期) 演習	担当形態：クラス分け
ナンバリング：2331			
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 自己理解を深め、保育者としての自己課題を明確にするとともに、基礎的な資質・能力を形成する。			
2. 保育者に求められる専門的知識・技能・教養および倫理観を総合的に修得する。			
3. 現代的な保育課題を分析し、実践および研究活動を通して課題解決に向けた考察力と実践力を高める。			
【授業の概要】			
子どもにとっての音楽表現について理解し、子どもの音楽表現をより豊かなものにする児童文化財と音楽の融合についての研究と発表を行う。様々な音楽表現活動を経験し、保育者として必要な豊かな感性と表現力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション		(授業前後合わせて1時間程度の自主学習を要する)	
第2回：教員による話題提供「子どもにとっての音楽表現とは」		・教材研究、演奏練習	
第3回：子どもと音楽表現 研究活動①			
第4回：子どもと音楽表現 研究活動②			
第5回：教員による話題提供「児童文化財と音楽の融合について」		・教材研究、演奏練習	
第6回：児童文化財と音楽の融合 研究活動①			
第7回：児童文化財と音楽の融合 研究活動②			
第8回：児童文化財と音楽の融合 研究発表		・研究発表の振り返り	
第9回：児童文化財と音楽の融合 研究活動③		・教材研究、演奏練習	
第10回：児童文化財と音楽の融合 研究活動④			
第11回：児童文化財と音楽の融合 研究発表		・研究発表の振り返り	
第12回：ICTを活用した音楽表現活動①		・音楽制作、演奏練習	
第13回：ICTを活用した音楽表現活動②			
第14回：ICTを活用した音楽表現活動 研究発表		・研究発表の振り返り	
第15回：まとめと今後への課題発見		・まとめと自己課題発見	

定期試験：なし	
【授業の方法】 教員から話題提供を行い、授業を展開していく。そして、学生を中心としたディスカッションにより、テーマを設定し研究を進める。研究活動や発表の中でそれぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度・音楽活動に対する練習と発表に取り組む姿勢(40%)、レポート(20%)、発表(40%)、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 音楽活動に対し興味・関心を持ち、各自目標を設定し授業に取り組む。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：片口桂 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 自己理解を深め、保育者としての自己課題を明確にするとともに、基礎的な資質・能力を形成する。 2. 保育者に求められる専門的知識・技能・教養および倫理観を総合的に修得する。 3. 現代的な保育課題を分析し、実践および研究活動を通して課題解決に向けた考察力と実践力を高める。			
【授業の概要】 乳幼児教育・保育現場において現在求められている保育に焦点を当て、学生の主体的意識を高め、授業を展開していく。子どもの活動において注目されている「主体的」「探求心」「五感を生かし感性を育む」などを授業に取り入れ学生自身がその必要性を体験する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：保育所保育指針の基礎を学ぶ 第2回：保育者としての基本的な専門知識を理解しあう 第3回：保育者としてクラス運営についてまとめ発表しあう 1 第4回：保育者としてクラス運営についてまとめ発表しあう 2 第5回：保育者の担う保育に必要な技能を習得する 第6回：保育者に必要な技能のひとつである製作実践を行う 1 第7回：保育者に必要な技能のひとつである製作実践を行う 2 第8回：製作実践の発表を行い、学び合う 第9回：実習を通して生まれた疑問・課題を発表しあい、課題を明確にする 第10回：保育者として求められる技能や知識をグループでまとめる 第11回：自身の得意な保育分野の研究発表を準備する 第12回：研究発表 1 第13回：研究発表 2 第14回：保育実践の評価と内省を行い、学び合う。		【授業時間外の学習】 1. 2. 保育所保育指針熟読 60分 3. 4. クラス運営下調べ 60分 発表準備 30分 5. 6. 7. 技能・制作の準備各 90分 8. 発表準備 60分 9. 発表のための実習まとめ 60分 10. 保育者に求められる専門性をまとめる 60分 11. 12. 13. 得意分野の発表準備 60分 14. 保育計画の評価と今後の課題 60分 15. 保育者として望まれる学びと実践・保育活動への取り組みについてまとめる 90分 まとめを提出	

<p>第15回：「子どもの主体性」を育てる保育者として望まれる知識・実践力についてグループで話し合う</p> <p>定期試験：なし</p>	
<p>【授業の方法】 グループワークや体験的学習により現場で即戦力となる保育者としての専門的視点を育む。授業後に行う振り返りや教員からのフィードバックをおこなう。</p>	
<p>【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度・ルーブリック評価（40％）、研究課題作成（30％）、発表（30％）。</p>	
<p>【履修上の注意】 予習・復習を必ず行い毎回の授業に臨むこと。周囲とコミュニケーション取り、活発に発言し、疑問があれば適宜教員に質問し、次回に持ちこさないようにすること。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：保育園・児童発達支援事業所勤務</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 保育園、児童発達支援事業所での保育の経験を活かし、学生自身が主体的に活動を展開し、保育現場において即戦力となるよう授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナール I 英語表記：Seminar I ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 自己理解を深め、保育者としての自己課題を明確にするとともに、基礎的な資質・能力を形成する。			
2. 保育者に求められる専門的知識・技能・教養および倫理観を総合的に修得する。			
3. 現代的な保育課題を分析し、実践および研究活動を通して課題解決に向けた考察力と実践力を高める。			
【授業の概要】			
本授業では、子どもの活動や発達を予測し、保育に必要な専門的知識及び技術、教養、総合的な判断力、倫理観等を修得する。保育者に求められることは何か、考察し、保育実践に必要な基礎的な資質・能力を定着していく。また、教材や遊びなどの児童文化財を考えて制作し、演じ方などを研究していく中で、保育現場で活用出来る教材の制作や保育技術を考察する。そして、保育現場で実際に活かせる制作物や技術を習得し、子どもへの援助するにはどのような方法があるかを学んでいく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション ゼミナール I 運営について		・保育者として必要な専門知識について予習する (1～2時間程度)。	
第2回：話題提供① 各自テーマについて考察 保育者として必要な専門知識を考える		・研究活動の多くは、授業時間外の学習や活動である。そのため日頃から研究し、計画的に取り組むこと (予習、復習に1～2時間程度の時間)。	
第3回：各自テーマについて調査・研究		・実習や保育者になった時のことを意識しながら、教材研究を行い、アイデアを集めておく。	
第4回：各自テーマについて調査・研究		・幼稚園・保育所実習に向けて準備や制作などを進める。	
第5回：研究発表・意見交換			
第6回：話題提供② 各自テーマについて考察			
第7回：各自テーマについて調査・研究・制作			
第8回：各自テーマについて調査・研究・制作			
第9回：研究発表・意見交換			
第10回：研究発表・他のゼミとの交流			
第11回：話題提供③ 各自テーマについて考察			

<p>第12回：各自テーマについて調査・研究・制作 第13回：各自テーマについて調査・研究・制作・発表準備 第14回：授業内発表会 第15回：まとめと今後の課題の明確化 定期試験：なし</p>	<p>・授業内でロールプレイや成果の発表を行うため、発表においては身近な人などに模擬演習をしておく（1～2時間程度）。</p>
<p>【授業の方法】 保育者として必要な専門知識や技術を確かなものにするためのテーマについて、グループ討論やロールプレイング等を交え研究活動を進める。教員からの話題提供や自己課題を把握する中で、各自調べ学習を行い、研究したものを発表することにより、実践力を高める。制作過程において改善点を伝え成果発表後に実践力向上に繋がるフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 各自必要な本について案内する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 ルーブリック評価・研究に取り組む参画度（40%）、制作物（30%）、成果発表（30%）を総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 研究に必要な事前の予習・準備を行い臨むこと。 保育現場を意識し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 保育者としての経験を活かし、保育現場に必要な知識や技術の修得ができるような内容を行うことで、保育者として必要となる力を身に付けられること見据えた授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：瀬戸奏 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 自己理解を深め、保育者としての自己課題を明確にするとともに、基礎的な資質・能力を形成する。 2. 保育者に求められる専門的知識・技能・教養および倫理観を総合的に修得する。 3. 現代的な保育課題を分析し、実践および研究活動を通して課題解決に向けた考察力と実践力を高める。			
【授業の概要】 自身が日常の「音」「音楽」に意識的に耳を傾け、それらの存在が子どもにとってどういった影響や効果があるのかを考える。保育現場における様々な活動と組み合わせることで「音と音楽の活用方法の可能性」を研究し、発表を行う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：音楽に合わせた自己紹介の方法① 第3回：音楽に合わせた自己紹介の方法② 第4回：話題提供「子どもを取り巻く音楽環境」 第5回：音・音楽との関わり① 第6回：音・音楽との関わり② 第7回：音・音楽の影響と効果① 第8回：音・音楽の影響と効果② 第9回：保育における音・音楽の様々な活用法 第10回：手作り楽器を用いた音楽活動① 第11回：手作り楽器を用いた音楽活動② 第12回：楽器アンサンブル① 第13回：楽器アンサンブル② 第14回：研究発表－企画、練習 第15回：研究発表－発表、まとめと今後への課題発見		【授業時間外の学習】 (授業前後合わせて1時間程度の自主学習を要する) ・自己紹介の練習 ・日常にある音探し ・保育における音、音楽に関する文献調査 ・楽器の仕組みを調べる ・楽器作りの材料探し ・曲の音取り、アンサンブル練習 ・発表に向けての企画 ・発表に向けての練習 ・発表の振り返り	

定期試験：なし	
【授業の方法】 教員から話題提供を行い展開していく。そして、学生が中心のディスカッションを通して研究を行う。テーマごとに課題を提出させ、教員からのコメントを入れてフィードバックする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業への参画度・演奏に対しての練習と発表に取り組む姿勢（50%）、研究発表（30%）、課題プリント（20%）。 ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。	
【履修上の注意】 音楽活動に対し興味・関心を持ち、各自目標を設定し授業に取り組む。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナール I 英語表記：Seminar I ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：高橋努 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 自己理解を深め、保育者としての自己課題を明確にするとともに、基礎的な資質・能力を形成する。			
2. 保育者に求められる専門的知識・技能・教養および倫理観を総合的に修得する。			
3. 現代的な保育課題を分析し、実践および研究活動を通して課題解決に向けた考察力と実践力を高める。			
【授業の概要】			
保育実習等を通じた自らの体験をもとに、保育者として必要な専門的知識、技術、教養、判断力、倫理観等を習得する。保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：学習の進め方について、研究テーマ・研究計画書の作成		授業前後に、あわせて1時間程度の自己学習を要する。	
第2回：調査・研究活動（児童福祉施設について）（1）		1. 児童虐待防止に関する情報を集める。（2時間）	
第3回：調査・研究活動（児童福祉施設について）（2）		2. 児童虐待やオレンジリボン運動の情報を集め、その対応方法等について理解を深める。（2時間）	
第4回：調査・研究活動（他大学の活動について）		3. 文献資料等を参考に、児童虐待防止の歴史的背景やオレンジリボン運動・子ども食堂等についても学習をする。（2時間）	
第5回：調査・研究活動（過去のオレンジリボン運動について）		すべてにおいて調べ学習が必須であり、図書館などを活用し率先して学習すること。	
第6回：調査・研究活動（論文等の検索）			
第7回：中間報告発表会			
第8回：調査・研究活動（子ども食堂の現状について）（1）			
第9回：調査・研究活動（子ども食堂の現状について）（2）			
第10回：調査・研究活動（地域の子どもの食堂について）			
第11回：調査・研究活動（子ども食堂の課題について）			
第12回：調査・研究活動（論文等の検索）、アンケート調査準備			
第13回：アンケート調査準備			
第14回：まとめ（ポスター発表準備）（1）			
第15回：まとめ（ポスター発表準備）（2）			
定期試験：なし			

【授業の方法】 演習形式で行う。調べ学習を中心に、調査した資料等のディベート等を行う。調査・研究を進める中でそれぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 授業内で必要な書籍を紹介していく。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜プリント等配布する（過去のオレンジリボン活動等の報告書等）。	
【学生に対する評価】 調査・研究活動結果のプレゼンテーション（50%）、レポート課題（50%）。 *評価には、ルーブリック評価を活用する。	
【履修上の注意】 ・調査・研究が中心となる。図書館やインターネット等の活用と必要な資料の取捨選択ができるようになることを目標とする。 ・学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。 それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設等と連携した実践に近い授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：眞柄絵里
英語表記：SeminarⅠ			担当形態：クラス分け
ナンバリング：2331			
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 自己理解を深め、保育者としての自己課題を明確にするとともに、基礎的な資質・能力を形成する。			
2. 保育者に求められる専門的知識・技能・教養および倫理観を総合的に修得する。			
3. 現代的な保育課題を分析し、実践および研究活動を通して課題解決に向けた考察力と実践力を高める。			
【授業の概要】			
子どもの遊びや生活における音楽や音楽的表現に着目し、研究・制作・発表等を通して、自ら考え子どもたちに関わることのできるよう学びを深める。また、自らの保育観を持ち、協働する保育の場において、表現する大切さも学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション		授業前後に、あわせて1時間程度の予習・復習含めた自己学習を要する。	
第2回：話題提供①子どもの遊びと生活における音楽		・各自の研究テーマについて図書館、インターネットなどを利用しながら情報収集をする。	
第3回：話題提供②言葉のリズムについて		・子どもの音楽的表現について考察し、自らの考えを持つ。	
第4回：研究方法と各自のテーマの選定		・自分の考えを伝える工夫をすること。(視覚的理解、言葉の選び方、ストーリー性など)	
第5回：調査・研究・実践活動①		・研究発表の計画、準備。	
第6回：調査・研究・実践活動②			
第7回：調査・研究・実践活動③			
第8回：研究成果の中間発表			
第9回：話題提供③子どもの音楽表現の援助について			
第10回：調査・研究・実践活動④			
第11回：調査・研究・実践活動⑤			
第12回：調査・研究・実践活動⑥			
第13回：発表準備			
第14回：研究発表とディスカッション			
第15回：全体のまとめ			

定期試験：なし	
【授業の方法】 これまでの学びや実習の経験等を基に各自テーマを設定した上で調査・研究を進める。グループワーク、ディスカッション・プレゼンテーション等それぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度等（40％）、レポート・制作（30％）、研究発表（30％）、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 毎週の課題にしっかりと取り組み、次回のゼミ内で発表できるよう、事前の準備、事後のまとめを確実に行うこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭・元保育士
【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園および公立保育園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、具体的な子どもの姿や保育者の関わりなどをわかりやすく伝え、実践に活かせる保育技術を身につけられるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナール I 英語表記：Seminar I ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：山田耕平 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 自己理解を深め、保育者としての自己課題を明確にするとともに、基礎的な資質・能力を形成する。 2. 保育者に求められる専門的知識・技能・教養および倫理観を総合的に修得する。 3. 現代的な保育課題を分析し、実践および研究活動を通して課題解決に向けた考察力と実践力を高める。			
【授業の概要】			
困っている子ども・保護者の実態について学び、かかわり方・相談支援の方法等の理解を目指す。2年間の学びの集大成に向けて、これまでの実習や講義を振り返り、自身の学びを言語化して、発表を行う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション・アイスブレイク 第2回：話題提供 自分自身が健康であるために 第3回：話題提供 困っている子どもと保護者 第4回：話題提供 生活困窮とはどのようなものか 第5回：話題提供 保護者とのかかわり方① 第6回：話題提供 保護者とのかかわり方② 第7回：話題提供 不適切保育を防ぐには 第8回：演習 ICT機器を使いこなす① 第9回：演習 ICT機器を使いこなす② 第10回：演習 これまでの学びを振り返り、言語化する① 第11回：演習 これまでの学びを振り返り、言語化する② 第12回：プレゼン資料作成・発表準備① 第13回：プレゼン資料作成・発表準備② 第14回：プレゼン資料作成・発表準備③ 第15回：発表・全体のまとめ		研究活動は、授業時間外の調査研究が大半を占めるので、課題意識を持って、日頃から研究に取り組む姿勢を大切に。 (授業毎に2時間程度) 受講にあたっては、自分の意見を言葉にして表現する技能が求められる。自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。 保育・教育現場への見学やボランティア参加などにより、困っている幼児・保護者の実態についての理解を深めておくことが望ましい。	

定期試験：なし	
【授業の方法】 演習、発表、文献研究、ディスカッション。授業感想や質問に対しては随時フィードバックを行う。	
【テキスト】 なし	
【参考書・参考資料等】 授業において適宜プリント資料を配布する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（40%）、授業内課題・研究発表（30%）、研究発表（30%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 課題意識を持って、自分から積極的に調査研究を行うこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：臨床心理士・公認心理師 精神科クリニック、生活困窮者支援 等
【実務経験を生かした教育内容】 切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、実践的な知識を含む授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：浅野瞳 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な専門的知識・技術、幅広く深い教養、総合的判断力および倫理観を発展的に修得する。 2. 自らの体験や収集した情報を基に保育に関する課題を多角的に分析し、課題への対応として求められる内容を多様な視点から考察する力を高める。 3. 自己の課題を明確化し、保育実践に必要なとなる基礎的資質・能力を深化させるとともに、保育・教育現場の現状と課題を踏まえて研究テーマを設定し、主体的に研究を遂行し、その成果をまとめる力を身につける。			
【授業の概要】 ゼミナールⅠでの学びを基盤として、特別な配慮を要する子どもへの支援を実践的に探究する。体験活動の発表および児童福祉施設での療育実践を通して、PDCAサイクルを経験し、療育的関わりを保育実践へとつなげる力を養う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：調査・研究活動Ⅰ ① 第3回：調査・研究活動Ⅰ ② 第4回：中間報告・ディスカッション 第5回：研究発表 第6回：振り返り 第7回：調査・研究活動Ⅱ ① 第8回：調査・研究活動Ⅱ ② 第9回：学外授業①(児童福祉施設) 第10回：学外授業②(児童福祉施設) 第11回：評価・振り返り 第12回：発表準備① 第13回：発表準備③		【授業時間外の学習】 ・授業前後合わせて1時間程度の予習・復習等の自主学習を要する。 ・訪問先の施設について、事前学習をし、理解を深める。 ・自分自身の特徴や課題について意識し、自己理解を深めること。	

第14回：研究発表	
第15回：全体のまとめ	
定期試験：なし	
【授業の方法】 各自テーマを設定し、調査・研究を進める。プレゼンテーション、ディスカッションを行う。他者のプレゼンテーションや教員のコメント等から自らの調査・研究を深める。学外授業においては施設訪問での実践を活かし、学びを深めること。	
【テキスト】 必要に応じて授業内でプリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 参考図書は授業内で指示する。	
【学生に対する評価】 （ルーブリックを活用し、総合的に評価する。） 研究発表（50%）、授業参画度（20%）、レポート等作成（30%）。	
【履修上の注意】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生自身が自己理解を深め、今後保育者として様々な子どもに関わる意識を高めること。 ・ 事前準備、事後のまとめを丁寧に行うこと。 ・ 積極的に調査・研究活動に取り組み、支援力の習得に心がけること。 	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設職員（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、児童福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：井上裕美子 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な専門的知識・技術、幅広く深い教養、総合的判断力および倫理観を発展的に修得する。 2. 自らの体験や収集した情報を基に保育に関する課題を多角的に分析し、課題への対応として求められる内容を多様な視点から考察する力を高める。 3. 自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的資質・能力を深化させるとともに、保育・教育現場の現状と課題を踏まえて研究テーマを設定し、主体的に研究を遂行し、その成果をまとめる力を身につける。			
【授業の概要】 前期に設定した問いをもとに、文献研究やフィールドワークを通して探究を深める。グループワークや個人研究を通して調査・考察を行い、発表会にて成果を共有する。対話を通して自己の学びを再構成し、保育者としての専門性を高める。卒業研究や今後の保育実践に資する探究的態度を確立する。			
			関連性
【知識・理解・技能】 1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。 ○ 2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。 3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 ○ 2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】 1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。 ○ 2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 ○ 3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 前期の振り返り 第2回：研究計画の具体化（目的） 第3回：研究方法の検討 第4回：文献整理（1） 第5回：文献整理（2） 第6回：研究計画書の作成・共有 第7回：中間発表 第8回：フィールドワーク・調査（1） 第9回：フィールドワーク・調査（2） 第10回：分析（1） 第11回：分析（2） 第12回：研究成果の構成づくり		【授業時間外の学習】 本授業は、毎回の授業に対して事前・事後合わせて2～3時間程度の学修を要する。 【事前学修】 （目安：1～1.5時間） 1. 自身の研究テーマに関する文献を読み、要約を作成する。 2. 調査・フィールドワークの準備（質問項目作成、観察視点整理等）を行う。 3. 発表資料の構成案を検討する。 【事後学修】 （目安：1～1.5時間）	

<p>第13回：発表資料作成 第14回：ゼミ内発表会 第15回：全体のまとめ ―学びと課題整理― 定期試験：筆記・レポート</p>	<p>1. 授業での指摘や助言を踏まえ、研究内容を修正・深化させる。 2. 調査結果や事例の整理・分析を行う。 3. 最終レポートおよび発表資料を作成する。</p>
<p>【授業の方法】 本授業は演習形式で行う。前期に設定した問いをもとに、文献研究、事例検討、フィールドワークを通して探究を深める。PBL（課題解決型学習）を取り入れ、学生自らが課題を設定し、プレゼンテーションやディスカッションを通して理解を深める。 ICTを活用して資料共有やレポート提出を行い、オープンな教育リソースも教材として活用する。課題には口頭およびコメントによるフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 必要に応じて適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度等（10%）、中間発表（20%）、筆記・レポート（50%）、プレゼンテーション（20%）、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 提出物は期限までに提出すること。事前事後の学修をしっかりと行い、授業内で積極的な参画をすること。フィールドワークに要する交通費や参加費は自己負担となる。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 幼稚園・保育所でのクラス担任や中間管理職の経験を活かし、保育方法や技術及び子ども理解、チームで保育を実践することについて具体的な事例を用いながら教授する。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：小川弥輪 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な専門的知識・技術、幅広く深い教養、総合的判断力および倫理観を発展的に修得する。 2. 自らの体験や収集した情報を基に保育に関する課題を多角的に分析し、課題への対応として求められる内容を多様な視点から考察する力を高める。 3. 自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的資質・能力を深化させるとともに、保育・教育現場の現状と課題を踏まえて研究テーマを設定し、主体的に研究を遂行し、その成果をまとめる力を身につける。			
【授業の概要】 子どもの音楽的な表現力や豊かな創造性を育むためには、保育者自身が「表現者」となり様々な音楽表現を経験することが大切である。保育者として必要な豊かな感性と表現力を身につけ、子どもにとって楽しい音楽活動を展開できるような力を養う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：教員による話題提供「『表現者』としての保育者とは」 第3回：子どもと音楽表現 研究活動① 第4回：子どもと音楽表現 研究活動② 第5回：子どもと音楽表現 研究発表 第6回：アンサンブルを楽しむ 研究活動① 第7回：アンサンブルを楽しむ 研究活動② 第8回：アンサンブルを楽しむ 研究活動③ 第9回：アンサンブルを楽しむ 研究発表 第10回：学内コンサート企画・制作 第11回：学内コンサート練習① 第12回：学内コンサート練習② 第13回：学内コンサート練習③		【授業時間外の学習】 (授業前後合わせて1時間程度の自主学習を要する) ・教材研究、演奏練習 ・研究発表の振り返り ・教材研究、演奏練習 ・研究発表の振り返り ・コンサートに向けての企画 ・コンサートに向けての練習 ・発表の振り返り ・まとめと自己課題発見	

第14回：学内コンサート発表	
第15回：まとめと今後への課題発見	
定期試験：なし	
【授業の方法】	
教員から話題提供を行い、授業を展開していく。そして、学生を中心としたディスカッションにより、テーマを設定し研究を進める。研究活動や発表の中でそれぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】	
必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】	
授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】	
授業参画度・音楽活動に対する練習と発表に取り組む姿勢(40%)、レポート(20%)、発表(40%)、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】	
音楽活動に対し興味・関心を持ち、各自目標を設定し授業に取り組む。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：片口桂 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な専門的知識・技術、幅広く深い教養、総合的判断力および倫理観を発展的に修得する。 2. 自らの体験や収集した情報を基に保育に関する課題を多角的に分析し、課題への対応として求められる内容を多様な視点から考察する力を高める。 3. 自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的資質・能力を深化させるとともに、保育・教育現場の現状と課題を踏まえて研究テーマを設定し、主体的に研究を遂行し、その成果をまとめる力を身につける。			
【授業の概要】 子どもにとっての児童文化は、乳幼児教育で用いられる玩具・絵本・紙芝居・手あそび等があり、それらは保育者が子どもへ提供し、その感性を豊かに育むものである。本講座では、保育者として実際に子どもの前で実践できる児童文化財（保育教材）を企画・製作・発表しあい、子どもの前で実演できるように体系的に学んでいく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション：子どもの「活動・遊び」の概念を学ぶ 第2回：「活動・遊び」と児童文化についての理解と確認を行う 第3回：児童文化の歴史の変遷について学ぶ 第4回：乳児を対象とした児童文化財（教材）の計画と製作 第5回：乳児を対象とした児童文化財（教材）の計画と製作 第6回：各自の製作した教材の実践発表と鑑賞を行う 第7回：自身の製作した教材の省察と乳児期の児童文化の在り方をまとめる 第8回：幼児を対象とした児童文化財（教材）の計画と製作 第9回：幼児を対象とした児童文化財（教材）の計画と製作 第10回：各自の製作した教材の実践発表と鑑賞をする		【授業時間外の学習】 1. 2. 「児童文化」と子どもの「活動・遊び」の関わりを調べる（60分） 3. 児童文化の歴史を調査（60分） 4. 5. 乳児期の発達・成長と教材研究について（60分）製作準備（30分） 6. 発表準備（60分） 7. 調査・まとめ（60分） 8. 9. 幼児期の発達・成長と教材研究について（60分）製作準備（30分） 10. 発表準備（60分） 11. 調査・まとめ（60分） 12. 発表準備（60分）	

<p>第11回：自身の製作した教材の省察と幼児期の児童文化財の在り方をまとめる</p> <p>第12回：伝統的な日本の児童文化の理解を深める</p> <p>第13回：伝統的な日本の児童文化について学び合う</p> <p>第14回：児童文化について 教材製作研究をグループでまとめる</p> <p>第15回：児童文化の理解と製作研究のまとめを発表・総括</p> <p>定期試験：なし</p>	<p>13. 14. 調査・まとめ(60分)</p> <p>15. 保育者として、児童文化の今後の実践の取り組みと子どもの「活動・遊び」への展開についてまとめる(90分)</p>
<p>【授業の方法】 授業後に行う振り返りや教員からのフィードバックを行い、保育者に必要とされる児童文化に関して理解し、子どもの発達や成長に即した保育実践力を育む。</p>	
<p>【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）、その他、授業で適宜紹介。</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度・ルーブリック評価（40%）、研究課題作成（30%）、発表（30%）。</p>	
<p>【履修上の注意】 事前学習、準備はその都度指示。手作りの教材研究から児童文化財への造詣を深め、教材の製作と実演をおこなう。製作に必要な画材・手芸セット等は必要に応じて持参。授業への取り組みは、子どもの「活動・遊び」への展開の中に教材が介在することを意識し、児童文化財としての玩具・絵本・手あそび等の意味とあり方を探求していく。授業内では、コミュニケーションを取り、活発に発言、疑問があれば適宜教員に質問し、次回に持ちこさないようにすること。</p>	
<p>実務経験の有無：有り</p>	<p>実務経験：保育所、児童発達支援事業所</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 保育所、児童発達支援事業所での保育の経験を活かし、学生自身が主体的に活動を展開し、保育現場において即戦力となるよう授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な専門的知識・技術、幅広く深い教養、総合的判断力および倫理観を発展的に修得する。 2. 自らの体験や収集した情報を基に保育に関する課題を多角的に分析し、課題への対応として求められる内容を多様な視点から考察する力を高める。 3. 自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的資質・能力を深化させるとともに、保育・教育現場の現状と課題を踏まえて研究テーマを設定し、主体的に研究を遂行し、その成果をまとめる力を身につける。			
【授業の概要】 本授業では、ゼミナールⅠで培った経験を更に深化させ、実践的なテーマについて各自調査・考察をする。保育者として職務の具体的内容や職業意識・保育倫理を理解し、知識・技術・実践力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション ゼミナールⅡの運営について 第2回：子どもとの関わりを通して、援助の実際や身体的発達の理解を深める 第3回：話題提供① 各自テーマについて考察 ゼミナールⅠで培った経験を更に深化させ、実践的なテーマについて考察。各自テーマについて調査・研究 第4回：各自テーマについて調査・研究 第5回：研究発表・意見交換 第6回：話題提供② 行事の計画についての考察 第7回：各自テーマについて調査・研究・制作 第8回：各自テーマについて調査・研究・制作 第9回：研究発表・意見交換 第10回：話題提供③ 他のゼミとの交流		【授業時間外の学習】 ・毎回の授業において、単位制度の意味を理解して、事前学習と事後学習を行うこと（毎回90分程度）。 ・研究活動の多くは、授業時間外の学習や活動である。そのため日頃から研究し、計画的に取り組むこと（予習、復習に1時間程度の時間）。 ・保育者になった時のことを意識しながら、教材研究を行い、アイデアを集めておく。 ・保育者としての準備や制作などを進める。	

<p>第11回：各自テーマについて考察と交流</p> <p>第12回：各自テーマについて調査・研究・制作・発表準備</p> <p>第13回：授業内発表会の制作と発表準備・打ち合わせ</p> <p>第14回：授業内発表会</p> <p>第15回：まとめと今後の課題の明確化</p> <p>定期試験：なし</p>	<p>・授業内でロールプレイや成果の発表を行うため、発表においてはゼミナール内等で、模擬演習をしておく（1時間程度）。</p>
<p>【授業の方法】</p> <p>保育者として必要な専門知識や技術を確かなものにするためのテーマについて、多面的な視点から考え、グループ討論や成果発表等を交え、研究活動を進める。教員からの話題提供やフィールドワークをもとに調査・研究を行い、実践力を高める。研究過程において改善点を伝え、成果発表後に実践力向上に繋がるフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>必要に応じ適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>各自必要な本や資料、材料について案内する。</p>	
<p>【学生に対する評価】</p> <p>ルーブリック評価・研究に取り組む参画度（30%）、制作物（30%）、成果発表（40%）を総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <p>研究に必要な事前の予習・準備を行い臨むこと。保育現場を意識し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p> <p>保育者としての経験を活かし、保育現場に必要な知識や技術の修得ができるような内容の授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：瀬戸奏 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な専門的知識・技術、幅広く深い教養、総合的判断力および倫理観を発展的に修得する。 2. 自らの体験や収集した情報を基に保育に関する課題を多角的に分析し、課題への対応として求められる内容を多様な視点から考察する力を高める。 3. 自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的資質・能力を深化させるとともに、保育・教育現場の現状と課題を踏まえて研究テーマを設定し、主体的に研究を遂行し、その成果をまとめる力を身につける。			
【授業の概要】 保育者自身が感性を磨き、豊かな表現力へとつなげる。音・音楽が子どもに与える効果を理解した上で、総合芸術として協働による表現活動に取り組み発表をすることで、表現力・創造力・コミュニケーション力を養う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供「豊かな表現力を育む音楽活動」 第3回：歌唱活動① 第4回：歌唱活動② 第5回：楽器アンサンブル① 第6回：楽器アンサンブル② 第7回：「豊かな表現力を育む音楽活動」まとめ 第8回：話題提供「総合芸術を通じた表現活動」 第9回：題材設定 第10回：発表形式の検討 第11回：ICTの活用 第12回：準備・練習① 第13回：準備・練習②		【授業時間外の学習】 (授業前後合わせて1時間程度の自主学習を要する) ・曲の音取り、歌唱練習 ・曲の音取り、アンサンブル練習 ・文献調査を通じた題材探し ・発表に向けたスケジュールリングを組む ・発表準備、練習	

第14回：発表 第15回：「総合芸術を通じた表現活動」まとめ 定期試験：なし	・音楽表現についてまとめる
【授業の方法】 教員から話題提供を行い展開していく。そして、学生が中心のディスカッションを通してテーマを設定、発表を行う。発表後に自己評価表を提出、教員からのコメントを入れてフィードバックする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業への参画度・演奏に対しての練習と発表に取り組む姿勢（50%）、課題プリント（20%）、発表（30%）。 ※ループリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。	
【履修上の注意】 音楽活動に対し興味・関心を持ち、各自目標を設定し授業に取り組む。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：高橋努 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者として必要な専門的知識・技術、幅広く深い教養、総合的判断力および倫理観を発展的に修得する。 2. 自らの体験や収集した情報を基に保育に関する課題を多角的に分析し、課題への対応として求められる内容を多様な視点から考察する力を高める。 3. 自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的資質・能力を深化させるとともに、保育・教育現場の現状と課題を踏まえて研究テーマを設定し、主体的に研究を遂行し、その成果をまとめる力を身につける。 			
【授業の概要】			
ゼミナールⅠや保育実習等を通じた自らの体験・経験をもとに、保育者として必要な専門的知識、技術、教養、判断力、倫理観等を習得する。保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：学習の進め方について、体験授業について		授業前後に、あわせて1時間程度の自己学習を要する。	
第2回：体験授業（現場実践①）の企画立案（1）		1. 児童虐待防止に関する情報を集める。（2時間）	
第3回：体験授業（現場実践①）の企画立案（2）		2. 児童虐待やオレンジリボン運動の情報を集め、その対応方法等について理解を深める。（2時間）	
第4回：体験授業（現場実践①）のリハーサル		3. 文献資料等を参考に、児童虐待防止の歴史的背景やオレンジリボン運動・子ども食堂等についても学習をする。（2時間）	
第5回：体験授業（現場実践②）の企画立案（1）		すべてにおいて調べ学習が必須であり、図書館などを活用し率先して学習すること。	
第6回：体験授業（現場実践②）の企画立案（2）		4. 企画した内容をリハーサ	
第7回：体験授業（現場実践②）のリハーサル			
第8回：現場実践①（ごか子育て応援フェスタ参加）（1）			
第9回：現場実践①（ごか子育て応援フェスタ参加）（2）			
第10回：現場実践①（ごか子育て応援フェスタ参加）（2）			
第11回：現場実践②（羽生市ボランティアまつり参加）（1）			
第12回：現場実践②（羽生市ボランティアまつり参加）（2）			
第13回：現場実践②（羽生市ボランティアまつり参加）（3）			

第14回：まとめ（レポート作成） 第15回：まとめ（レポート発表） 定期試験：なし	ルすることで本番に備える （4時間）
【授業の方法】 演習形式で行う。調べ学習を中心に、調査した資料等のディベート等を行う。調査・研究を進める中でそれぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 授業内で必要な書籍を紹介していく。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜プリント等配布する（過去のオレンジリボン活動等の報告書や子ども食堂に関する資料等）。	
【学生に対する評価】 調査・研究活動結果のプレゼンテーション（50%）、レポート課題（50%）。 ＊評価には、ルーブリック評価を活用する。	
【履修上の注意】 ・調査・研究が中心となる。図書館やインターネット等の活用と必要な資料の取捨選択ができるようになることを目標とする。 ・学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。 ・体験授業への参加が必須となる。 （昨年実績：ごか子育て応援フェスタ、羽生市ボランティアまつりなどに参加。子どもや保護者との関わりを体験）	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設等と連携した実践に近い授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：眞柄絵里 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な専門的知識・技術、幅広く深い教養、総合的判断力および倫理観を発展的に修得する。 2. 自らの体験や収集した情報を基に保育に関する課題を多角的に分析し、課題への対応として求められる内容を多様な視点から考察する力を高める。 3. 自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的資質・能力を深化させるとともに、保育・教育現場の現状と課題を踏まえて研究テーマを設定し、主体的に研究を遂行し、その成果をまとめる力を身につける。			
【授業の概要】 前期での子どもの音楽的表現の学びを基に、各自の研究テーマの探究をより深めていく。その中で、自らの保育観を持ち、協働する保育の場において表現する大切さも学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供①遊びという実体験の重要性 第3回：調査・研究・実践活動① 第4回：調査・研究・実践活動② 第5回：調査・研究・実践活動③ 第6回：調査・研究・実践活動④ 第7回：研究成果の中間発表 第8回：話題提供③子どもが主体的に物事と関わることについて 第9回：調査・研究・実践活動⑤ 第10回：調査・研究・実践活動⑥ 第11回：調査・研究・実践活動⑦ 第12回：発表準備① 第13回：発表準備② 第14回：研究発表とディスカッション		【授業時間外の学習】 授業前後に、あわせて1時間程度の予習・復習含めた自己学習を要する。 ・各自の研究テーマについて図書館、インターネットなどを利用しながら情報収集をする。 ・子どもの音楽的表現について考察し、自らの考えを持つ。 ・自分の考えを伝える工夫をすること。(視覚的理解、言葉の選び方、ストーリー性など) ・研究発表の計画、準備。	

第15回：全体のまとめ	
定期試験：なし	
【授業の方法】 これまでの学びや実習の経験等を基に各自テーマを設定した上で調査・研究を進める。グループワーク、プレゼンテーション等それぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度等（40%）、レポート・制作（30%）、研究発表（30%）、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 毎週の課題にしっかりと取り組み、次回のゼミ内で発表できるよう、事前の準備、事後のまとめを確実に行うこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭・元保育士
【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園および公立保育園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、具体的な子どもの姿や保育者の関わりなどをわかりやすく伝え、実践に活かせる保育技術を身につけられるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：山田耕平 担当形態：クラス分け
科目/系列	/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 保育者として必要な専門的知識・技術、幅広く深い教養、総合的判断力および倫理観を発展的に修得する。 2. 自らの体験や収集した情報を基に保育に関する課題を多角的に分析し、課題への対応として求められる内容を多様な視点から考察する力を高める。 3. 自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的資質・能力を深化させるとともに、保育・教育現場の現状と課題を踏まえて研究テーマを設定し、主体的に研究を遂行し、その成果をまとめる力を身につける。			
【授業の概要】			
ゼミナールⅠでの学びをベースに、学生が各自で研究テーマやリサーチクエスチョンを設定する。研究発表に向けてデータを収集・分析し、論理的な発表を行う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供① 幼児期の問題や課題の現状 第3回：話題提供② 子ども・保護者への教育相談の実際 第4回：各自の研究テーマ設定・資料収集① 第5回：各自の研究テーマ設定・資料収集② 第6回：研究テーマ発表 第7回：調査・研究 第8回：調査・研究 第9回：調査・研究 第10回：研究中間発表 第11回：調査・研究 第12回：調査・研究 第13回：発表準備 第14回：発表準備		研究活動は、授業時間外の調査研究が大半を占めるので、課題意識を持って、日頃から研究に取り組む姿勢を大切に (授業毎に2時間程度) 受講にあたっては、自分の意見を言葉にして表現する技能が求められる。自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。 保育・教育現場への見学やボランティア参加などにより、困っている幼児・保護者の実	

<p>第15回：研究発表・全体のまとめ</p> <p>定期試験：なし</p>	<p>態についての理解を深めておくことが望ましい。</p>
<p>【授業の方法】</p> <p>演習、発表、文献研究、ディスカッション。 授業感想や質問に対しては随時フィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>なし</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>授業において適宜プリント資料を配布する。</p>	
<p>【学生に対する評価】</p> <p>授業参画度（40%）、授業内課題・研究発表（30%）、研究発表（30%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <p>課題意識を持って、自分から積極的に調査研究を行うこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：臨床心理士・公認心理師 精神科クリニック、生活困窮者支援 等</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p> <p>切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、実践的な知識を含む授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：教育相談と幼児理解 英語表記：Educational counseling and understanding of early children ナンバリング：2401		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：山田耕平 担当形態：単独
科目/系列	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法、幼児理解の理論及び方法/		
【授業の到達目標及びテーマ】 <テーマ> 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものであり、幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。そして、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。 <到達目標> 1. 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解できる。 2. 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解できる。 3. 学校における教育相談の意義と課題を理解できる。 4. 幼児の不応答や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解できる。			
【授業の概要】 幼稚園等における教育相談についての理論や実践的な体系について学び、子どもの発達や幼児期から思春期までの発達を見通した視点からの教育相談を進められるよう、幼児期の問題や課題などの事例を交えながら学んでいく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：保育者の行う教育相談の考え方 第2回：学校教育相談実践の歴史的変遷 第3回：相談実践の整理とその意義 第4回：隣接する学問や実践現場から学ぶ 第5回：日本における学校教育相談の実践整理 第6回：教育相談の進め方(1) 教育相談実践の捉え方 第7回：教育相談の進め方(2) 観察方法 第8回：教育相談の進め方(3) 面接への視点		【授業時間外の学習】 (予習・復習：1時間程度) ・図書館などを活用して、授業準備や調べ学習を行うこと。 ・教育相談に関する歴史的背景や変遷、カウンセリングに関する書籍等を読んでおく。	

<p>第9回：幼児理解のために（1）子どもの発達 第10回：幼児理解のために（2）幼児期の問題・課題 第11回：実践例（1）保護者との信頼関係 第12回：実践例（2）保護者の養育力の向上 第13回：実践例（3）幼小連携の観点から考える 第14回：実践例（4）外部専門機関との連携 第15回：まとめと授業内試験 定期試験：なし</p>	<p>・事前・事後学習で学んだことを必ずまとめておく。 ・授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。</p>
<p>【授業の方法】 講義とグループワークを中心に授業をすすめる。小レポートをもとに討議し、講評する。</p>	
<p>【テキスト】 『教育相談とカウンセリングー子どもの発達理解を基盤としてー』金子智栄子（編著）樹村房</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度（45%）、授業内試験（55%）。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。また、第1回オリエンテーション時に評価方法について説明を行う。</p>	
<p>【履修上の注意】 子どもの発達や成長を理解できるよう様々な文献等を活用し、事前・事後学習を行うこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：臨床心理士・公認心理師 精神科クリニック、生活困窮者支援 等</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、実践的な知識を含む授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育・教職実践演習（幼稚園） 英語表記：Exercise for Childcare and Education (Kindergarten)		単位数：2単位 （半期）演習	担当教員名：浅野瞳、片口桂、加藤房江、高橋努、布施由起、眞柄絵里、山田耕平 担当形態：オムニバス
ナンバリング：2501			
科目/系列	教育実践に関する科目/総合演習		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	教職実践演習/保育実践演習		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもに対する使命感・責任感・倫理観・教育的愛情を持って保育者としての意識や姿勢等について、これまでの学びを振り返り、自分の課題に気づくことができる。 2. 保育・教育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題について現状を分析し、課題への対応として保育者、保育・教育の現場、地域、社会に求められていることは何か、多様な視点から考察する力を習得することができる。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力が向上する。			
【授業の概要】 これまでの保育者としての学びを振り返る。また、保育者の意義や役割、職務内容の理解を確認し、これまで習得してきた知識や技能の総仕上げとして、自身の課題設定を行い、演習やロールプレイ等を通して、保育者としての実践力を向上させる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：イントロダクション～これまでの学修の振り返りについて 第2回：保育・教職の意義や保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等についてのグループ討論・ロールプレイ 第3回：保育内容と保育方法の研究① これまでの実習の振り返りと課題設定 第4回：保育内容と保育方法の研究② これまでの実習の振り返りと課題設定の発表 第5回：子ども理解の方法と実践① 第6回：子ども理解の方法と実践② 模擬保育 第7回：園の安全管理 第8回：共同的な学びと育ちへ（外部講師） 第9回：幼稚園・保育所等から小学校への接続		【授業時間外の学習】 （毎回 60分程度） 保育現場で即戦力として子どもの前に立てるよう実践的な態度と技術を身につけるため、毎回の授業では、事前学習と事後学習を行うこと。 毎回の授業の振り返りと次回に向けての事前準備は重要である。学生同士の意見交換なくしては、この授業は成立しないので準備は怠りなく。	

<p>第10回：特別な配慮を必要とする子どもの理解と対応① 第11回：特別な配慮を必要とする子どもの理解と対応② 第12回：保護者及び地域との関係作り 第13回：保育者の専門性① 第14回：保育者の専門性② 第15回：自分の保育者像を目指して（授業のまとめ） 定期試験：なし</p>	<p>課題は担当者からも指示するが、自らが課題を見つけて、課題解決に向かって学習することが重要である。</p>
<p>【授業の方法】 本授業では、保育者として求められる実践的な判断力・協働力を育成するため、共同学習を積極的に取り入れた演習形式で進める。学生一人ひとりの主体的な学びを促すため、アクティブラーニングの手法を用い、実際の保育現場を想定した課題への取り組みやグループでの検討・発表を行う。 また、毎回の授業終了時に学習内容を振り返るリフレクションの時間を設け、到達度や理解度に応じて適切にフィードバックを行い、次回の学びに繋がられるよう支援する。</p>	
<p>【テキスト】 「改訂版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み」わかば社</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 必要に応じて、プリント・資料を配布する。 『保育所保育指針』（最新版）、『幼稚園教育要領』（最新版）、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）</p>	
<p>【学生に対する評価】 グループ活動への参加状況（50%）、提出物（25%）、レポート（25%）をルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修カルテを作成しておくこと。 ・保育者を志す学生であることを常に意識し、主体的に授業に参加すること。 ・受講にあたっては事前事後学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと。 	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育実習Ⅰ（保育所） 英語表記：PracticeⅠ（Childcare） ナンバリング：2701		単位数：2単位 (10日間)実習	担当教員名：加藤房江、 眞柄絵里 担当形態：複数
科目/系列	／保育実習		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	／保育実習Ⅰ		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育所等の役割や機能を具体的に理解し、子どもの観察や関わりを通して、子どもへの理解を深めることができる。 2. 既習の学習内容を踏まえ子どもの保育・保護者の支援について総合的に理解できる。 3. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に学び、保育士の業務内容や職業倫理について理解できる。			
【授業の概要】 本授業は、実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に保育所実習に臨むための授業である。授業で学んだことを基礎として具体的に保育所の社会的役割をはじめ、保育者の役割、子どもの実態などについて理解し、保育実践を行うことが重要である。子どもの保育や保護者の支援、保育の計画・観察・記録等について実践的に理解を深める。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 保育所実習（前半） 実習は2年次の7月に協力保育所にて10日間行う。 前半実習においては、観察型実習及び参加型実習を中心に行う。 観察型実習 保育実践の現場や保育の様子を観察することにより、保育所の保育方針や一日の流れなどを知る。また、保育者と子どもとの関わりを通して保育者の社会的役割や子どもとの接し方を学ぶ。 参加型実習 保育士の補助として、保育の一部に参加したり、担当したりすることで、子どもの生活と保育士の援助や関わり、保育の展開を理解する。子どもの発達過程を理解し、援助や関わりを学ぶ。 全体的な計画に基づく指導計画の理解、記録の省察・自己評価を行い、保育方針や保育計画に基づく日々の保育活動との関連を理解する。 専門職としての保育士の業務内容、職員間の役割や連携、保育士の役割と職業倫理を具体的に学ぶ。		【授業時間外の学習】 (各1～2時間程度) ・事前に実習先の保育所に関する情報を集める。 ・実習先の保育所について、保育方針等の理解を深める。 ・発達に合わせた保育技術を高めて、実践できるように十分準備をしておく。 ・実習を行なったクラスの子どもの発達の様子や健康管理、安全対策、食育の取り組み等、指針や教科書をみて理解を深めておく。	

【授業の方法】 協力保育所にての実習。実習先からの評価を基に個別面談を行いフィードバックする。	
【テキスト】 『実習の手引き』埼玉純真短期大学	
【参考書・参考資料等】 実習先にて配布されるしおりや実習の心得、楽譜等。 『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） 『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版） 『見る・考える・創りだす「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林	
【学生に対する評価】 実習園からの評価(60%)、実習日誌・事前事後指導の取り組み(40%)から総合的に評価	
【履修上の注意】 ・「 <u>保育実習指導Ⅰ</u> 」を必ず履修すること。 ・実習後、速やかに実習日誌の記入を丁寧に行い、次の日の朝には、実習園に日誌を提出すること。 ・保育士の役割を理解し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：加藤：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士 眞柄：元幼稚園教諭、元保育士
【実務経験を生かした教育内容】 保育者としての経験を活かし、実習園からの相談等がある場合は速やかに対応する。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育実習指導Ⅰ（保育所） 英語表記：Guidance for Practice I (Childcare)		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江、 眞柄絵里 担当形態：クラス分け
ナンバリング：2702			
科目/系列	／保育実習		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	／保育実習指導Ⅰ		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育実習の意義・目的を理解し、実習内容と実習の課題を明確にできる。 2. 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解できる。 3. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について理解し、実習の総括や自己評価を通し、今後の学習に向けた課題や目標を明確にできる。			
【授業の概要】 具体的な保育所の社会的役割をはじめ、保育者の役割、子どもの実態などについて理解し、実践的な力を身につける。また、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を理解し実習の総括や自己評価を通し、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 保育実習の意義・目的、 作業スケジュールの理解P29 第2回：子どもの人権と最善の利益と保育士の使命と役割 実習生調書作成1 第3回：プライバシーの保護と守秘義務 部分実習指導計画について、グループワーク決め 第4回：実習の内容と部分実習指導計画1 グループワーク1・ディスカッション 第5回：実習先へのオリエンテーションと実習生調書作成2 第6回：模擬保育と部分実習指導計画2 グループワーク2・ディスカッション 第7回：実習関係の書類と実習日誌の記録1 第8回：実習の課題（配属クラスパターンによる課題設定）、 実習日誌の記録2、エピソード記録の書き方 第9回：実習生としての心構え、実習日誌の記録3 第10回：実習の計画・実践・観察・記録・評価		【授業時間外の学習】 ・実習関係の書類を揃え、実習先に関する情報を収集し整理する（毎回1～2時間程度）。 ・保育所保育指針を熟読し、ねらいの意味を理解する。 ・保育技術の向上と教材研究と考察。 ・指導案を作成する。 ・日誌の記述方法を学ぶ。 ・季節の歌や場面に応じた曲のピアノレッスンを常に行う。 ・メディア等における保育関連記事に興味を持って、読み込む。	

<p>部分実習指導計画 3</p> <p>第1 1回：お礼状の書き方、責任実習指導計画について</p> <p>第1 2回：実習における計画と実践1、実習日誌の記録4</p> <p>第1 3回：実習の総括、実習における観察、記録及び評価1</p> <p>第1 4回：実習評価の確認、保育実習Ⅱの評価票の確認と 実習課題</p> <p>第1 5回：事後指導における実習の総括と課題の明確化</p> <p>定期試験：なし</p>	
<p>【授業の方法】</p> <p>テキストや参考資料を活用し、講義形式で行う。必要に応じて課題作成を行う。調書や指導計画等の提出物にチェックをし、返却してフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習の手引き』 埼玉純真短期大学</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>実習日誌、 適宜プリントを配布</p> <p>『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版）</p> <p>『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版）</p> <p>『マンガでわかる保育所保育指針』 浅井拓久也 著 中央法規。</p>	
<p>【学生に対する評価】</p> <p>ルーブリック評価・授業参画度(50%)、制作物・レポートや課題の内容（50%）。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <p>保育実習Ⅰ（保育所）を必ず履修すること。課題の提出等は、必ず期限を守ること。</p> <p>本科目は、保育所実習のための授業であり、原則欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず欠席届を提出する。後日欠席した授業のレポートも提出すること。実習を通して何を学ぶのかを常に念頭におき積極的態で学習に臨むこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験： 加藤：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士 眞柄：元幼稚園教諭、元保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p> <p>保育者としての現場経験を活かして、実習に必要な準備や実習生としての学ぶ態度、保育の実際について実践に活かせる保育技術を身につけられるよう授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：保育実習Ⅱ 英語表記：Practice ChildcareⅡ ナンバリング：2705		単位数：2単位 (10日間)実習	担当教員名：加藤房江、 眞柄絵里 担当形態：複数
科目/系列	／保育実習		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	／保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育所の役割や機能、保育の理解や認識、具体的な実践を通して学び、子どもの観察や関わり方の視点を明確にして、理解を深めることができる。 2. 授業や実習を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援、保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解することができる。 3. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深めるとともに、実習における自己の課題を明確化できる。			
【授業の概要】 「保育実習Ⅰ（保育所）」で学んだ知識や技術を更に深め、保育実践力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 保育実習Ⅱ 実習は2年次の9月に協力保育所にて10日間行う。 後半実習においては、参加型実習及び指導型実習を中心に行う。 参加型実習 保育士の補助として、保育の一部に参加したり、担当したりすることで、子どもの生活と保育士の援助や関わり、保育の展開の理解を深める。子どもの発達過程を理解し、援助や関わりを理解する。保育方針や全体的な計画に基づく指導計画と日々の保育活動との関連を理解する。環境を通して行う保育・生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。登園・降園時における保護者との関わりを経験し、子育て支援について学ぶ。 指導型実習 配属されたクラスの全体的な計画に基づく指導計画を立案し、指導者として保育を担当する。準備・実践・省察・評価の全過程を経験し、指導者としての職務を体感・理解する。保護者に対する子育て支援や地域社会等の連携を理解し、自己の課題を明確化する。		【授業時間外の学習】 発達に合わせた保育技術を高めて、実践できるように十分準備をしておく（実習までの期間毎日2～3時間程度の時間が必要） ・目的意識・実習の課題を踏まえ、実習日誌の記入を丁寧に行い、翌日提出し指導を受ける。 ・実習担当の先生の指導を仰ぎながら、実習準備を行う。 ・年齢に合わせた、指導案の作成を行う。	

<p>【授業の方法】 協力保育所にての実習。実習先からの評価を基に個別面談を行いフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】 『実習の手引き』 埼玉純真短期大学</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 実習先にて配布されるしおりや実習の心得、楽譜等。 <ul style="list-style-type: none"> ・『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） ・『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版） ・『見る・考える・創りだす「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ほか 萌文書林 </p>	
<p>【学生に対する評価】 実習園からの評価(70%)、実習日誌・事前事後指導の取り組み(30%)から総合的に評価</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>保育実習指導Ⅱ</u>」を必ず履修すること。 ・実習後、速やかに実習日誌の記入を丁寧に行い、次の日の朝には、実習園に日誌を提出すること。 ・保育士の役割を理解し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。 	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験： 加藤:元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士 眞柄:元幼稚園教諭、元保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 保育者としての経験を活かし、実習園からの相談等がある場合は速やかに対応を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：保育実習指導Ⅱ 英語表記：Guidance for PracticeⅡ (Childcare) ナンバリング：2706		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江、 眞柄絵里 担当形態：クラス分け
科目/系列	/保育実習		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/保育実習指導Ⅱまたは保育実習指導Ⅲ		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育について総合的に学び、講義で学んだ内容や「保育実習Ⅰ(保育所)」の経験や既習の教科を踏まえ、保育の実践的な力や保育士の専門性、職業倫理について理解できる。 2. 保育の観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できる。 3. 事後指導や自己評価・伝え合いを通して、保育に対する課題を明確にすることができる			
【授業の概要】 本授業は保育について理解を深め、保育の実践的な力や保育士の専門性、職業倫理について遵守すべき内容について自覚し、子どもへの深い愛情と使命感を持って、将来の保育者としての活動に役立つよう確かな知識・技能・保育技術の修得を深める。実習後は、自己の課題を明確化し、得られた知識や技術をまとめて発表することで、保育の現場に必要な力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション、実習の自己評価、 課題について（実習振り返りレポート・手作りシアター） 第2回：実習評価の確認、実習振り返り課題作成1 第3回：実習評価の確認、実習振り返り課題作成2 第4回：実習評価の確認、実習振り返り課題作成3 第5回：実習評価の確認、実習振り返り課題作成4 第6回：子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解、 伝え合いに向けたPPの作成と園だよりについて 第7回：伝え合いに向けたPPの作成と園だより作成1 第8回：伝え合いに向けたPPの作成と園だより作成2 第9回：子どもの状態に応じた適切な関わり、 伝え合いに向けたPPの作成3 第10回：保育の知識・技術を活かした保育実践と		【授業時間外の学習】 (各1～2時間程度) ・お礼状の作成を行う。 ・自己評価や課題の明確化を認識し、発表準備を行う。 ・子どもの前で演じるものの制作を通して、教材研究を行う。 ・就職先を意識した「月のおたより」の作成を行う。 ・就職先を意識した月案作成を行う。 ・保育者としての実践力を高めるための知識や技術を深める。 ・自己評価や課題をまとめ成果と技術の獲得を発表する。	

<p>伝え合いについて</p> <p>第1 1回：1年生に向けて実習伝え合いの実施</p> <p>第1 2回：実習の総括と自己評価における自己課題の明確化</p> <p>第1 3回：保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善</p> <p>第1 4回：保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践、 指導要録の記載方法と作成</p> <p>第1 5回：保育士の専門性と職業倫理と 子どもの保育と保護者支援保護者支援</p> <p>定期試験：なし</p>	
<p>【授業の方法】</p> <p>演習。各自の主體的な授業参加が求められる。ディスカッション等を取り入れ、学びを深化させる。提出物にチェックをし、返却してフィードバックする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習の手引き』 埼玉純真短期大学</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>実習日誌、 適宜プリントを配布</p> <p>『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版）</p> <p>『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版）</p> <p>『マンガでわかる保育所保育指針』 浅井拓久也 著 中央法規。</p>	
<p>【学生に対する評価】</p> <p>ルーブリック評価・授業参画度(50%)、制作物・レポートや課題の内容（50%）。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <p><u>保育実習Ⅱ（保育所）も必ず履修すること。課題の提出等は、必ず期限を守ること。</u></p> <p>本科目は、保育所実習のための授業であり、原則欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず欠席届を提出する。後日欠席した授業のレポートも提出すること。保育実習Ⅰをを通して学んだことを常に念頭におき、積極的態で学習に臨むこと。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験： 加藤：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士 眞柄：元幼稚園教諭、元保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p> <p>保育者としての経験を活かし、学生が実習で学んだことを基に保育者としての基礎的技術を身につけ、自身の保育の評価を踏まえた課題を明確にし、保育の現場で必要な力を身につけられるような授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：保育実習Ⅲ 英語表記：PracticeⅢ(Nursing School)		単位数：2単位 (10日間)実習	担当教員名：高橋努
ナンバリング：2707			担当形態：単独
科目／系列	／保育実習		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 「保育実習Ⅰ（施設）」で学んだことを実践できる。 2. 児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設における社会的養育の実情を理解できる。 3. 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、実践できる。			
【授業の概要】 既に学んだ教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能、業務内容、職業倫理について理解する。地域と家庭との連携、保護者や家庭支援のための知識、技術、判断力を習得し、実習における自己の課題を理解し今後につなげていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 2年次の9月以降、施設との調整のうえで10日間（休日を含む）の実習を行う。 【実習課題（実習計画）】 「保育実習Ⅰ」において、理解できた点、残された課題等を整理して、自らのテーマを選定し、日々の記録をおこない、課題達成に向けて努力すること。そのために、課題は明確であり、かつ、簡潔であることが望ましい。 【参加型実習】 本実習は、「保育実習Ⅰ」において学んだことをもとに、担当者の補助的役割を果たしながら、施設養護や支援の方法について実践的な理解を深める。 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 ・専門分野的な実習になるので、「保育実習指導Ⅲ」で基礎的な知識をしっかりと学習したうえで、実習に臨むこと。 （2時間） ・事前学習は、「利用者理解」と「家族支援」など多岐にわたる。文献検索など事前学習をしっかりと進めること。 （4時間）	

【授業の方法】

児童福祉法にある児童福祉施設（保育所を除く）及び障害者施設等での実習。
フィードバックについては、施設からの評価をもとに、個別面談を実施。

【テキスト】

『施設実習 パーフェクトガイド』 守巧ほか著 わかば社

【参考書・参考資料等】

実習先でのオリエンテーション及び実習において、実習のしおり、実習生の心得等の資料を配布。

【学生に対する評価】（課題の評価については、ルーブリック評価を活用する）

施設実習の評価（50%）、課題（50%）。

【履修上の注意】

- ・年度初めに「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」との希望調査を実施する。その際、「保育実習Ⅲ」を選択した学生が履修することになる。
- ・**「保育実習指導Ⅲ」を必ず履修すること。**
- ・将来、施設保育士等を目指す学生が履修することが望ましい。
- ・児童虐待や発達障害に関する相談支援等について理解を深めたいと思う学生が履修することが望ましい。
- ・副読本として、本学の『実習の手引き』を使用する。

実務経験の有無：有

実務経験：元施設勤務（社会福祉士）

【実務経験を生かした教育内容】

施設での実習生指導の経験を活かし、実習日誌の記入方法や実習目標の考え方などを説明する。実習先の種別に合わせた目標設定ができるよう授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名: 保育実習指導Ⅲ 英語表記: Guidance for PracticeⅢ ナンバリング: 2708		単位数: 1単位 (半期) 演習	担当教員名: 高橋努 担当形態: 単独
科目/系列	/保育実習		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/保育実習指導Ⅱまたは保育実習指導Ⅲ		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 実習にむけて、あいさつや服装など生活全般のマナーなどを身につけ、実践できる。 2. 将来、施設保育士として勤務するために必要な技術と理論を身につけることができる。 3. 支援計画・記録・評価の方法や内容について理解し、具体的に表現できる。			
【授業の概要】			
児童福祉施設等における実習の意義と目的について理解を深め、施設保育・社会的養育について総合的に理解する。既習の実習や教科目の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を習得し、観察、記録および自己評価等から施設保育士の専門性と職業倫理について理解を深める。事後指導では、総括と自己評価を行い、今後の課題を明確にする。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回: オリエンテーション(実習の心得、マナー、実習先の確認等)		「保育実習Ⅲ(施設)」がスムーズに実施できるよう、以下の学習が必要となる。	
第2回: 児童福祉施設について(振返り)(1)		1. 配属先の施設に関する情報を集める(1時間)	
第3回: 児童福祉施設について(振返り)(2)		2. 配属先の利用者や児童についての情報を集め、理解を深める(2時間)	
第4回: 実習目標の考え方と実習生調書の書き方(1)		3. 文献資料等を参考に、児童福祉施設の歴史的背景等についても学習をする。(2時間)	
第5回: 実習目標の考え方と実習生調書の書き方(2)		これら調べ学習が必須であり、図書館などを活用し率先して学習すること。	
第6回: 児童発達支援センター等体験学習(1)			
第7回: 児童発達支援センター等体験学習(2)			
第8回: 児童発達支援センター等体験学習(3)			
第9回: 外部講師による講演(児童福祉施設)			
第10回: 模擬授業(グループワーク実践①チーム)			
第11回: 模擬授業(グループワーク実践②チーム)			
第12回: 模擬授業(グループワーク実践③チーム)			
第13回: 実習の振返り(グループワーク)			
第14回: 実習の振返り(プレゼンテーション資料の作成)			
第15回: 実習の振返り(プレゼンテーション)			
定期試験: なし			

【授業の方法】

講義形式で行う。また、児童発達支援センター等児童福祉施設での体験学習を行う。提出課題に対しコメントをして返却する。

【テキスト】

『施設実習 パーフェクトガイド』 守巧ほか著 わかば社

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜プリント等配布する（施設パンフレット等）。

【学生に対する評価】（課題評価については、ルーブリック評価を活用する。）

授業の中間で行う筆記テスト（50%）、提出課題（50%）。

【履修上の注意】

- ・ 保育実習Ⅲを必ず履修すること。
- ・ 施設実習は学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。

実務経験の有無：有

実務経験：元施設勤務（社会福祉士）

【実務経験を生かした教育内容】

施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設と連携した実践に近い授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：教育実習（幼稚園）Ⅰ		単位数：1単位	担当教員名：片口桂、井上裕美子
英語表記：Teaching Practice (Kindergarten) I		位 (半期) 演習	担当形態：クラス分け
ナンバリング：2709			
科目/系列	教育実践に関する科目/		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	教育実習/		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 事前指導において、教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、教育者としての愛情と使命感を深めることができる。 2. 教育実習後には、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、指導教員のもとで積んだ知識や技能等について理解を深め、実習の意義を考察できる。 3. 自己の能力や適性を考えるとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。			
【授業の概要】			
本授業は幼稚園教育実習における観察・参加・責任実習という方法を含めて教育実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に教育実習に参加するための授業である。基礎的な理論と方法を学び、クラスの補助的な役割や教員として相応しい指導方法を身に付ける。実習後は、得られた知識や経験を振り返り、まとめて発表することで実習の意義を理解しさらに必要な指導方法及び知識や技能についての理解を深める。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 (事前授業)		【授業時間外の学習】	
第1回：幼稚園教育と幼稚園実習の意義についての理解		・実習園の環境や方針（調書作成）	
第2回：園の経営方針及び特色ある教育活動		・実習を受けるにあたって遵守すべきことや責任の確認(オリエンテーション依頼)	
第3回：実習にて遵守すべき事項と責任及び安全について		・保育の観察方法と日誌の記録の取り方	
第4回：幼稚園環境に対して適切な観察と記録の取り方		・教材や教具の活用法・問題発生時の対処法、安全管理、安全教育・季節や行事を踏まえた指導案(巡視用地図作成)	
第5回：学級担任の補助的役割について			
第6回：視聴覚教材などを用いた保育とその方法			
第7回：幼児の発達段階や、園環境を踏まえ、ねらいを持った部分及び責任実習指導案の立案			
第8回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成などを実地に即して身に付ける）			
(事後授業)			
第9回：教育実習で得られた成果と課題の話し合い			

<p>第10回：日誌を見てエピソード記録などを出し合い 第11回：園での実習評価を理解し、幼児教育への意欲を高める。 第12回：園での実習評価を踏まえて更なる課題を模索する。 第13回：実習を総合的に振り返り実習園へ感謝の気持ちを持つ。 第14回：実習の成果と課題を後輩に伝えるようにまとめる。 第15回：実習の成果と課題を後輩に伝え、自らの学びを深める。 定期試験：なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達に即した指導案・保育に必要な技術獲得と発表(1時間) ・ 日誌や指導案を用いて自らの実践振り返る。(1時間) ・ 園の評価を聞くことで、新たな課題を見出す。(お礼の手紙)(1時間) ・ 実習を振り返り、成果と自己課題をまとめる。(1時間) ・ 実習の成果と課題を発表する(1時間)
<p>【授業の方法】 講義および演習。提出された指導案等についてフィードバックを行う。 実習園からの評価をもとに個人面談を実施し、自己課題を明確にする。</p>	
<p>【テキスト】 『実習の手引き』埼玉純真短期大学</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 適宜配布</p>	
<p>【学生に対する評価】 授業参画度(30%)、レポート(30%)、模擬授業及び指導案などの提出物(40%)。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。</p>	
<p>【履修上の注意】 ・ 本授業は幼稚園教育実習に行くための「事前授業」とそれらを振り返る「事後授業」である。 ・ 幼稚園実習（前期・1週間）（後期・3週間）とも事前、事後指導を必ず受けること。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：片口；元保育園園長 井上；元幼稚園教諭・元保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 幼稚園および保育所での現場経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。</p>	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：教育実習（幼稚園）Ⅱ 英語表記：Teaching Practice (Kindergarten) Ⅱ ナンバリング：2710		単位数：4単位 (4週間)実習	担当教員名：片口桂、井上裕美子 担当形態：複数
科目／系列	教育実践に関する科目／		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	教育実習／		
【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 前期幼稚園教育実習（観察実習） ①園の環境及び指導教員と幼児に対して適切な観察を行い、事実即して記録できる。 ②園の経営方針及び特色ある教育活動、それらを実施する組織体制を理解できる。 ③園実務に対する補助的な役割を担い、幼児の実態や課題を把握できる。 (2) 後期幼稚園教育実習（応用実習） ①幼稚園教育要領や幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、保育実践を行うことができる。 ②必要な基礎技術を身に付け幼児の体験との関連を考慮して適切な場面で活用できる。 ③学級担任の役割と職務内容を理解し活動の場面で適切に幼児に関わることができる。			
【授業の概要】 幼稚園での観察・参加・実習を通して教育者としての愛情と使命感を深め、将来幼稚園教員となる上での能力や適性を考え、課題を自覚する。指導教員のもとで幼児と共に生活することで、保育に対する理解を深め、実地に即しての確かな知識と指導方法を体得する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 「前半／観察実習」 (1週間・1年次) 第1回：園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第2回：幼稚園教師の役割・職務や園の1日の流れ、幼児の実態について具体的に理解する。 第3回：事前準備や学習を基に教師に学び、幼児との関わり方、園記録の取り方を習得する。 第4回：園実務に対する補助的な役割を知り、実践する。 第5回：幼児の実態とこれらを踏まえた園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第6回：幼児とのかかわりを通して、自らの課題を把握する。 第7回：部分指導案を立案し、ねらいをもって保育実践をする。 「後半／応用実習」 (3週間・2年次)		【授業時間外の学習】 (1) 幼稚園教育要領を熟読して、ねらいの意味を理解する。(1時間) (2) 実習先の幼稚園に関する情報を集め、日誌に書き入れる。(1時間) (3) 日誌の書き方を基に一日の出来事を指導教員に学びつつ丁寧に書く。(1時間) (4) 幼児の発達年齢を理解	

<p>第8回：園の1日の流れ、保育のねらいを把握し、指導教員の活動のねらいとその指導の意図に気付き記録する。</p> <p>第9回：教室、園庭などの環境設定を教師の意図を理解して自ら行う。</p> <p>第10回：幼児同士の関わりや遊びの発展に目を向け、幼児一人ひとりの特性を理解したうえで援助する。</p> <p>第11回：クラス担任の了承と指導のもとに、事前に責任実習のための教材研究や準備を行う。指導案（細案）を作成し提出する。</p> <p>第12回：指導教員のもとでねらいを持った「部分実習」を行う。</p> <p>第13回：「部分実習」を行い個と集団に対する指導方法を身に付ける。</p> <p>第14回：「責任実習」クラスの指導者的な立場として幼児を指導する。</p> <p>第15回：指導教員のもとで実習を振り返り、課題を見出し改善する。</p>	<p>し、それぞれの特徴を踏まえて実習に臨む。(1時間)</p> <p>(5) 年齢ごとの指導案作成。(1時間)</p> <p>(6) パネルシアター、ペープサート、絵本の読み聞かせ、手遊び等の技術を場面に応じて実践できるようにする。(1時間)</p> <p>(7) 季節の歌や生活の歌など歌の伴奏や歌を場面や必要に応じて指導できるようにする。(1時間)</p>
<p>【授業の方法】 実習。実習日誌と実習園からの評価をもとに個人面談をしてフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 『実習の手引き』埼玉純真短期大学</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館</p>	
<p>【学生に対する評価】 実習園の評価（50%）、実習日誌・事前事後の取り組み（50%）から総合的に評価。</p>	
<p>【履修上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育実習（幼稚園）Ⅰ」を履修した上でⅡを履修する。 ・実習資格は、幼稚園教育実習に直接かかわる所定の教科を履修し、実習資格審査によって認められた者に与えられる。普段の学習態度、生活態度で実習生としてふさわしい生活を心がけること 	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：片口；元保育園園長 井上；元幼稚園教諭・元保育士</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 幼稚園および保育所での現場経験を活かし、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。</p>	

2026年度 シラバス

発行日 2026年4月1日
編集・発行 埼玉純真短期大学
〒348-0045
埼玉県羽生市下岩瀬 430 番地
048-562-0711 (代)



埼玉純真短期大学